

ヲ得タル時ハ此限ニ在ラス

陪席判事檢察官被告人及ヒ民事原告人ハ更ニ証人ヲ訊問スルコト又証人ヲシテ他ノ証人ト對質セシムルコトヲ請求スルヲ得

裁判長ハ職權ヲ以テ前項ノ處分ヲ爲スコトヲ得

第三百九十五條 裁判長ハ証人愛憎畏懼ノ念ヲ生シ被告人ノ面前ニ於テ充分ナル陳述

ヲ爲スコトヲ得サル可シト思料シタル時ハ檢察官民事原告人ノ請求ニ因リ又ハ職權ヲ

以テ其証人ノ陳述中被告人ヲ退席セシムルコトヲ得

裁判長ハ証人陳述ヲ終リタル後再ヒ被告人ヲ公庭ニ呼入レ其陳述シタル條件ヲ告知

シ且被告人ニ意見アル時ハ之ヲ申立シム可シ

第三百九十六條 裁判長ハ第三百條ニ定メタル手續ノ終リタル後公訴ニ付キ辯論ノ終

結シタルコトヲ言渡スコシ

第三百九十七條 檢察官及ヒ被告人ハ辯論中ニ發見シタル條件ニ付キ豫審ヲ求ムルコト

ヲ得

裁判所ニ於テ其請求ヲ認可シタル時ハ重罪裁判所ヲ開キタル裁判所ノ判事一名ヲシ

テ豫審ヲ爲シ且其報告書ヲ差出サシム可シ

第三百五十七條 第一項ノ規則ハ本條ニ亦之ヲ適用ス

第三百九十八條 辯論終結ノ言渡アリタル時ハ檢察官法律適用ノ爲メ其意見ヲ陳述ス

可シ

被告人及ヒ辨護人ハ檢察官ノ意見其當ヲ得サルコトヲ辯論スルヲ得

第三百九十九條 前條ノ辯論ヲ終リタル後民事原告人ハ私訴ニ付キ其請求スル所ヲ陳

述スコシ被告人辨護人及ヒ民事擔當人ハ答辨ヲ爲スコトヲ得

檢察官ハ私訴ニ付キ其意見ヲ陳述スコシ

裁判所ニ於テハ私訴ノ辯論ヲ延期スルコトヲ得但閉廳前之ヲ判決スコシ

第四百條 被告事件重罪ニシテ且証憑充分ナル時ハ法律ニ從ヒ刑ノ言渡ヲ爲スコシ

又第二百二十四條第三以下ノ場合ニ於テハ免許ノ言渡ヲ爲シ且被告人ヲ放免スコシ

第四百一條 犯罪ノ証憑充分ナラサル時ハ無罪ノ言渡ヲ爲シ且被告人ヲ放免スコシ

又原被ノ要償ニ付キ第三百九十九條ノ規則ニ從ヒ裁判言渡ヲ爲スコシ

第四百二條 辯論中公訴狀ニ記載シタル事件ニ附帶セサル他ノ重罪輕罪ヲ發見シタル

場合ニ於テ檢察官ノ請求アル時ハ重罪裁判所ヲ開キタル裁判所ノ判事一名ヲシテ豫

審ヲ爲サシメ本會又ハ次會ニ於テ本案ノ事件ト共ニ之ヲ裁判スコシ

第四百三條 檢察官其他訴訟關係人ハ重罪裁判所ノ對審裁判言渡ニ對シ上告ヲ爲スコト

ヲ得

第四百四條 關席裁判ヲ爲スコハ裁判長書記ヲシテ公訴狀及ヒ必要ナリトスル豫審書

類ヲ朗讀セシメ又原被証人ノ陳述ヲ聽ク可シ

檢察官ハ法律ノ適用ニ付キ意見ヲ陳述シ民事原告人ハ要償ニ付キ意見ヲ陳述スコシ

民事擔當人ハ答辨スルコトヲ得

第四百五條 闕席裁判言渡書ハ檢察官其他訴訟關係人ノ請求ニ因リ本人又ハ其住所ニ送達ス可シ

第四百六條 闕席裁判ニ係ル刑ノ言渡ニ對シテハ檢察官ニ非カレハ上告ヲ爲ス可シ

民事原告人及ヒ民事擔當人ハ私訴ノ裁判言渡ニ對シ上告ヲ爲ス可シ

第四百七條 闕席裁判ニ因リ刑ノ言渡ヲ受ケタル者ハ刑ノ期滿免除ニ至ルマテ何時ニテモ故障ヲ爲ス可シ得但捕ニ就キタル時ハ十日内ニ故障ヲ爲ス可シ

第四百八條 故障ノ申立ハ闕席裁判ヲ爲シタル重罪裁判所ニ之ヲ爲ス可シ
重罪裁判所ニ於テハ先ツ其故障ヲ受理ス可キヤ否ヲ判決ス可シ
其故障ヲ受理ス可キ者ト判決シタル時ハ本會又ハ次會ニ於テ通常ノ規則ニ從ヒ更ニ裁判ヲ爲ス可シ

第四百九條 闕席裁判ヲ爲シタル重罪裁判所閉廳ノ後ハ其地ヲ管轄スル控訴裁判所ニ故障ノ申立ヲ爲ス可シ

控訴裁判所ニ於テ其故障ヲ受理ス可キ者ト判決シタル時ハ通常ノ規則ニ從ヒ更ニ重罪裁判所ノ裁判ヲ受シ可キノ言渡ヲ爲ス可シ

第五編 大審院ノ職務

第一章 上告

第四百十條 檢察官及ヒ被告人ハ豫審又ハ公判ノ言渡ニ對シ左ノ場合ニ於テ上告ヲ爲ス可シ

ス可シ得

一 法律ニ背キ忌避ノ申立ヲ認可セサル時

二 裁判所ノ構成規則ニ背キタル時

三 法律ニ背キ管轄違又ハ管轄ナリトノ言渡若クハ管轄ニ非サル裁判所ニ事件ヲ移スノ言渡アリタル時

四 法律ニ於テ無効ノ記載アル規則ニ背キタル時又ハ無効ノ記載ナキ規則ニ背キタルニ因リ異議ノ申立アリタル場合ニ於テ之ヲ認可セサル時

五 法律ニ背キ公訴ヲ受理シ又ハ受理セサル時

六 法律ニ定メタル場合ニ於テ檢察官ノ意見ヲ聽カサル時

七 裁判所ニ於テ請求ヲ受ケタル事件ニ付キ判決ヲ爲サス又ハ職權ヲ以テ判決スルヲ得可キ場合ヲ除クノ外請求ヲ受ケサル事件ニ付キ判決ヲ爲シタル時

八 裁判言渡ヲ公行セス又ハ傍聽ヲ禁スルノ言渡ナクシテ訊問及ヒ辨論ヲ公行セサル時

九 事實及ヒ法律ニ依リ言渡ノ理由ヲ付セス又ハ其理由ノ齟齬アル時

十 擬律ノ錯誤アル時

十一 越權ノ處分アル時

第四百十一條 免訴又ハ無罪ノ言渡アリタル場合ニ於テハ被告人ノ利益ノ爲メ定メタル規則ニ背キタル又ハ犯罪ノ場所ニ因リ管轄違アリト雖モ上告ヲ爲ス可シ

第四百十二條 民事原告人被告人及ヒ民事擔當人ハ私訴ニ關スル豫審又ハ公判ノ言渡ニ對シ第四百十條ニ定メタル理由ニ付キ上告ヲ爲スヲ得

第四百十三條 上告ノ對手人ハ大審院ノ判決アルマテ何時ニテモ附帶ノ上告ヲ爲スヲ得

大審院檢事長モ亦附帶ノ上告ヲ爲スヲ得

第四百十四條 上告ノ期限ハ三日ナリトス但豫審ニ付テハ言渡書ノ送達アリタルヨリ起算シ公判ニ付テハ言渡アリタルヨリ起算ス

第四百十五條 豫審又ハ公判ノ言渡ニ對シ上告アリタル時ハ勾留保釋責付釋放及ヒ放免ノ言渡ヲ除クノ外其執行ヲ停止ス

第四百十六條 上告ヲ爲サントスル者ハ其申立書ヲ原裁判所ノ書記局ニ差出ス可シ

第四百十七條 上告申立人ハ其申立ヲ爲シタルヨリ五日內ニ趣意書ヲ原裁判所ノ書記局ニ差出ス可シ

第四百十八條 對手人ハ上告趣意書ヲ受取リタルヨリ五日內ニ答辨書ヲ原裁判所ノ書記局ニ差出ス可シ

第四百十九條 檢察官ヨリ差出ス可キ上告趣意書又ハ答辨書ハ二通ヲ作り一通ヲ大審院ニ差出シ一通ヲ對手人ニ送達ス可シ

第四百二十條 書記ハ前數條ニ定メタル期限經過シタル後速ニ訴訟書類及ヒ上告書類ヲ其裁判所ノ檢察官ニ差出ス可シ

第四百二十一條 上告申立人及ヒ對手人ハ代理人ヲ差出スヲ得

第四百二十二條 院長ハ刑事局判事ニテ專任判事一名ヲ命ス可シ

第四百二十三條 上告申立人及ヒ對手人ハ專任判事ノ報告書ヲ差出スマテハ大審院書記局ヲ經由シテ其趣意ヲ擴張ス可キ辨明書ヲ差出スヲ得

第四百二十四條 書記ハ開廷ヨリ三日前ニ開廷ノ日時ヲ上告申立人及ヒ對手人ノ代理人ニ報知ス可シ

第四百二十五條 書記ハ開廷ヨリ三日前ニ開廷ノ日時ヲ上告申立人及ヒ對手人ノ代理人ニ報知ス可シ

第四百二十六條 書記ハ開廷ヨリ三日前ニ開廷ノ日時ヲ上告申立人及ヒ對手人ノ代理人ニ報知ス可シ

第四百二十七條 書記ハ開廷ヨリ三日前ニ開廷ノ日時ヲ上告申立人及ヒ對手人ノ代理人ニ報知ス可シ

第四百二十八條 書記ハ開廷ヨリ三日前ニ開廷ノ日時ヲ上告申立人及ヒ對手人ノ代理人ニ報知ス可シ

第四百二十九條 書記ハ開廷ヨリ三日前ニ開廷ノ日時ヲ上告申立人及ヒ對手人ノ代理人ニ報知ス可シ

第四百三十條 書記ハ開廷ヨリ三日前ニ開廷ノ日時ヲ上告申立人及ヒ對手人ノ代理人ニ報知ス可シ

第四百二十五條 開廷ノ日ニハ公廷ニ於テ專任判事其報告書ヲ朗讀ス可シ

檢事長及ヒ代言人ハ各其趣意ヲ辨明ス可シ

私訴ノ上告ニ付テハ檢事長最終ニ其意見ヲ陳述ス可シ

第四百二十六條 上告申立人又ハ對手人ヨリ代言人ヲ差出サ、ル時ハ其儘ニテ判決ヲ爲ス可シ

第四百二十七條 大審院ニ於テ上告ノ理由ナントスル時ハ之ヲ棄却スルノ言渡ヲ爲ス可シ

第四百二十八條 大審院ニ於テ豫審又ハ公判ノ言渡ニ對スル上告ニ付キ破毀ノ原由アリトスル時ハ其言渡ノ全部ヲ破毀シ其事件ヲ他ノ裁判所ニ移スノ言渡ヲ爲ス可シ但後ノ數條ニ記載シタル場合ハ此限ニ在ラス

第四百二十九條 擬律ノ錯誤若クハ法律ニ背キ公訴ヲ受理シ又ハ受理セサルトニ因リ原裁判言渡ヲ破毀シタル時ハ其事件ヲ移スノナク大審院ニ於テ直チニ裁判言渡ヲ爲ス可シ

第四百三十條 豫審又ハ公判ノ手續規則ニ背キタルトアリト雖モ其後ノ手續ニ利害ヲ及ホサル時ハ其事件ヲ他ノ裁判所ニ移スノナク止ク其手續ヲ破毀ス可シ

第四百三十一條 豫審又ハ公判ノ言渡ノ幾分ニ對シ上告アリタル場合ニ於テ他ノ部分ニ關係アラサル時ハ大審院ニ於テ其上告ニ係ル幾分ヲ破毀シ法律ニ從ヒ直チニ相當ノ裁判言渡ヲ爲シ又ハ其事件ヲ他ノ裁判所ニ移ス可シ

第四百三十二條 大審院ニ於テ原裁判言渡ヲ破毀シ直チニ裁判言渡ヲ爲シタル時ハ原裁判所又ハ他ノ裁判所ヲシテ其執行ヲ爲サシム可シ

第四百三十三條 大審院ニ於テ破毀シタル事件ヲ他ノ裁判所ニ移スノ言渡ヲ爲ス可キ時ハ原裁判所ニ接近シタル同等ノ裁判所ヲ定示ス可シ其單ニ私訴ニ係ル事件ハ之ヲ民事裁判所ニ移ス可シ

第四百三十四條 法律ニ係ル大審院ノ判決ハ確定ノ者トス
大審院ヨリ送付ヲ受ケタル裁判所ノ裁判言渡ニ對シテハ通常ノ規則ニ從ヒ更ニ上告ヲ爲スノ得

第四百三十五條 法律ニ於テ罰セサル所爲ニ對シ刑ヲ言渡シ又ハ相當ノ刑ヨリ重キ刑ヲ言渡シタル場合ニ於テ定期内ニ上訴スル者ナクシテ其裁判言渡確定シタル時ハ大審院檢事長ヨリ司法卿ノ命ニ因リ又ハ職權ヲ以テ何時ニテモ非常上告ヲ爲スノ得
第四百三十六條 左ノ場合ニ於テハ大審院ノ裁判言渡ニ對シ檢事長其他訴訟關係人ヨリ其院ニ哀訴スルノ得

一大審院ニ於テ前數條ニ定メタル式ヲ履行セサル時
二訴訟關係人ヨリ申立タル條件ニ付キ判決ヲ爲サ、ル時
三同一ノ裁判言渡ニ付キ二箇ノ條件齟齬シタル時
第四百三十七條 哀訴ヲ爲サントスル者ハ裁判言渡アリタルヨリ三日内ニ書記局ニ其

申立ヲ爲ス可シ

書記ハ申立書ヲ受取リタルヨリ三日内ニ之ヲ對手人ニ送達シ對手人ハ同一ノ期限内ニ其答辨書ヲ差出ス可シ

大審院ニ於テハ通常上告ノ規則ニ從ヒ哀訴ノ判決ヲ爲ス可シ

第四百三十八條 大審院ノ裁判言渡ハ其言渡アリタルヨリ三日間又哀訴アリタル時ハ其判決アルマテ執行ヲ停止ス

第二章 再審ノ訴

第四百三十九條 再審ノ訴ハ左ノ場合ニ於テ重罪輕罪ノ刑ノ言渡ニ對シ被告人ノ利益ノ爲メ之ヲ爲スコトヲ得但裁判確定ノ後ニ非サレハ之ヲ爲スコトヲ得ス

一人ヲ殺シタル罪ニ付キ刑ノ言渡アリタル後其言渡ノ日ニ當リ殺サレタリト認メラレシ者現ニ生存シ又ハ犯罪前既ニ死去シタルノ確證アリタル時

二同一ノ事件ニ付キ共犯ニ非スシテ別ニ刑ノ言渡ヲ受ケタル者アリタル時

三犯罪アル以前ニ作リタル公正ノ證書ヲ以テ當時其場所ニ在ラサルコトヲ證明シタル時

四被告人ヲ陷害シタル罪ニ因リ刑ノ言渡ヲ受ケタル者アリタル時

五公正ノ證書ヲ以テ訴訟書類ニ偽造又ハ錯誤アルコトヲ證明シタル時

第四百四十條 再審ノ訴ヲ爲スコトヲ得可キ者左ノ如シ

一刑ノ言渡ヲ爲シタル裁判所ノ檢察官

二刑ノ言渡ヲ爲シタル裁判所ヲ管轄スル控訴裁判所ノ檢察官

三大審院檢察長但司法卿ノ命ニ因リ又ハ職權ヲ以テ其訴ヲ爲ス可シ

四刑ノ言渡ヲ受ケタル者

五刑ノ言渡ヲ受ケタル者死去シタル時ハ其親屬

第四百四十一條 再審ノ訴ハ刑ノ消滅シタルニ拘ハラス何時ニテモ之ヲ爲スコトヲ得

第四百四十二條 再審ノ訴ヲ爲サントスル者ハ其趣意書ニ原裁判言渡書ノ謄本及ヒ証

憑書類ヲ添ヘ之ヲ原裁判所ノ書記局ニ差出ス可シ

原裁判所ノ檢察官ハ其書類ニ意見書ヲ添ヘ之ヲ大審院檢察長ニ差出ス可シ

原裁判所ノ檢察官及ヒ控訴裁判所檢察官自ラ再審ノ訴ヲ爲サントスル時ハ前項ノ手續ニ從ヒ其書類ヲ差出ス可シ

第四百四十三條 大審院ニ於テハ檢察長ノ請求ニ因リ速ニ專任判事一名ヲシテ其取調

ヲ爲シ報告書ヲ差出サシム可シ

第四百四十四條 大審院ニ於テハ他ノ事件ヲ閣キ刑事局判事全員會議局ニ集會シ專任

判事ノ報告書及ヒ檢察長ノ意見書ニ依リ判決ヲ爲ス可シ

第四百四十五條 大審院ニ於テ再審ノ原由アルコトヲ認メタル時ハ原裁判言渡ヲ破毀シ

公訴及ヒ私訴ニ付キ再審ヲ爲ス可キコトヲ言渡シ其事件ヲ原裁判所ト同等ナル他ノ裁

判所ニ移ス可シ

其送付ヲ受ケタル裁判所ニ於テハ通常ノ規則ニ從ヒ裁判ヲ爲ス可シ

第四百四十六條 死者ノ親屬ヨリ再審ノ訴ヲ爲シタル場合ニ於テ大審院ニテ再審ノ原由アルヲ認メタル時ハ其事件ヲ他ノ裁判所ニ移スヲナク原裁判言渡ヲ破毀ス可シ
第四百四十七條 再審ノ裁判ニ因リ無罪ノ言渡アリタル時又ハ前條ノ場合ニ於テ破毀ノ言渡アリタル時ハ其者ノ名譽ヲ復スル爲メ其言渡書ヲ揭示公告ス可シ

第三章 裁判管轄ヲ定ムルノ訴

第四百四十八條 通常裁判所ト特別裁判所トトキ問ハス管轄ニ非サルノ言渡ヲ爲シ其言渡確定シタル時又忌避ノ理由若クハ非常ノ事變ニ因リ訴訟事件ヲ管理スルヲ能ハサル時ハ檢察官其他訴訟關係人ヨリ裁判管轄ヲ定ムルノ訴ヲ爲スヲ得

大審院檢察長ハ司法卿ノ命ニ因リ又ハ職權ヲ以テ其訴ヲ爲スヲ得

第四百四十九條 裁判管轄ヲ定ムルノ訴ヲ爲サントスル者ハ其趣意書ニ訴訟書類ヲ添ヘ之ヲ大審院ノ書記局ニ差出ス可シ

第四百五十條 大審院ニ於テハ刑事事局判事五名以上會議局ニ集會シ專任判事ノ報告書及ヒ檢察長ノ意見書ニ依リ裁判管轄ヲ定ムルノ訴ヲ判決シ其事件ヲ管理ス可キ裁判所ヲ定示ス可シ

第四章 公安又ハ嫌疑ノ爲メ裁判管轄ヲ移スノ訴

第四百五十一條 犯罪ノ性質被告人ノ身分員數地方ノ民心其他重大ナル事情ニ因リ裁判ニ對シ紛擾又ハ危險ヲ生スルノ恐アル時ハ公安ノ爲メ其事件ヲ同等ナル他ノ裁判所ニ移スヲ得

第四百五十二條 公安ノ爲メ裁判管轄ヲ移スノ訴ハ司法卿ノ命ニ因リ大審院檢察長ヨリ其院ニ之ヲ爲ス可シ

第四百五十三條 大審院ニ於テハ會議局ニテ訴訟關係人ノ申立ヲ聽クヲナク速ニ前條ノ訴ヲ判決ス可シ

第四百五十四條 被告人ノ身分地方ノ民心又ハ訴訟ノ模様ニ因リ裁判ノ公平ヲ維持スルヲ能ハサルノ恐アル時ハ嫌疑ノ爲メ其事件ヲ同等ナル他ノ裁判所ニ移スヲ得

第四百五十五條 嫌疑ノ爲メ裁判管轄ヲ移スノ訴ハ管轄裁判所ノ檢察官其他訴訟關係人ヨリ之ヲ爲スヲ得

民事原告人嫌疑アル裁判所ニ私訴ヲ爲シ又被告人其裁判所ニ於テ異議ノ申立ヲシテ本案ニ付キ辯論ヲ爲シタル時ハ前項ノ訴ヲ爲スヲ得

第四百五十六條 嫌疑ノ爲メ裁判管轄ヲ移スノ訴ヲ爲スニハ其趣意書ニ通テ原裁判所ノ書記局ニ差出ス可シ

書記ハ速ニ一通ヲ對手人ニ送達シ對手人ハ其送達アリタルヨリ三日内ニ答辯書ヲ差出スヲ得

第四百五十七條 大審院ニ於テ第四百五十條ノ規則ニ從ヒ前條ノ訴ヲ判決ス可シ

第四百五十八條 嫌疑ノ爲メ裁判管轄ヲ移スノ訴アリタル時ハ裁判所ニ於テ其訴訟手續ヲ停止ス

第六編 裁判執行復權及ヒ特赦

第一章 裁判執行

第四百五十九條 重罪輕罪違警罪ノ刑ハ裁判確定ノ後ニ非サレハ之ヲ執行ス可カラス
第四百六十條 死刑ノ言渡確定シタル時ハ檢察官ヨリ速ニ訴訟警類ヲ司法卿ニ差出ス可シ

司法卿ヨリ死刑ヲ執行ス可キノ命令アリタル時ハ三日内ニ其執行ヲ爲ス可シ

第四百六十一條 死刑ヲ除クノ外刑ノ言渡確定シタル時ハ直チニ之ヲ執行ス可シ

第四百六十二條 刑ノ執行ハ原裁判所ノ檢察官又ハ大審院ヨリ命ヲ受ケタル裁判所ノ檢察官ノ指揮ニ因リ之ヲ爲ス可シ

罰金科料裁判費用及ヒ沒收物品ハ檢察官ノ命令書ニ依リ之ヲ徵收ス可シ
破壊又ハ廢棄ス可キ沒收物品ハ檢察官之ヲ處分ス可シ

第四百六十三條 死刑ノ執行ニ付テハ書記其始末書ヲ作り刑ノ執行規則ニ從ヒ立會ヲ爲シタル官吏ト共ニ署ニ捺印ス可シ

其他刑ノ執行ニ關スル方法細目ハ別ニ規則ヲ以テ之ヲ定ム

第四百六十四條 裁判言渡確定シ又ハ闕席裁判アリタル時ハ其刑ノ言渡ヲ爲シタル裁判所ノ書記既決犯罪表ヲ作り左ノ條件ヲ記載ス可シ但大審院ニ於テ刑ノ言渡ヲ爲シタル時ハ其執行ヲ爲シタル裁判所ノ書記之ヲ作ル可シ

一犯人ノ氏名年齢職業住所及ヒ出生ノ地

二罪名刑名

三再犯

四裁判言渡ヲ爲シタル年月日

五對審裁判又ハ闕席裁判

第四百六十五條 既決犯罪表ハ二通ヲ作り一通ヲ司法省ニ送致シ一通ヲ其裁判所ノ書記局ニ藏置ス可シ

違警罪ノ既決犯罪表ハ一通ヲ作り其裁判所ノ書記局ニ藏置ス可シ

第四百六十六條 刑ノ言渡ヲ受ケタル者其言渡ノ條件ニ付キ疑義ノ申立又ハ其執行ニ付キ異議ノ申立ヲ爲シタル時ハ刑ノ言渡ヲ爲シタル裁判所ニ於テ之ヲ判決ス可シ

第四百六十七條 刑ノ言渡ヲ受ケタル者逃亡ノ後捕ニ就キタル場合ニ於テ人違ノ申立アリタル時ハ之ヲ認定スル爲メ前ニ其罪ヲ認メタル裁判所ニ送致ス可シ

裁判所ニ於テ本犯ナルヲ認定スルヲ能ハサル時ハ事實參考ノ爲メ曾テ其事件ニ干預シタル裁判官檢察官書記又ハ原被ノ證人ヲ呼出スヲ得

第四百六十八條 前二條ノ場合ニ於テハ公廷ニテ刑ノ言渡ヲ受ケタル者ノ申立及ヒ檢察官ノ意見ヲ聽キ裁判言渡ヲ爲ス可シ但其言渡ニ對シテハ上訴ヲ許サス

第四百六十九條 賠償及ヒ訴訟關係人ニ償還ス可キ裁判費用ニ付キ其言渡ノ執行ハ通常民事ノ規則ニ從フ

第二章 復權

第四百七十條 復權ノ願ハ刑法第六十三條ニ定メタル期限經過シタル後刑ノ言渡ヲ受

ケタル者ヨリ司法卿ニ之ヲ爲ス可シ

復権ノ願書ニハ本人署名捺印シ現ニ住スル地ノ始審裁判所檢事ニ之ヲ差出ス可シ

第四百七十一條 復権ノ願書ニハ左ノ書類ヲ添フ可シ

一 裁判言渡書ノ謄本

二 主刑ノ満期特赦又ハ期滿免除ト爲リタルコトヲ證明スル書類

三 假出獄及ヒ假ニ監視ヲ免セラレタルノ證書

四 賠償及ヒ裁判費用ヲ辨濟シ又ハ其義務ヲ免ケタルノ證書

五 過去現在ノ住所及ヒ生計ヲ記載スル書類

第四百七十二條 檢事ハ願人ノ品行其他必要ノ取調ヲ爲シ前條ノ書類ニ意見書ヲ添ヘ

之ヲ控訴裁判所檢事長ニ差出ス可シ

第四百七十三條 檢事長ハ更ニ必要ノ取調ヲ爲シ復権ノ願ニ關スル書類ニ意見書ヲ添

ヘ之ヲ司法卿ニ差出ス可シ

第四百七十四條 司法卿ハ復権ノ願ニ關スル書類ヲ檢閲シ其願ヲ允許ス可キ者ト認メ

タル時ハ速ニ上奏ス可シ

第四百七十五條 勅裁又ハ司法卿ノ意見ニ因リ復権ノ願ヲ棄却シタル時ハ司法卿ヨリ

其旨ヲ控訴裁判所檢事長ニ通知シ檢事長ヨリ願書ヲ差出シタル始審裁判所檢事ニ通

知ス可シ

前項ノ場合ニ於テハ刑法第六十三條ニ定メタル期限ノ半ヲ經過スルニ非サレハ更ニ

其願ヲ爲スコトヲ得ス

更ニ復権ノ願ヲ爲スニ付テモ亦前數條ノ規則ニ從フ

第四百七十六條 復権ノ裁可アリタル時ハ司法卿ヨリ其裁可狀ヲ控訴裁判所檢事長ニ

送致シ檢事長ヨリ願書ヲ差出シタル始審裁判所檢事ニ送致ス可シ

檢事ハ裁可狀ノ謄本ヲ願人ニ下付ス可シ

又刑ノ言渡ヲ爲シタル裁判所ニ裁可狀ノ謄本ヲ送致シ其裁判所ニ於テハ之ヲ裁判言

渡書ニ記入ス可シ

第三章 特赦

第四百七十七條 特赦ハ刑ノ言渡確定シタル後何時ニテモ檢察官又ハ監獄長ヨリ犯人

ノ情狀ヲ具シ司法卿ニ申立ルコトヲ得

監獄長ヨリ特赦ノ申立ヲ爲ス時ハ檢察官ヲ經由ス可シ但檢察官ハ意見書ヲ添フ可シ

特赦ノ申立アリタル時ハ司法卿ヨリ其書類ニ意見書ヲ添ヘ上奏ス可シ

第四百七十八條 司法卿ハ刑ノ言渡確定シタル後何時ニテモ特赦ノ申立ヲ爲スコトヲ得

死刑ヲ除クノ外特赦ノ申立アリト雖モ刑ノ執行ヲ停止セス

第四百七十九條 特赦ノ申立棄却アリタル時ハ司法卿ヨリ刑ノ言渡ヲ爲シタル裁判所

ノ檢察官ニ其旨ヲ通知ス可シ

第四百八十條 特赦ノ裁可アリタル時ハ司法卿ヨリ刑ノ言渡ヲ爲シタル裁判所ノ檢察

官ニ特赦狀ヲ送致ス可シ此場合ニ於テハ第四百七十六條ノ規則ニ從フ

○治罪法中書類送達以下七項施行

明治十四年九月二十日
第四十六號布告

治罪法第廿四條參看
同第四十條參看

書類送達ニ付治罪法第二十四條ノ制限有之候ヘトモ當分ノ内ハ不及其儀候事
治罪法第四十條ニ犯罪ノ地ヲ以テ裁判管轄ト規定有之候處當分ノ内犯罪ノ地分明ナル被告人ト雖モ管轄裁判所ヨリ囑託アリタル時ハ其被告人逮捕ノ地ノ裁判所之ヲ管轄スヘシ

同第七十三條參看

治罪法第七十三條第二項ニ陪席判事四名ト有之候ヘトモ當分ノ内二名ト相定候事

同第百壹條參看

治罪法第百一條ニ准現行犯ノ場合列記有之候處其舉動犯人ト思料スヘキ者アル時ハ當分ノ内現行犯ニ准シ處分スルヲ得

同第百三條參看

治罪法第百三十三條第三項ニ家宅搜索ノ制限有之候ヘトモ芝居人寄席飲食店湯屋遊船宿待合茶屋ノ類ハ日出前日没後ト雖モ其營業ヲ爲ス時間又旅籠屋貸座敷ハ日出前日没後ニ拘ハラス搜索致シ苦シカラス

同第百六十八條第百七十二條參看

治罪法第百六十八條第百七十二條ニ於テ治安判事ニ囑託スルヲ許シタル處分ハ當分ノ内其地ノ司法警察官ニモ囑託スルヲ得

同第百五十五條參看

治罪法第百五十五條第一項但書ニ司法警察官ハ令狀ヲ發スルヲ得サル旨記載有之候ヘトモ當分ノ内現行犯ノ場合ニ限り令狀ヲ發シ苦シカラス

○刑事裁判所ニ於テ被告人ヲ責付スルノ手續

明治十四年九月十二日
第四十七號布告

刑事裁判所ニ於テ被告人ヲ責付スルニハ左ノ手續ニ從フヘシ此旨布告候事

第一條 被告人ヲ責付スルニハ親屬又ハ故舊ヨリ何時ニテモ呼出ニ應シ出廷セシムヘキノ証書ヲ其裁判所書記局ニ差出サシムヘシ

第二條 責付中被告人ヲ呼出ス時ハ出廷ヨリ二十四時前ニ其通知ヲ爲スヘシ

第三條 被告人呼出ヲ受ケ正當ノ事由ナクシテ出廷セサル時ハ檢事ノ意見ヲ聽キ責付ヲ取消スヘシ

○治安裁判所ニ於テ輕罪裁判所ヲ開キ輕罪裁判ヲ爲ス

手續
明治十四年十月六日
第五十四號布告

刑法治罪法實施ノ儀布告候ニ付テハ當分ノ内輕罪ニシテ檢察官ニ於テ豫審ヲ要セスト見込ムモノニ限り始審裁判所所在ノ地ヲ除クノ外治安裁判所ニ於テ輕罪裁判所ヲ開キ其裁判ヲ爲スヲ得ヘシ此旨布告候事

但本文ノ場合ニ於テ認廷内治罪ノ手續ハ便宜可取計且其手續上ニ付テハ上訴ヲ許サス

○陪席判事及補充判事ハ其裁判所長又ハ院長ノ指定ス

ル所ニ任ス
明治十四年十月六日
第五十五號布告

治罪法第七十三條末文陪席判事第七十九條第二項補充判事ノ儀當分其裁判所長又ハ院長ノ臨時指定スル所ニ任シ候條此旨布告候事

治罪法第七十三條及第七十九條參看

治罪法第五十二條參看

○小笠原島違警罪及輕罪重罪裁判管轄及治罪手續

年十月七日
第五十六號布告

治罪法第四
十九條參看

小笠原島裁判事務當分東京府出張所ニテ治安裁判所即ち違警罪及輕罪ノ權限ヲ以テ裁判セシメ刑事事控訴及重罪裁判ハ東京控訴裁判所ノ管轄ト相定明治十五年一月一日ヨリ施行候條此旨布告事

但該島ニ於テ治罪ノ手續ハ適宜取扱フヘシ

○伊豆七島違警罪輕罪裁判管轄及治罪手續

第五十七號
布告

治罪法第四
十九條參看

伊豆七島裁判事務當分該島吏ハ民事ハ百圓以下及勸解并ニ刑事ハ違警罪裁判ヲ委任シ民事百圓以上刑事輕罪以上ハ東京始審裁判所ノ管轄ト相定明治十五年一月一日ヨリ施行候條此旨布告候事

但該島ニ於テ裁判治罪ノ手續ハ適宜取扱フヘシ

○豫審判事ノ拘引セシメタル被告人留置方

第五十九號
布告

治罪法第百
廿二條參看

治罪法中豫審判事勾引狀ヲ發シ勾引セシメタル被告人ハ時宜ニ依リ其訊問期限四十八時間ニ在ル夜間ニ限り裁判所又ハ最寄警察署留置場ニ入置クヘシ此旨布告候事

○商船内犯罪取扱規則

明治十四年十二月十五日
第六十九號布告

商船内犯罪取扱規則別紙ノ通制定ス
右奉 勅旨布告候事

(別紙)

商船内犯罪取扱規則

第一條 何人タリトモ商船内ニ於テ重罪輕罪アルコトヲ認知シ又ハ重罪輕罪ニ因リ損害

ヲ受ケタル者ハ船長ニ告訴告發ヲ爲スコトヲ得

第二條 船長告訴告發ヲ受ケタル時又ハ重罪輕罪ノ現行犯アルコトヲ知りタル時ハ其事

件ニ付假ニ訊問檢証ノ處分ヲ爲シ且証憑及ヒ事實參考ト爲ルヘキ事物ヲ集取シ調書

ヲ作ルヘシ但調書ヲ作ルコト能ハサル時ハ第三條ニ記載シタル官吏ニ其申立ヲ爲スヘ

シ

前項ノ場合ニ於テハ立會人二名以上アルヲ要ス

第三條 船長ハ証憑及ヒ事實參考ト爲ルヘキ事物ヲ取纏メ被告人ト共ニ該船碇泊又ハ

着港ノ地ノ檢事又ハ司法警察官ニ引渡スヘシ若シ外國ノ港埠ニ着シタル時ハ其地駐

割ノ領事ニ之ヲ引渡スヘシ

○治安裁判所ニ於テ輕罪裁判所ヲ開ク時警部檢事ノ職

務ヲ代理ス

明治十四年十二月二十八日
第七十一號布告

治安裁判所ニ於テ輕罪裁判所ヲ開ク時ハ當分ノ内其所在ノ地警部ヲシテ檢事ノ職務ヲ代理セシム

右奉 勅旨布告候事

○治罪法ニ於テ無能力者法律ニ定メタル代人及民事擔當人ト稱スル者 明治十四年十二月廿八日 第七十三號布告

治罪法ニ於テ無能力者法律ニ定メタル代人及ヒ民事擔當人ト稱ス者ハ左ノ通

無能力者

- 一未丁年者
- 二妻タル者
- 三白痴瘋癲人
- 四治産ノ禁ヲ受ケタル者

法律ニ定メタル代人

- 一未丁年者ノ父若クハ母又ハ親屬後見人
- 二夫タル者
- 三白痴瘋癲人ノ保管者
- 四治産ノ禁ヲ受ケタル者ノ財産管理人

民事擔當人

- 一未丁年者ノ父若クハ母又ハ同居ノ親屬ニシテ監督ヲ爲ス者
- 二夫タル者
- 三白痴瘋癲人ノ保管者
- 四雇主 但雇人其雇主ノ命シタル事件ヲ行フ時

右奉 勅旨布告候事

○裁判所所屬ノ代言人無之場所ハ辯護人ヲ用ヒサルモ刑ノ言渡ハ無效ノ限ニアラス 明治十五年一月九日 第五號布告

治罪法第三百八十一條第一項ニ若シ辯護人ナクシテ辨論ヲ爲シタル時ハ刑ノ言渡ノ效

ナカルヘント有之候得共其裁判所所屬ノ代言人無之場所ニ於テハ當分ノ内辯護人ヲ用ヒサルモ其刑ノ言渡ハ無效ノ限リニ在ラス

治罪法第三
百八十一條
參看

右奉 勅旨布告候事

○治罪法第十九條海上路程猶豫ノ割合 明治十五年二月一日 第七號布告

治罪法第十九條第二項海上路程ノ猶豫ハ陸路四里ノ割合ヲ以テ一日ヲ加フルモノト定

ム

右奉 勅旨布告候事

○樺戸集治監ノ囚人輕罪以下ノ罪ヲ犯シタル者裁判手

續 明治十五年三月三日 第十六號布告

樺戸集治監ノ囚人 假出獄免幽閉ノ者トモ 罪ヲ犯シ輕罪以下ニ該ル者ハ司獄官吏ニ於テ裁判シ治罪ノ

手續モ便宜取計フヘシ

但重罪ハ函館重罪裁判所ノ管轄ニ屬ス

右奉 勅旨布告候事

○憲兵將校下士ハ司法警察官トシ卒ハ巡查ト同ク司法警察ノ事務ヲ行ハシム 明治十五年五月十三日 第二十三號布告

憲兵ヲ設置シタル地方ニ於テハ其將校下士ハ司法警察官トシ卒ハ巡查ト同ク司法警

察ノ事ヲ行ハシム

右奉 勅旨布告候事

○札幌根室始審裁判所治罪手續等 明治十五年六月二十日 第三十號布告

治罪法第六
十一條參看

治罪法第三
八條參看

治罪法第十
九條參看

治罪法第七
十條參看

札幌根室ノ各始審裁判所ニ於テハ當分ノ内治罪ノ手續便宜取計且重罪犯ハ之ヲ審訊シ
證憑擬律按ヲ具ヘ函館控訴裁判所ノ批可ヲ得テ後宣告スヘシ
右奉 勅旨布告候事

○沖繩縣管内重罪處分方及治罪手續 明治十五年七月八日
第三十三號布告

十四年第七
十八號布告
八十六年第七
三十三號布
告ヲ以テ廢
ス

明治十四年十二月 第七十八號ヲ以テ重罪裁判所管轄區畫布告候處沖繩縣管内重罪犯處分
ノ儀ハ當分ノ内同縣ニ於テ審訊シ證憑擬律按ヲ具ヘ長崎控訴裁判所ノ批可ヲ得テ後宣
告スヘシ

治罪法第七
十條參看

治罪ノ手續ハ便宜ノ取計ヲ爲スコトヲ得
右奉 勅旨布告候事

○空知集治監ノ囚人輕罪以下ノ罪ヲ犯シタル者裁判及
治罪手續 明治十五年八月十二日
第四十一號布告

治罪法第三
十八條參看

空知集治監ノ囚人假出獄免幽
閉ノ者トモ罪ヲ犯シ輕罪以下ニ該ル者ハ司獄官吏ニ於テ裁判シ治罪ノ
手續モ便宜取計ヲヘシ
但重罪ハ函館重罪裁判所ノ管轄ニ屬ス
右奉 勅旨布告候事

○現行犯訊問時間五日內ニ於テスルコトヲ得 明治十五年十一
月十三日
第五十三號
布告

治罪法第二
百六條參看

治罪法第二百六條第二百七條中二十四時内ト有之處已ムヲ得サル場合ニ於テハ當分ノ
内五日以内ニ於テスルコトヲ得
右奉 勅旨布告候事

○始審裁判所ニ於テ重罪裁判所ヲ開クキ其所長ヲ裁判
長ト爲スコトヲ得 明治十六年一月十日
第三號布告

治罪法第七
十三條參看

始審裁判所ニ於テ重罪裁判所ヲ開ク時ハ當分ノ内始審裁判所長ヲ以テ其裁判長ト爲ス
コトヲ得
但沖繩縣札幌縣根室縣ノ儀ハ從前ノ通タル可シ

右奉 勅旨布告候事

○裁判所ニ於テ豫審ヲ爲ス時書記ノ立會ナクシテ被告
人證人ヲ訊問スルコトヲ得 明治十六年三月七日
第八號布告

治罪法第百
四十八條參
看

豫審判事裁判所ニ於テ豫審ヲ爲ス時ハ當分ノ内書記ノ立會ナクシテ被告人證人ヲ訊問
スルコトヲ得

右奉 勅旨布告候事

○重罪裁判所管ハ始審裁判所管内ヲ以テ區劃ト定ム

明治十六年九月七日
第三十三號布告

明治十四年十二月 第七十八號布告ヲ廢シ自今重罪裁判所ノ管轄ハ各始審裁判所管内ヲ以

治罪法第七
十條參看

テ一區劃ト定メ各其地名ヲ冒シ某重罪裁判所ト名稱ス
但沖繩縣札幌縣根室縣ノ地方ハ從前ノ通
右奉 勅旨布告候事

○樺戸空知兩集治監ノ囚人重罪ヲ犯シタル者札幌始審
裁判所ニ於テ處分ス 明治十六年十一月十日
第三十八號布告

樺戸空知兩集治監ノ囚人假出獄免幽
閉ノ者トモ罪ヲ犯シ重罪ニ該ル者ハ當分ノ内札幌始審裁判所ニ
於テ明治十五年六月第三十號布告ニ準シ處分スヘシ
右奉 勅旨布告候事

○治罪法第八十三條ニ記載シタル事件ニ通常裁判所ニ
於テ裁判スルコトヲ得 明治十六年十二月二十八日
第四十九號布告

治罪法第八十三條ニ記載スル事件ニ付高等法院ヲ開カサル時ハ通常裁判所ニ於テ裁判
スルコトヲ得
右奉 勅旨布告候事

○輕罪ニ係ル控訴規則 明治十八年一月六日
第二號布告

明治十四年十二月第七十四號布告ヲ廢シ自今輕罪ニ係ル控訴ハ左ノ規則ニ從ヒ之ヲ爲ス
コトヲ得但治罪法中此規則ニ牴觸スル條件ハ當分ノ内施行セス
第一條 控訴ハ治罪法中本按ノ裁判言渡前ニ訴シタルモノト雖モ總テ本按ノ裁判言渡

治罪法第七
十條參看

治罪法第三
百六十五條
以下參看

アリタル後ニ非サレハ之ヲ爲スコトヲ得ス

第二條 控訴ノ期限内ハ控訴ヲ爲サスシテ直チニ上告ヲ爲スコトヲ得但對手人控訴ヲ
爲シタルトキハ此限ニ在ラス

控訴ヲ爲サスシテ直チニ上告ヲ爲シタルトキハ原裁判言渡ニ對シ更ニ控訴ヲ爲スコ
トヲ得ス

第三條 被告人公訴ノ裁判言渡ニ對シ控訴ヲ爲サントスルトキハ裁判費用ノ保證トシ
テ金十圓ヲ豫納スヘシ

第四條 被告人ニ於テ證人鑑定人ノ呼出ヲ請求スルトキ前條保證金ニテ不足ト認ムル
場合ニ於テハ別段其費用ヲ豫納セシムヘシ

第五條 治安裁判所ニ於テ爲シタル輕罪ノ裁判言渡ニ對スル控訴ハ管轄輕罪裁判所ニ
之ヲ爲スヘシ其控訴ヲ受ケタル裁判所ニ於テハ治罪法中輕罪ノ控訴ニ付キ定メタル
規則ニ從ヒ之ヲ裁判スヘシ

右奉 勅旨布告候事

○違警罪即決例 明治十八年九月二十四日
第三十一號布告
明治十四年九月第四十四號布告及ヒ同年十二月第八十號布告ヲ廢止シ違警罪即決例別紙ノ
通制定ス
右奉 勅旨布告候事

(別紙)

治罪法第四
十九條及三
百廿一條以
下參看

違警罪即決例

- 第一條 警察署長及ヒ分署長又ハ其代理タル官吏ハ其管轄地内ニ於テ犯シタル違警罪ヲ即決スヘシ但私訴ハ此限ニ在ラス
- 第二條 即決ハ裁判ノ正式ヲ用ヒス被告人ノ陳述ヲ聽キ証憑ヲ取調ヘ直チニ其言渡ヲ爲スヘシ
- 又被告人ヲ呼出スコトナク若クハ呼出シタリト雖モ出廷セサル時ハ直チニ其言渡書ヲ本人又ハ其住所ニ送達スルコトヲ得
- 第三條 即決ノ言渡ニ對シテハ違警罪裁判所ニ正式ノ裁判ヲ請求スルコトヲ得但正式ノ裁判ヲ經スシテ直チニ上訴ヲ爲スコトヲ得ス
- 第四條 即決ノ言渡書ニハ被告人ノ氏名年齢身分職業住所犯罪ノ場所年月日時罪名刑名及ヒ正式ノ裁判ヲ請求スルコトヲ得ヘキ期限並ニ其言渡ヲ爲シタル警察署年月日警察官ノ氏名ヲ記載スヘシ
- 第五條 正式ノ裁判ヲ請求スル者ハ即決ノ言渡ヲ爲シタル警察署ニ申立書ヲ差出スヘシ但其期限ハ第二條第一項ノ場合ニ於テハ言渡アリタルヨリ三日内第二項ノ場合ニ於テハ言渡書ノ送達アリタルヨリ五日内トス
- 第六條 警察署ニ於テ前條ノ申立書受ケタル時ハ二十四時内ニ訴訟ニ關スル一切ノ書類ヲ違警罪裁判所檢察官ニ送致スヘシ
- 第七條 第五條ニ定メタル期限内ニ正式ノ裁判ヲ請求セサル時ハ即決ノ言渡ヲ以テ確定ノモノトス

定ノモノトス

- 第八條 科料拘留ノ言渡ヲ爲シタル時必要ト認ムル場合ニ於テハ後ノ數條ニ定メタル處分ヲ爲スコトヲ得
- 第九條 科料ノ言渡ヲ爲シタル時ハ其金額ヲ假納セシムヘシ若シ納メサル者ハ一圓ヲ一日ニ折算シテ之ヲ留置ス其一圓ニ滿サル者ト雖モ仍ホ一日ニ計算ス
- 第十條 拘留ノ言渡ヲ爲シタル時ハ一日ヲ一圓ニ折算シ其刑期ニ相當ノ金額ヲ保証トシテ差出サシムヘシ若シ差出サ、ル者ハ第五條ニ定メタル期限内之ヲ留置ス但刑期五日内ナル時ハ其日數ニ過クルコトヲ得ス
- 第十一條 保証金ヲ差出シタル者ハ刑ノ言渡確定シタル後直チニ出廷シテ其執行ヲ受クヘシ若シ出廷セサル時ハ保証金ヲ没入シテ本刑ニ換フ
- 第十二條 留置シタル者正式ノ裁判ヲ請求シ因テ呼出狀ノ送達アリタル時ハ直チニ留置ヲ解クヘシ
- 第十三條 留置ノ日數一日ヲ一圓ニ折シテ科料ノ金額ニ算入シ又ハ拘留ノ刑期ニ算入スヘシ

○札幌根室始審裁判所ニ於テ重罪裁所ヲ開ク

明治十八年十月二十二日

第三十三號
和告

自今札幌根室始審裁判所ニ於テ重罪裁判所ヲ開ク但治罪ノ手續ハ當分ノ内便宜取計フ

右奉 勅旨布告候事

○普通治罪法陸海軍治罪法交渉ノ件處分法

明治十八年五月廿九日

第十二號 布告

普通治罪法陸海軍治罪法交渉ノ件處分法左ノ通制定ス但從前ノ成規中本則ニ牴觸スルモノハ當分施行セズ

第一條 常人ニシテ陸軍刑法若クハ海軍刑法ノ罪ヲ犯シタル者ハ普通裁判所ニ於テ之ヲ審判ス但刑ノ執行ハ普通ノ規則ニ從フ

第二條 軍人常人共ニ重罪輕罪ヲ犯シタルトキハ軍人ハ軍法會議ノ判決ニ付シ常人ハ普通裁判所ノ公判ニ付ス軍衙ニ於テ共犯人ヲ逮捕シタルトキハ常人ハ審問ノ上証憑書類ト共ニ之ヲ管轄ノ普通裁判所檢事ニ送致シ普通裁判所ニ於テ共犯人ヲ逮捕シタルトキハ軍人ハ審問ノ上証憑書類ト共ニ之ヲ被告入ノ所屬長若クハ陸海軍檢察官ニ送致スヘシ

第三條 敵前軍中臨戰合圍ノ地若クハ海軍諸用ニ供スル船舶ニ在テ重罪輕罪ヲ犯シタルトキハ常人ト雖モ軍法會議ニ於テ之ヲ審判スルコトヲ得但戒嚴令第十一條第十二條ニ掲グルモノハ軍法會議ニ於テ之ヲ審判スヘシ

第四條 軍法會議ト普通裁判所トノ管轄違ニ付テハ軍法會議又ハ普通裁判所ノ言渡ニ對シ普通治罪法ニ定メタル手續ニ從ヒ大審院ニ上告スルコトヲ得但軍法會議ノ言渡ニ對シ上告スルハ被告入ニ限ルヘシ

第五條 多衆ノ軍人常人圍毆殺傷其他疑讞ニ係ル罪ヲ犯シタルトキハ軍官法司會同審問スルコトヲ得

第六條 軍法會議ト普通裁判所トヲ問ハス既ニ確定シタル裁判ノ効力ハ互ニ之ヲ侵スコトヲ得ス
右奉 勅旨布告候事

○司法官吏ヨリ巡查及兵員ヲ要求使用スル手續

明治十四年九月二日

第十日 第八十二號官省院使廳府縣へ達

司法官吏ヨリ巡查及ヒ兵員ヲ要求使用スルニハ左ノ手續ニ從フヘシ此旨相達候事

第一條 裁判官檢察官及ヒ司法警察官治罪法ニ從ヒ檢証及ヒ物件差押其他職務ヲ行フニ當リ必要ナル時ハ警察署又ハ憲兵屯營ニ照會シテ巡查又ハ憲兵卒ヲ使用スルコトヲ得

但事機緊急ナル時ハ直チニ之ヲ使用スルコトヲ得

第二條 前條ノ場合ニ於テ事緊急重要ニ涉ル時ハ直チニ鎮臺又ハ分營ニ照會シテ兵力ヲ要求スルコトヲ得

○豫審判事檢証及物件差押ノ事件ニ付巡查同行使用方

明治十四年十月四日 司法省丙第十五號警視廳府縣(東京府沖繩縣ヲ除ク)へ達

治罪法實施ノ上ハ豫審判事檢証及ヒ物件差押ノ事件ニ付急速ヲ要スル場合直ニ巡查ヲ

丁第廿三號
ナ以テ本件
ヲ大審院裁
判所へ達ス

同行シ又ハ所在ノ巡查ヲ使用スル儀モ可有之候條豫テ可達置此旨相達候事

○大審院裁判所公庭取締ノ爲メ巡查ヲ詰サセ又ハ被告人護送ノ巡查押丁ヲシテ公庭ニ入り看護セシム
明治十四年十月十四日

第八十六號警視廳府縣(東京府沖繩縣ヲ除ク)へ達

治罪法實施ニ付テハ大審院其他各裁判所公庭取締ノ使用ニ供スルタメ其院長所長ノ照會ニ應シ一名又ハ數名ノ巡查爲相詰又拘留被告人審問中ハ其護送ノ巡查或ハ押丁ヲシテ守卒トシテ公庭ニ入り看護セシムヘシ此旨相達候事

○司法警察上巡查ヲシテ警部ノ代理ヲ爲サシム
明治十四年十月十四日

司法省甲第五號布達

新法實施ノ後ハ司法警察事務上時宜ニ依リ巡查ヲシテ警部ノ代理ヲ爲サシムル儀モ可有之候條此旨布達候事

○司法警察上巡查ヲシテ警部ノ代理ヲ爲サシムルヲ許ス
明治十四年十月十四日

司法省丙第十三號警視廳府縣(東京府ヲ除ク)へ達

同年司法省
丁第十七號
ヲ以テ本件
ノ趣テ大審
院諸裁判所
へ達ス

新法實施ノ後ハ司法警察事務上時宜ニ依リ不得止場合ニ於テハ巡查ヲシテ警部ノ代理ヲ爲サシム不苦候條此旨相達候事
但代理ヲ命スヘキ巡查ノ姓名ハ豫シメ其地方輕罪并違警罪裁判所へ通牒致シ置候儀ト心得ヘシ

治罪法第三
百十五條參
照
十五年丁第
九號ヲ以テ
納付方ヲ達

治罪法第三百十五條裁判官渡ノ謄本又ハ其拔書ヲ求ムル者ハ其用紙一枚金三錢ノ費用ヲ上納スル儀ト可心得此旨布達候事

○大審院諸裁判所々屬代理人規則
明治十四年十二月二日
司法省第八號布達

大審院諸裁判所所屬代理人規則別紙之通相定候條此旨布達候事

(別紙)

所屬代理人規則

第一條 治罪法中所屬代理人ト稱スルハ大審院及ヒ各裁判所所在ノ地ニ住居スル免許
代理人ヲ云

第二條 裁判官ノ職權ヲ以テ選任シタル代理人辨護人ハ正當ノ理由ヲ證明スルニアラ
サレハ之ヲ辭スルヲ得ス

第三條 代言又ハ辨護受任中代言免許滿期ニ至リ引續營業セス又ハ廢業スト雖モ該事
件終結ニ至ルマテ其代言辨護ヲ擔當ス可シ

第四條 代言又ハ辨護受任中ハ他ノ訴訟事件ヲ以テ其任ヲ闕クヲ得ス

第五條 裁判官ノ職權ヲ以テ代理人辨護人ヲ選任シタル場合ニ於テハ其謝金ハ被告人
之ヲ擔當ス可シ

總テ謝金ニ付テハ出訴スルヲ許サス

治罪法第九
十五條以下
參看

○治罪法中犯人証人等押印ノ條實印ナキ者ハ拇印セシ
△ 明治十四年十二月五日
司法省丙第十六號大審院裁判所警視廳府縣(東京府ヲ除ク)へ達
治罪法中犯人証人等押印ノ條々實印無之者ニ限リ從來ノ慣例ニ依リ拇印爲致候儀ト心得
得ヘシ此旨相達候事

○令狀様式 明治十四年十二月十二日
司法省丁第二十八號大審院裁判所へ達
治罪法中ニ掲ケタル送達誓呼出狀召喚狀拘引狀拘留狀收監狀及宣誓書式別紙ノ通相定
候條右ニ照準ス可シ此旨相達候事 (別紙略之)

○無資力ノ者ハ無代價ニシテ裁判言渡ノ謄本又ハ拔書
ヲ下渡スヲ許ス 明治十四年十二月十五日
司法省丁第三十一號裁判所へ達

本年本 甲第七號布達裁判言渡ノ謄本又ハ拔書ヲ求ムル者代價ノ儀無資力ニシテ上納ス
ル能ハサル者ニ限リ無代價ニテ下渡スモ不苦儀ト心得此旨相達候事

○治罪法令狀様式大審院裁判所へ達ニ付司法警察官ニ
於テ右照準取計ハシム 明治十四年十二月十九日
司法省丙第十七號警視廳府縣(東京府ヲ除ク)へ達

治罪法令狀様式別紙丁第二十八号ノ通大審院裁判所へ相達候條其旨可相心得且司法警
察官ニ於テ令狀ヲ發スル時ハ右ニ照準シテ取計フ可シ此旨相達候事 (別紙略之)

○既決囚ノ逃走シタル者ニ對シ令狀發付方 明治十四年十二
月二十八日

司法省丙第二十號大審院裁判所
警視廳府縣(東京府ヲ除ク)へ達

新法實施後ハ既決囚ノ逃走シタル者ニ對シ發スル刑法第六十二條ノ令狀ハ總テ其刑ノ
執行ヲ爲ス地ノ始審裁判所檢事ヨリ發スル儀ト心得此旨相達候事

○治罪法ニ定メタル拘引狀ノ期限ハ休暇日ヲ算入セス
明治十五年二月六日
司法省丙第四號裁判所警視廳府縣(東京府沖繩縣ヲ除ク)へ達

治罪法ニ定メタル拘引狀ノ期限ニハ總テ休暇ノ日ヲ算入ス可カラズ但平常休暇ナキ官
署ニ付テハ此例ヲ用非サル儀ト心得此旨相達候事

○檢察官ニ於テ裁判所ノ命令及言渡ヲ執行スルニ當リ
其謄本ヲ要スルニ付交付方 明治十五年二月十三日
司法省丙第五號大審院裁判所警視廳府縣(東
京府ヲ除ク)へ達

檢察官ニ於テ裁判所ノ命令及ヒ言渡ノ執行ヲ指揮スルニ當リ其命令書若クハ言渡書ノ
謄本ヲ要スル時ハ該書記局ニ於テ述ニ其謄本又ハ拔書ヲ作り交付ス可キ儀ト心得可シ
此旨相達候事

○既決囚ノ逃走シタル者ニ對シ逮捕狀ヲ發スルノ手續

明治十五年二月十四日
司法省丙第六號大審院裁判所警視廳府縣(東京府ヲ除ク)へ達
始審裁判所檢事ヨリ既決囚ノ逃走シタル者ニ對シ逮捕狀ヲ發スル手續ハ左之通心得可

治罪法第九
十五條參看

治罪法第九
十五條參看

治罪法第九
十五條參看

此旨相達候事

第一條 逮捕狀ニハ典獄ノ報知書ニ依リ第二號書式ニ準シ逃走シタル囚徒ノ本籍身分氏名人相等ヲ詳記スヘシ但管轄地ノ内外ニ拘ハラス急遽ノ際巡查ヲシテ令狀ヲ帶行セシムル時ハ八相ヲ記載セサルモ妨ナシ

第二條 管轄地内ハ令狀ヲ警察署又ハ警察分署ニ送致シテ逮捕ノ處分ヲ爲サシム可シ
第三條 管轄地外ハ第一號書式ニ準シ八相書ヲ作り之ヲ始審裁判所檢事ニ送致シテ逮捕ノ處分ヲ囑託スルヲ得

囑託ヲ受ケタル檢事ハ該八相書ニ依リ自己ノ氏名ヲ以テ更ニ逮捕狀ヲ作り之ヲ管轄地内ノ警察署又ハ警察分署ニ配付シテ逮捕ノ處分ヲ爲サシム可シ
第四條 司法警察官ニ於テ逮捕シタル囚徒ヲ受取タル時ハ之ヲ管轄檢事ニ送致シ檢事ハ其旨ヲ囑託ヲ爲シタル檢事ニ照會シ別段ノ事由アルニ非サレハ逮捕ノ地ニ於テ刑ノ執行ヲ爲ス可シ (書式略ス)

○被告人逮捕ノ地ノ檢察官犯罪ノ地ノ檢察官ニ照會中
拘留方

明治十五年二月十六日
司法省丙第七號大審院裁判所警視廳府縣(東京府ヲ除ク)へ達

被告人逮捕ノ地ノ檢察官犯罪ノ地ノ檢察官ニ照會中拘留ノ儀ニ付東京輕罪裁判所檢事犬塚盛巍ヨリ別紙甲號ノ通伺出候ニ付乙號ノ通内訓ニ及ヒ候條爲心得此旨相達候事

(別紙)

甲號

沿理法第四
十條參看

明治十四年太政官第四十六號ヲ以テ前犯罪ノ地分明ナル被告人ト雖モ管轄裁判所ヨリ囑託アリタル時ハ其被告人逮捕ノ地ノ裁判所之ヲ管轄ス可キ旨御布告相成候處右實際取扱方ノ儀ハ被告人逮捕ノ地ノ檢察官ニ於テ事件ノ模様ヲ審按シ其被告人ヲ管轄裁判所ニ送致スルヲ要セスト思料シタル時ハ事案ノ顛末ヲ犯罪地ノ檢事ニ通知シ併セテ其囑託アル可哉否ヲ照會シ其囑託ヲ待テ起訴可及手續ニ可有之果シテ然ラハ被告人所在地ノ司法警察官ニ於テ其舉動犯人ト思料ス可キ者アル等現行犯ニ准シ處分シ得ヘキ被告人ヲ逮捕シ拘察狀ヲ發シ一應ノ搜查ヲ爲シタル後檢事ニ送致シタル時ノ如キ其拘留狀執行ヨリ概チ已ニ六七日ヲ經過スルヲ以テ囑託ノ義ニ關シ檢事ヨリ前記ノ照會中拘留狀十日ノ期限ヲ過クル者往々之アリ然ルニ檢事ハ之ヲ收監狀ニ換ヘ若クハ被告人ヲ責付スルノ職權ナキニ因リ重罪犯又ハ逃走等ノ恐アリテ解放シ得ヘカラサル者ニ付テハ如何ニ處分ノ施シ儀モ無之去リ連拘留日數經過ノ一點ニ拘束セラレ前書ノ照會ヲモ用ヒスシテ直ニ其被告人ヲ犯罪地ノ檢察官ニ送致スルカ如キ囑託法ヲ設ケラレタル御旨趣ニ相戻リ可申又々前書ノ照會一々電報ヲ借ルニ至テハ其事案ノ顛末ヲ盡ス能ハサル而已ナラス此等ノ事件ハ實際頗々遭遇スル所ニシテ其經費モ亦小額ナラサル儀ト存候就テハ右等ノ場合ニ於テハ如何處分致可然哉此段相伺候條至急何分ノ御指令ヲ仰キ候也

東京輕罪裁判所

檢事 犬塚盛巍

明治十五年一月二十四日

乙號

司法卿大木喬任殿

東京輕罪裁判所

檢事 犬塚盛巍

被告人逮捕ノ地ノ檢察官犯罪ノ地ノ檢察官ニ照會中拘留ノ儀ニ付伺之趣ハ豫テ管轄裁判所ヨリ囑託ヲ爲シタルモノト看做シ一面ハ其裁判所ニ豫審若クハ公判ヲ求メ一面ハ其犯罪ノ地ノ檢察官ニ其旨ヲ通知スヘシ此旨及内訓候也

明治十五年二月十五日

司法卿大木喬任

○治罪法第三百三十五條ニ從ヒ人相書及逮捕狀ヲ作ルノ手續

手續

明治十五年二月二十三日
司法省丁第十四號大審院裁判所へ達

治罪法第三百三十五條ニ從ヒ豫審判事ヨリ各控訴裁判所檢事長ニ被告人ノ人相書ヲ送達シ若クハ其檢事長ヨリ管轄地内ノ檢事ニ捜査及ヒ逮捕ノ處分ヲ命スル時ハ本年本省丙第六號達第壹號書式ニ照依シテ人相書ヲ作り其命ヲ受ケタル檢事ハ第二號書式ニ照依シテ逮捕狀ヲ作ルヘシ此旨相達候事

○軍人軍属ノ犯罪未決中逃走シタルニ付陸軍法衙ヨリ

依頼ノ節捕縛取計方

明治十五年三月二十日
司法省丁第十七號控訴裁判所へ達

軍人軍属ノ犯罪未決中逃走シタルニ付陸軍軍衙ヨリ捕縛方依頼有之候節ハ本年本省丁第四號達ニ依リ捕縛方取計ヲ可シ此旨相達候事

八同
同丁第十
一ノ件ヲ
始審裁判所

○治罪法第二百八十五條ニ從ヒ調書ヲ作りタル司法警察

察官證人トシテ出庭方及著席

明治十五年三月二十二日
司法省丙第十號大審院裁判所警視廳

府縣(東京府
ヲ除ク)へ達
治罪法第二百八十五條ニ從ヒ調書ヲ作りタル司法警察官ヲ證人トスルハ書記局ヨリ報知書ヲ以テ出廷セシメ宣誓セシムルニ及ハス書記ノ次席ニ着テ陳述セシム可シ此旨相達候事

○勅奏任官華族帶勳有位者禁錮以上ノ刑ヲ犯シタル時

處分方

明治十五年三月二十七日
司法省丙第十一號大審院裁判所警視廳府縣(東京府ヲ除ク)へ達

今般太政官ヨリ別紙ノ通御達相成候條此旨相達候事

司法省

(別紙)
勅任官禁錮ノ刑ニ該ルヘキ罪ヲ犯シ及ヒ奏任官華族帶勳有位ノ者禁錮以上ノ刑ニ該ルヘキ罪ヲ犯シタル時ハ當該檢察官ヨリ司法卿ニ具狀シ司法卿其事由ヲ奏聞シテ處分スヘシ但現行犯罪ニ係ル者ハ處分シテ後ニ奏聞スルヲ得此旨相達候事

明治十五年三月二十二日

太政大臣三條實美

○裁判言渡膳本又ハ拔書ヲ下付スル費用ハ違警罪ニ限

リ徴收セス

明治十五年三月二十七日
司法省丙第十二號裁判所警視廳府縣(東京府ヲ除ク)へ達

明治十四年十一月
當省甲第七號布達裁判言渡ノ膳本又ハ其拔書ヲ下付スル費用ハ當分違

治罪法第三
百十五號參

第十九類 治罪法

百十五

警罪ニ限り徴收セラル様取計ヘシ此旨相違候事

○巡查ヲシテ令狀ヲ他管ニ帶行セシメ又ハ人相書ヲ發

シ搜查及逮捕請求處分心得方

明治十五年四月十二日
司法省丁第二十四號裁判所ヘ達

左之通豫審判事ニ及内訓候條爲心得此段相違候事

輕罪裁判所

豫審判事

治罪法第百三十四條ノ場合ニ於テ豫審判事ヨリ巡查ヲシテ令狀ヲ他管ニ帶行セシムルハ被告事件殊ニ急速ヲ要スル時ニ限り限リ其處分ヲ爲ス可キ者ニアラス又第百三十五條ノ場合ニ於テ豫審判事ヨリ人相書ヲ發シ搜查及ヒ逮捕ヲ爲ス可キヲ請求スル者ハ專ラ重大ノ罪ヲ犯シタル被告人ニ對シテ發スル者ニ有之被告人所在ノ地ヲ覺知スルハ能ハサル時ハ罪ノ輕重ヲ問ハス悉ク人相書ヲ發スル者ニアラサルナリ此等ハ兼テ注意アル可キ事ナレバ猶ホ誤解無之様爲念此段及内訓候也

明治十五年四月十二日

司法卿大木喬任

○既決囚ノ逃走シタル者ニ對シ發スル令狀ハ始審裁判
所所在地ノ外其刑ヲ執行スル警部ニ於テ發セシム

明治十五年四月十七日
司法省丙第十四號大審院裁判所警廳府縣(東京府ヲ除ク)ヘ達

既決囚ノ逃走シタル者ニ對シ發スル令狀ノ儀ニ付テハ昨明治十四年丙第二十號ヲ以テ

相違置候處始審裁判所所在ノ地ヲ除クノ外ハ現ニ其刑ノ執行ヲ爲ス地ノ警部ニ於テ令狀ヲ發スル儀ト可心得此旨更ニ相違候事

○被告人ヲ他ノ監倉ニ移スノ手續

明治十五年五月二日
司法省丙第十八號大審院裁判所警

廳府縣(東京府ヲ除ク)ヘ達

治罪法第百六十條

治罪法第百六十條ノ場合ニ於テ被告人ヲ重罪裁判所開廳ノ地ノ監倉ニ移ス時ハ檢事ハ前令狀ニ檢事長ノ命令書ヲ添ヘテ重罪裁判所檢察官ニ送致シ其檢察官ハ是等ノ書類ヲ其地ノ監倉長ニ示シテ被告人ヲ收監セシムルノ處分ヲ爲ス可シ其他法律ニ從ヒ被告人ヲ他ノ監倉ニ移ス場合ニ於テモ此例ニ準スル義ト心得ヘシ此旨相違候事

○裁判所ニ於テ檢證ノ爲メ囚人ヲ召連出張ノ節護送及

費用支辨方

明治十五年六月五日
內務省乙第三十五號警廳府縣(東京府ヲ除ク)ヘ達

裁判所ニ於テ檢證ノ爲メ囚人ヲ召連レ他所出張ノ節ハ巡查ヲシテ護送セシムヘシ此旨相違候事

但護送巡查ノ旅費其他囚人ニ屬スル費用共渾テ警察費ヨリ支辨スヘシ

○法律上ノ減輕ニ因リ輕罪以下ニ處スヘキ重罪事件ハ

輕罪裁判所ノ管轄ニ屬ス

(東京府ヲ除ク)東
京憲兵本部ヘ達

被告事件重罪ナル時ト雖モ法律上ノ減輕ニ因リ輕罪以下ノ刑ニ處ス可キ者ハ總テ輕罪

治罪法第七
十條參看

裁判所ノ管轄ニ属スル儀ト心得可シ此旨相達候事

○告發シタル官吏ヲ證人トシテ公庭へ呼出スル處分方

明治十五年六月十二日
司法省丙第二十二號大審院裁判所警視廳府縣(東京府ヲ除ク)東京憲兵本部へ達
治罪法第九十六條ニ從ヒ告發シタル官吏ヲ證人トシテ公庭へ呼出ス時ハ本年本省丙第十號達ニ準シ處分スル儀ト心得可シ此旨相達候事
但シ巡查及ヒ等外吏ノ著席ハ此限ニアラス
同年丙第三十一號達但書改正

○檢證ノ爲メ囚人召連出張ノ節其他警察官へ護送引致

方ヲ通知セシム
明治十五年六月十三日
司法省丁第三十三號大審院裁判所へ達
審理ノ都合ニ依リ檢證ノ爲メ囚人召連他所出張候節ハ其地ノ警察官へ護送引致方通知可致尤右護送ニ属スル費用ハ渾テ警察費ヨリ支辨ノ等ニ候條此旨相達候事

○刑事ニ付出庭セシメタル證人鑑定人等ノ日當官廳ニ

於テ立換渡スニ及ハス
明治十五年六月二十九日
司法省丙第二十五號大審院裁判所警視廳府縣(東京府ヲ除ク)へ達
刑法治罪法實施以來刑事ニ付出庭セシメタル証人鑑定人等ノ旅費日當等一時官廳ニ於テ立換渡ヲ爲シ候儀モ有之候處該旅費日當等ハ則裁判費用ニシテ總テ被告人ノ擔當スヘキモノナルハ勿論ノ儀ニ付自今右立換渡ヲ爲スニ不及ル儀ト心得ヘシ此旨相達候事
但從前ノ指令及ヒ内訓本文ニ抵觸スル件々ハ都テ取消候事

治罪法第百九十九條及第百二十條參看

○公訴裁判費用官ニテ擔當スヘキ場合金額支出方

明治十五年七月七日
司法省丙第二十六號大審院裁判所警視廳府縣(東京府ヲ除ク)へ達
治罪法第三百七條第二項公訴裁判費用官ニ於テ擔當スヘキ場合該金額ハ裁判所ヨリ支出スル儀ト心得ヘシ此旨相達候事
但從前ノ指令内訓本文ニ抵觸スル件々ハ取消候事

○官吏職務ニ關スル事件ニ付キ證明セシムル爲メ呼出

ヲ要スル片取扱方
明治十五年十月二十八日
司法省丙第三十二號大審院裁判所警視廳府縣(東京府ヲ除ク)憲兵本部へ達
總テ官吏ナシテ職務ニ關スル事件ニ付キ證明セシムル爲メ其呼出ヲ要スル片ハ本年當省丙第十號達ニ準シ取扱フ可シ此旨相達候事
但シ巡查及ヒ等外吏ノ著席ハ此限ニアラス

○樺戸及空知集治監ノ囚人ニ對シ訊問ヲ要スル時司獄

官へ囑託スルヲ得
明治十五年十二月十三日
司法省丙第三十四號大審院裁判所(東京府ヲ除ク)へ達
樺戸及空知ノ集治監ニ拘禁中ノ囚人ニ對シ訊問ヲ要スル等ノ事アレハ本年第十六號同第四十一號公布ノ趣モ有之ニ付該監司獄官へ囑託スルヲ得ヘキ儀ト心得ヘシ此旨相達候事

○巡查ニテ警部代理ノ資格ヲ以テ取扱タル事件ニ付テ

治罪法第百六十八條參看

ハ警部同様ノ取扱ヲ爲サシム

明治十六年二月二十四日
司法省丁第九號大審院裁判所へ達

明治十四年^十當省甲第五號布達ニ據リ巡查ニ於テ警部代理ノ資格ヲ以テ取扱事件ニ付テハ裁判上渾テ警部同様ノ取扱ヲ爲スヘシ此旨相達候事
但從前ノ指令内訓本文ニ抵觸スル條件ハ取消候事

○在本邦外國公使館ニ傭ハレタル内國人ニ對シ令狀發

付方

明治十六年三月十二日
司法省丙第壹號大審院裁判所警視廳府縣(東京府ヲ除ク)へ達

刑事裁判上在本邦外國公使館ニ傭ハレタル内國人ニ對シ發スヘキ令狀ハ明治七年第百二十八號公達ニ據リ公使館ニテ唯諾ノ上執行セシムヘキハ勿論ニシテ其ノ唯諾ヲ經ルノ手續ハ明治十四年第五十三號公達ノ旨モ有之ニ付大審院并裁判所ハ其事柄ヲ明記シ當省ニ中出指令ノ上其令狀ヲ發シ又警視廳府縣ニ於テハ其長官ヨリ外務省へ申出右唯諾ヲ經ルノ手續キナリテ令狀ヲ執行セシムヘキ儀ト心得ヘシ爲念此旨相達候事
但本文令狀執行者ハ專ラ明治七年第百二十八號達ノ旨趣ニ據リ聊不都合ノ取計無之様厚ク注意セシムヘシ

○勅奏官華族并有位帶勳者犯罪取扱ニ付更ニ心得方

明治十六年五月十四日
司法省丙第二號大審院裁判所警視廳府縣(東京府ヲ除ク)へ達

勅奏官華族并有位帶勳者犯罪取扱方ノ儀ニ付別紙ノ通り太政官へ相伺候處朱書ノ通御指令相成候條爲心得此旨相達候事

但御指令文中十五年三月二十二日附御達ハ同年當省丙第十一號達ト可相心得事

勅奏官華族等犯罪取扱方ノ儀伺

勅任官禁錮ノ刑ニ該ルヘキ罪ヲ犯シ及ヒ奏任官華族帶勳有位ノ者禁錮以上ノ刑ニ該ルヘキ犯罪取扱方ノ儀ニ付テハ明治十五年三月二十二日附^テ以テ御達有之候處其罰金ニ處スヘキモノト雖モ或ハ本人ヲ出廷セシムル場合モ有之且又拘留ノ刑ニ處シ及ヒ罰金科料ヲ納完セサル節ハ則換刑シテ輕禁錮又ハ拘留ニ處スヘキ儀モ有之候條右本人ヲ出廷セシムル場合及ヒ換刑シテ輕禁錮又ハ拘留ノ刑ニ處スヘキ時ハ矢張其時々奏聞可致儀ト相心得可然哉此段相伺候也

明治十六年三月三十一日

司法卿大木喬任

太政大臣三條實美殿

朱書

伺之通

但十五年三月二十二日附其省へ達中帶勳有位者トアルハ勳六等以上從六位以上ヲ指シタル儀ト可相心得事

明治十六年五月八日

○監倉若クハ獄舎ニ在ル被告人へ書類送達方

明治十六年七月十四日

司法省丙第四號大審院裁判所警視廳府縣(東京府ヲ除ク)へ達

監倉若シハ獄舎ニ在ル被告人へ送達スヘキ渾テノ書類ハ裁判所ヨリ監獄署へ送達ノ手續ヲ囑托シ該署ニ於テハ規則ニ從ヒ本人ニ送達シ令狀ハ其正本其他ハ送達書ノ一本ヲ裁判所へ返還スヘキ様取計ヘシ此旨相違候事
但從前ノ指令内訓本文ニ抵觸スル條件ハ渾テ取消候事

○陸軍治罪法施行ニ付已決囚ニシテ重輕罪ヲ犯ヌ者等有之時ハ地方管轄裁判所ニ送付
明治十六年九月二十一日
司法省丁第二十三大審院裁判所へ

今般陸軍治罪法施行相成候ニ付キ左ノ通陸軍卿ヨリ照會有之候條爲心得此旨相違候事
已決重罪囚其他裁判宣告ニ依リ軍籍ヲ脱シタル者ト雖モ犯罪之レ有ル時ハ舊慣ニ據リ軍衙ニ於テ審判致來候處今般陸軍治罪法御頒布ニ付テハ特例アルモノヲ除ノ外ハ軍衙ニ於テ審判シ得ヘカラサル者ニ有之候間右已決囚ニシテ重輕罪ヲ犯ヌ者等有之候時ハ地方管轄裁判所ニ送付セシメ候間豫メ御達置相成度此段及御照會候也

明治十六年九月十三日
陸軍卿代理
參事院議長山縣有朋

追テ自今本文ノ如キ罪囚ハ悉ク地方監獄ニ交付ノ見込ニ有之候此段申添候也

○保釋責付中ノ被告人取締方心得
明治十六年十一月五日
司法省丙第九號大審院裁判所
福廳府縣へ送
保釋責付中ノ被告人取締方心得ノ儀ニ付左ノ通各裁判所へ相違候條此旨爲心得相違候

治罪法第四
百四條參看

治罪法第二
百十條以下
參看

事

丁第三十一號

裁判所

保釋責付ヲ得タル被告人ハ左ノ取締條件ニ服從セシム可キ儀ニ付キ保釋責付ヲ爲スノ際其旨ヲ被告人ニ豫知セシム可シ但其言渡書ノ紙尾ニ記載印刷スルモ妨ケナシ
第一條 治罪法第二十一條ニ從ヒ假住所ヲ定メ届置ク可キコトハ言ヲ待タス其裁判所ノ管轄地外ニ旅行スルコトヲ得ス若シ已ムヲ得サル事由アルハ其旨ヲ檢事ニ申立テ許可ヲ受ク可シ
第二條 裁判所ノ管轄地内ト雖モ住所外ニ於テ一泊以上滞在スルハ滞在ノ場所ヲ其家族又ハ同居人ニ通知シ置ク可シ
若シ同居人アテサルハ其住所ノ地ノ戸長ニ届置ク可シ
第三條 代言人辨護人又ハ代人トシテ法廷ニ出頭シ其他議會集會等公然ノ場所ニ參會スルコトヲ得ス
第四條 治罪法第百二十一條ニ適當スル者及ヒ前數條ノ規則ニ背キタル者ハ治罪法第百二十六條第二項ニ從ヒ保釋ヲ取消ス可シ其責付ヲ受ケタル者モ亦同シ
右相違候事

○刑事ニ付警察官ノ處分ニ属スル費用ハ裁判費用ニ立

刑事ニ付警察官ノ處分ニ属スル費用ハ起訴ノ前後ニ拘ハラス裁判費用ニ相立タサル
明治十六年十一月十三日
司法省丙第九號大審院裁判所
福廳府縣(東京府ヲ除ク)へ送

者トス然レハ豫審判事ノ囑託ヲ受ケ豫審處分ヲ爲シタル場合ハ此限ニ在ラス此旨爲心得相違候事

但本文ニ牴觸スル指令内訓ハ取消候事

○犯罪證據物トシテ戸長役場備置ノ書類差押手續明治十七年五月三十日

司法省丙第一號大審院裁判所警視廳府廳(東京府ヲ除ク)憲兵本部へ達

犯罪證據物トシテ戸長役場備置ノ書類ヲ差押フル儀ニ付甲號福井縣上申ニ對シ乙號ノ通及指令候條爾後戸籍帳等ノ差押ニ付テハ右ノ手續ニ依リ取扱フ可キ儀ト心得可シ此旨相違候事

甲號
裁判所ニ於テ犯罪證據物トシテ戸長役場備置ノ要書差押ヘタル節還附方ノ儀ニ付上申

犯罪證據物トシテ裁判所ニ於テ戸長役場備置ノ戸籍帳又ハ土地建物船舶賣買讓渡質入書入與書割印簿等ヲ差押ヘ數日間還附セサルコトアリ然ルニ戸長役場ニ於テハ部下ノ人民生死送入籍其他ノ異動加除ヲ要シ又ハ陸續公證ヲ請ヒ就中質入書入契約ノ如キ義務消盡ニ據リ公證取消ノ儀申出ル者アルモ本簿へ照較消印スル能ハサルヲ以テ其旨ヲ具ヘ簿册下戻方裁判所へ照會スルモ某事件ニ付差押ヘタル證據物ナル故一件落着迄還付シ難キ旨回答有之取扱上頗ル差支候趣ヲ以テ伺出候向アリ右ハ犯罪證據物トシテ差押ヲ要スルハ其一部分ニ止ルヘクシテ而シテ該簿册ニ登載セル其他ノ事件全体ニ關シ

行政上取扱ニ支障ヲ來シ不都合不抄就テハ斯場合ニ於テハ其必要ノ廉ハ裁判所ニ於テ謄寫シ本書加除スルヲ得サル様掛紙契印等ヲ爲シ而シテ簿册ハ直ニ還付スヘク様致度御詮議ノ上何分ノ御指揮相成度此段上申候也

明治十七年一月二十九日

福井縣令 石 黒 務

内務卿山縣有朋殿
司法卿山田顯義殿

乙號

書面上申之趣開届候尤裁判所ニ於テ謄寫セシ該書へハ戸長之レニ調印スヘシ若シ其謄寫ニ拘ハル内ニ加除等ヲ要スル時ハ其都度裁判所ノ許否ヲ得ヘキ儀ト心得事

明治十七年五月二十八日

○官吏職務上刑事裁判ノ證人トシテ裁判所ニ出頭スル時旅費日當請求方明治十七年六月十三日
第五十七號官省院廳府廳へ達

官吏職務上ニ係リ刑事裁判ノ證人トシテ裁判所ニ出頭スル時ハ治罪法ニ依リ旅費日當ヲ請求スルコトヲ得ルト雖トモ被告事件無罪又ハ免訴トナリタル時ハ請求セサル儀ト心得可シ

但旅費日當ヲ請求シタル時其金額ハ雜收入トシテ大藏省へ納付ス可シ
右相違候事

○已決囚ニ對スル宣告又ハ證人トシテ出庭セシメ用濟

治罪法第百九十九條參看

トナリタル時司獄官へ書類送致又ハ報知方 明治十七年六月二十三日

司法省丙第二號大審院裁判所啓
視廳府縣(東京府ヲ除ク)へ送

已決囚ノ犯罪ニ付キ之ヲ裁判所ニ呼出シ審理ノ未刑ノ言渡ヲ爲ス場合ニ於テハ明治十五年當省丙第八號達ニ依リ檢察官ヨリ其宣告書ノ謄本ヲ司獄官ニ送達スルハ勿論自今已決囚ニ對スル其他ノ宣告ニ付テモ其豫審ニ係ルト公判ニ係ルトヲ問ハス書記ヨリ宣告書ノ謄本ヲ司獄官ニ送致シ又證入トシテ出廷セシメタル已決囚用濟ニ至リタル時ハ亦書記ヨリ其旨ヲ司獄官ニ報知ス可キ儀ト心得ヘシ此旨相達候事

○郵便犯則者ニ對スル未納稅不足稅等徵收方 明治十七年八月十三日

司法省丙第三號大審院裁判所啓
府縣(東京府ヲ除ク)兵部へ送

郵便犯則者ニ對スル未納稅不足稅等徵收方ノ儀ニ付太政官ヨリ左ノ通御達有之候條此旨相達候事

司法省

驛遞局ヨリ郵便犯則者ヲ告訴スルト併セテ未納稅不足稅等ノ徵收ヲ請求スルトキハ其請求ニ應ジ之ヲ受理スヘキ儀ト可心得此旨相達候事

明治十七年七月二十三日

太政大臣三條實美

○帶勳有位者罪ヲ犯シ公權剝奪又ハ停止ノ言渡アリタルキ居出方 明治十五年三月六日
司法省丙第九號大審院裁判所府縣(東京府ヲ除ク)へ送

帶勳者罪ヲ犯シ公權ヲ剝奪又ハ停止スルノ言渡アリタルキハ其罪狀并刑名宣告文ノ寫ヲ以テ當省へ可届出此旨相達候事

但剝奪公權ノ者ハ勳記勳章并年金票共剝奪ノ上當省へ差出スヘシ候事

○醫師タル者醫業ニ關スル犯罪有之節內務省へ通知方

明治十五年八月二十一日
司法省丁第四十二號大審院裁判所へ送

本年八月第三十九號公布ニ依リ今般內務卿ヨリ照會ノ趣モ有之候ニ付テハ自今醫師タル者醫業ニ關スル犯罪有之處斷致シ候節ハ其都度該宣告文謄本相添內務省へ通知候様可致此旨相達候事

○恩給扶助料ヲ有スル元軍人並軍人及寡婦孤兒罪ヲ犯シ公權剝奪停止ノ處分ヲ受ケタル者アルキ大藏省へ

通知方 明治十六年四月二十七日
司法省丁第十五號大審院裁判所へ送

明治八年第百四十八號公達海軍退隱令並ニ明治九年第九十九號公達陸軍恩給令ニ據リ恩給ヲ有スル元軍人及其扶助料ヲ有スル寡婦孤兒罪ヲ犯シ公權剝奪若クハ停止ノ處分ヲ受ケタル者アルキハ其都度直ニ大藏省へ通知可致此旨相達候事

但新法實施已後は迄本文ノ處分ヲ受ケタル者有之候ハ、其旨直ニ大藏省へ通知可致事

十五年第三十九號公布
十八年第六十三號公布
廿五年第五號公布
廿六年第五號公布
廿七年第五號公布

○西洋形船船長運轉手機關手免狀ヲ有スル者罪ヲ犯シ
輕罪以上ノ刑ニ處シタル節農商務省へ通牒方
明治十六年七月五日

司法省丁第二十一號大審院裁判所へ達

明治十四年^{十二}第七十五號公布西洋形船舶運轉手機關手免狀規則ニ據リ免狀ヲ有スル者罪ヲ犯シ輕罪以上ノ刑ニ處シタル節ハ刑名並ニ宣告ノ月日ヲ詳記シ其都度直ニ農商務省へ通牒スヘシ此旨相達候事

○陸軍常備下士卒服役中違警罪ヲ犯シ處分セシキ本人

所管へ通報方

明治十六年八月七日
司法省丙第六號府縣(東京府ヲ除ク)へ達

陸軍常備下士卒服役中ノ者違警罪ヲ犯シ其處分ヲ爲シタル節ハ其人名罰科ヲ詳記シ其都度本人所管(附ハ該隊長)へ速ニ通報可致此旨相達候事

○華族罪ヲ犯シ拘留シタル時宮内省へ通牒方

明治十六年十一月八日

司法省丁第三十二號
大審院裁判所へ達

華族ノ輩(位記ノ有無且戸主隱
房子弟ニ拘ハラス)罪ヲ犯シ拘留シタル時自今其院裁判所ヨリ直ニ宮内省へ通牒シ拘留ノ言渡ヲ爲シタル時ハ其宣告書ノ原本ヲ添へ是亦同様速ニ可致通牒此旨相達候事

○醫師醫業ニ關シ罪ヲ犯シ處斷セシキ内務省へ通牒方

再達

明治十六年十二月二十八日
司法省丁第三十九號大審院裁判所へ達

本年第三十五號布告ヲ以テ明治十五年第三十九號布告被廢候ニ付同年當省丁第四十二號達ハ自然消滅ノ處今般内務卿ヨリ更ニ照會ノ趣モ有之候條同省へ通牒方從前ノ通り可取計此旨相達候事

○勳章年金褫奪及停止取扱手續

明治十七年一月十二日
司法省丁第一號大審院裁判所へ達

勳章年金褫奪及停止取扱手續ノ儀ニ付太政官ヨリ左ノ通被達候條此旨相達候事

司法省

別紙陸軍省勳章年金褫奪及停止取扱手續ノ儀朱書ノ通及指令候條此旨相達候事

明治十六年十二月廿八日

太政大臣三條實美

(別紙) 勳章年金褫奪及停止取扱手續之儀ニ付伺

先般勳章年金褫奪及ヒ停止取扱手續御達相成候處其以前即チ本年第二十二號御布告後第三十九號御達迄之間ニ於テ右ニ適該スル者アルモ勿論該手續ニ準據ス可カラサル儀ト相心得可然哉之旨伺出候處右ハ本年第二十二號布告發布後ハ第三十九號達ニ據リ處分スル儀ト相心得旨御指令之趣敬承仕候然ルニ該手續第二條ニ據レハ勳章褫奪シタル後處刑言渡ヲ爲スモノト有之候處右第二十二號御布告後第三十九號御達迄之間ニ於テ已ニ輕重禁錮ノ處分ヲ受ケ又ハ已ニ其刑滿期後之者ト有之右等ハ如何ノ手續キテ以テ褫奪方取扱可然哉至急何分ノ御指揮相成度此段更ニ相伺候也

明治十六年十一月十日

陸軍卿 大山 巖

太政大臣三條實美殿

(朱書)

伺之趣本年第二十二號布告後第三十九號達發以前ニアツテ既ニ刑ノ言渡ヲナシ未タ勳章視察ノ手續ヲナサハルモノ
ハ該達第三條ノ手續ニヨリ更ニ其罪狀及刑名ヲ賞勳局總裁ヘ具申スヘキ儀ト可相心得事
明治十六年十二月廿八日

○恩給扶助料ヲ有スル者罪ヲ犯シ公權剝奪停止若ク

ハ禁錮以上ノ刑ニ處シタルキ届出方

明治十八年一月六日司法省
丁第壹號大審院裁判所へ達

自今官吏及ヒ陸海軍恩給令ニ據リ恩給ヲ有スル者罪ヲ犯シ公權剝奪若クハ停止ノ處分
ヲ爲シ又ハ扶助料ヲ受クル者罪ヲ犯シ禁錮以上ノ刑ニ處シタル時ハ直ニ其宣告文寫書
ヲ添當省ヘ可届出此旨相達候事 十八年丁第六號省達ヲ以
テ但書消滅ノ係心得シム

○陸軍武官傷痍扶助死亡者祭案家族扶助概則並海

軍退隱令ニ據リ扶助料又ハ退隱料ヲ受クル者公

權剝奪停止若クハ禁錮以上ノ刑ニ處シタル時届

出方

明治十八年五月二十日
司法省丁第拾三號大審院裁判所へ達

官吏及ヒ陸海軍恩給令ニ據リ恩給ヲ有スル者罪ヲ犯シ公權剝奪若クハ停止ノ處分ヲ爲
シ又ハ扶助料ヲ受クル者罪ヲ犯シ禁錮以上ノ刑ニ處シタル時其届出方ノ儀本年丁第壹
號ヲ以テ相達置候處明治八年太政官第四拾八號達陸軍武官傷痍扶助料及死亡者祭案家
族扶助概則並ニ同年太政官第四拾八號達海軍退隱令ニ據リ扶助料又ハ退隱料ヲ受クル
者モ右達ニ準シ當省ヘ可届出此旨相達候事

○沖繩縣及小笠原島檢察官職務

明治二十一年五月十四日
勅令第三十五號

朕沖繩縣及小笠原島ニ於ケル裁判官檢察官職務ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治二十一年五月十四日

內閣總理大臣 伯爵黑田清隆
司法大臣 伯爵山田顯義

沖繩縣及小笠原ニ於テハ當分ノ内同廳官吏ヲシテ裁判官檢察官ノ職務ヲ行ハシム
第二百三十九章 釧路集治監ノ囚人犯罪ノ者處分

方 十八年十二月十七日
第四十二號布告

釧路集治監ノ囚人 假出獄免職
閉ノ者トモ 罪ヲ犯シ輕罪以下ニ該ル者ハ司獄官吏ニ於テ裁判シ治罪ノ
手續モ便宜取計フヘシ

但重罪ハ根室重罪裁判所ノ管轄ニ屬ス

右奉 勅旨布告候事

○罰金及追徴ニ係ル上告豫納金ノ件

十九年六月十日布告
勅令第四十六號

朕罰金及追徴ニ係ル上告豫納金ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治十九年六月九日

內閣總理大臣 伯爵伊藤博文
司法大臣 伯爵山田顯義

罰金及追徴ノ言渡ヲ受ケタル者上告ヲ爲サントスルトキハ其罰金及追徴金ノ十分ノ一
ニ當ル金額ヲ上告趣意書ニ添へ原裁判所書記局ニ預置ク可シ否ヲサレハ上告ヲ爲スコ

トチ得ス若シ上告不當ナルトキハ大審院ニ於テ其全部又ハ幾分チ没入スルノ言渡ヲ爲スヘシ

○刑事裁判言渡ヲ犯人ノ本籍へ通知方十四年十二月十九日 司法省丁第三十三號裁判所へ達
刑事裁判言渡ヲ犯人ノ本籍へ通知シ及ヒ犯人前科取調ノ儀是迄區々相成居候處來明治十五年一月ヨリ左ノ通可相心得此旨相達候事

刑事裁判言渡アリタルキハ治罪法第四百六十四條ニ掲ケル既決犯罪表寫チ犯人本籍ノ地ノ輕罪裁判所檢事ニ送致ス可シ右送致ヲ受タル檢事ハ其旨ヲ犯人本籍ノ地ノ戸長ニ通知シ該表ハイロハ標號ニ從ヒ區別編纂致置可シ

犯罪人ノ前科取調ヲ要スルキハ犯人本籍ノ地ノ輕罪裁判所檢事ニ照會シ檢事ハ編纂致置タル既決犯罪表寫ヲ送致スヘシ
(既決犯罪表式略ス)

○帶勳者ノ犯罪ニ付勳章ヲ褫奪シタルキ犯人本籍へ通知方十九年四月三十日 司法省令丙第六號大審院裁判所

刑事裁判言渡ヲ犯人本籍へ通知方ノ儀明治十四年當省丁第三十三號ヲ以テ相達置タル處自今帶勳者ノ犯罪ニ付勳章ヲ褫奪シタル時ハ其旨併セテ通知ス可シ

○送達書呼出狀召喚狀勾引狀勾留狀收監狀宣誓書

ハ半紙換用ヲ許ス十八年八月十三日 司法省丁第十六號大審院裁判所へ達
明治十四年當省丁第二十八號送達書呼出狀召喚狀勾引狀勾留狀收監狀宣誓書式第壹

葉及ヒ明治十七年當省丁第八號達民事呼出狀並送達書書式第壹號ニ用紙羊濃紙ノ類ト記載有之候處右ハ半紙ヲ以テ換用スルモ苦シカラス此旨相達候事

○犯則ニ由リ官沒ノ物件ヲ戸長ニ於テ公賣ノ節公

賣費用支辨方十八年九月十八日 內務省甲第三十二號府縣へ達

犯則ニ由リ官沒シタル物件ヲ裁判所ノ囑托ニ依リ戸長ニ於テ公賣取扱タル節右公賣ニ關スル費用(物件看守者ノ手當并藏取料筆墨紙辦炭油雜費)ハ其裁判所ノ費用ニ相立ヘキモノニ付戸長役場費ヨリ支辨セサル儀ト心得ヘシ此旨相達候事

○犯罪又ハ犯則ニ依リ沒收ノ物件地方廳へ引繼處

分方十八年十一月廿六日 第六十三號府縣へ達

裁判所ニ於テ犯罪又ハ犯則ニ依リ沒收シタル物件ハ自今都テ地方廳ニ引繼地方廳ニ於テ便宜之ヲ賣却スヘシ此旨相達候事

○違警罪裁判言渡ノ謄本又ハ拔書ヲ下付スル費用

徵否取計方十八年十二月九日 司法省丙第十號裁判所警視廳府縣(東京府ヲ除ク)へ達

明治十五年(三月)當省丙第三拾壹號ヲ以テ違警罪裁判言渡書ノ謄本又ハ其拔書ヲ下付ス可キ費用ハ當分徵收ス可カラサル旨相達置候處本年(九月)第三拾壹號ヲ以テ違警罪即決例公布相成候付テハ自今該裁判ノ正式ニ係ルモノハ該費用ヲ徵收シ其即決ニ係ルモノハ從前ノ通取計可シ此旨相達候事

○犯罪又ハ犯則ニヨリ沒收シタル物件取扱手續

十九年四月十九日
大藏省訓令第三號北海道府廳

明治十八年十一月太政官第六十三號達犯罪又ハ版則ニヨリ沒收シタル物件ハ左ノ手續ニ據リ取扱フヘシ

- 第一項 裁判所ヨリ沒收物件引渡ノ通知ヲ得タルトキハ其物件受取ノ手續ヲ爲シ物件ノ性質ニ從ヒ得失ヲ量リ其應ニ取寄セ又ハ其所在地ノ戸長ニ保管セシムヘシ
- 第二項 沒收ノ物件ハ裁判所ヨリ受取タル後三箇月以内ニ於テ公賣ニ付スヘシ但公賣ノ場所ハ物件所在ノ地ニ限ラス總テ適當ノ地ヲ選定スルモノトス
- 第三項 沒收物件中官廳ノ烙印アルモノハ公賣ニ付スル前烙印ヲ削除スヘシ
- 第四項 公賣ノ方法ハ入札拂若クハ競賣ニ據ルヘシ
- 第五項 沒收ノ物件公賣ニ付スルモ買受人ナキカ若クハ代價相當ノ價格ニ達セサルトキハ公賣ヲ停止シ爾後三箇月以内ニ於テ更ニ公賣ニ付スヘシ
- 第六項 沒收物件中毀損腐敗ニ係リ若クハ物品輕微ニシテ公賣ニ付スルモ價値ナシト認ムルモノ或ハ運搬費置場敷料ヲ要シ公賣スルモ其得失相償ハサルモノ或ハ第五項期限内ニ於テ公賣ニ付スルモ買受人ナク若クハ代價不相當ニシテ公賣ヲ停止シタルモノハ適宜處分スヘシ
- 第七項 沒收物件中其物品取扱上特ニ成規アルモノハ各主管廳ノ指揮ニ據リ之ヲ處分スヘシ

○逃亡犯罪人引渡條例

二十年八月十日布告
勅令第四十二號

朕逃亡犯罪人引渡條例ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治二十年八月三日

内閣總理大臣 伯爵伊藤博文
外務大臣 伯爵井上馨
司法大臣 伯爵山田顯義

逃亡犯罪人引渡條例

第一條 本條例ニ於テ締約國ト稱スルハ既ニ帝國ト犯罪人引渡條約ヲ締結シ若クハ今後締結スル外國ヲ謂フ

引渡犯罪ト稱スルハ外國ト締結シタル犯罪人引渡條約ニ揭クル犯罪ヲ謂フ

逃亡犯罪人ト稱スルハ締約國ノ管轄内ニ於テ犯シタル引渡犯罪ニ付告訴發テ受ケ若クハ有罪ノ宣告ヲ受ケタル帝國臣民外ノ人ニシテ帝國ノ管轄内ニ逃避シタル者又ハ逃避シタルノ嫌疑若クハ逃避セントスルノ嫌疑アル者ヲ謂フ但左ノ場合ニ於テハ帝國臣民ヲ包含ス

- 一 帝國ト請求國トノ犯罪人引渡條約ニ交互其臣民ノ引渡ヲ爲スヘキ條款アルトキ
- 二 犯罪人引渡條約ニ交互ノ任意ヲ以テ其臣民ノ引渡請求ニ應スルコトアルヘキ旨ノ條款アリ且請求國ニ於テ同様ノ場合ニハ自國ノ臣民ヲ引渡スヘキ旨ヲ申出テタルトキ

第二條 締約國ヨリ逃亡犯罪人ノ引渡請求アリ之カ引渡ノ目的ヲ以テ其手續ヲ爲スト
キハ本條例ニ定ムル所ノ條款ニ據ルヘキモノトス

第三條 左ノ場合ニ於テハ逃亡犯罪人ヲ引渡スコトヲ得ス
一 引渡ノ請求ニ係ル者ノ所犯政事上ノ犯罪ナルトキ

二 引渡ノ請求ハ實際政事上ノ犯罪ニ付審問シ若クハ處刑セントスルノ目的ニ出テ
タル旨ヲ本人ニ於テ證明シタルトキ

第四條 逃亡犯罪人其引渡請求ニ係ル犯罪外ノ事件ニ付帝國內ニ於テ告訴告發ヲ受ケ
又ハ處刑中ナルトキハ無罪又ハ刑期滿限若クハ其他ノ事由ニ因リ釋放セラレタル後
ニアラサレハ之ヲ引渡スコトヲ得ス

第五條 帝國ト外國ト犯罪人引渡條約ヲ締結シタルトキハ逃亡犯罪人ノ犯時其締約以
前ニ係ルト雖モ該締約國ノ請求ニ應シ其引渡ヲ爲スコトアルヘシ

第六條 引渡犯罪ニ付帝國裁判所ニ於テ締約國裁判所ト均シク裁判權ヲ有スト雖モ若
シ司法大臣ノ意見ニ於テ其審判ヲ便ナラシメンカ爲メ逃亡犯罪人ノ引渡ヲ可トスル
トキハ之ヲ引渡スコトアルヘシ

第七條 本條例ニ據リ發シタル總テノ逮捕狀ハ帝國內何レノ地ニ於テモ効力アルモノ
トス

第八條 一逃亡犯罪人ヲ二國以上ノ締約國ヨリ各其國ニ於テ犯シタル罪ノ爲メ引渡請
求ヲ爲シタルトキハ最初請求ヲ爲シタル國ニ之ヲ引渡スヘシ但其請求ヲ爲シタル締

約國間ニ特別ノ約束若クハ協議アル場合ハ此限ニ在ラス

第九條 司法大臣ハ外務大臣ノ請求ニ依リ一名若クハ二名以上ノ上席檢事ニ命シ逃亡

犯罪人ヲ假ニ逮捕スル爲メ附錄第一號書式ニ依リ假逮捕狀ヲ發セシムルコトヲ得

外務大臣ハ締約國ヨリ相當ノ順序ヲ經由シ書面又ハ電信ヲ以テ逃亡犯罪人ヲ逮捕ス
ル爲メ既ニ逮捕狀ヲ發シタルコトノ通知ト其引渡ハ正式ニ依リ請求スヘキ旨ノ保證
トニ接シタル後ニ限リ本條ノ請求ヲ爲スヘシ

第十條 假逮捕狀ニ據リ逃亡犯罪人ヲ逮捕シタル場合ニ於テ二月ヲ過キサル相當ノ期
限内ニ其引渡ノ請求ナキトキハ之ヲ釋放スヘシ但此場合ニ於テ逮捕シタル者ヲ釋放
スルモ再ヒ之ヲ逮捕シ及引渡スコトヲ妨ケサルモノトス

假逮捕狀ニ據リ逮捕シタル者ノ引渡請求アリタルトキハ更ニ附錄第二號書式ノ逮捕
狀ヲ發シ假逮捕狀ト交換スヘシ

第十一條 第九條ニ定メタル例外ノ場合ヲ除クノ外ハ引渡請求ヲ爲シタル國トノ條約

ニ定メタル相當ノ順序ヲ經由シ左ノ書類ヲ添ヘ引渡ノ請求アリタル後ニアラサレハ
何人ヲモ引渡ノ目的ヲ以テ逮捕スルコトヲ得ス

一 告訴告發ヲ受ケタル者ノ場合ニ於テハ其所犯ニ付訴アリタル國ノ相當官吏ニ於
テ發シタルト認メ得ヘキ逮捕狀ノ公寫及該逮捕狀ヲ發スルノ根據ト爲リタル口
供書若クハ陳述書ノ公寫

二 有罪ノ宣告ヲ受ケタル者ノ場合ニ於テハ其宣告ヲ爲シタル裁判所ノ證印アル宣

告書ノ寫

第十二條 外務大臣引渡請求書ニ接シ犯罪人引渡條約ノ條款ニ適合シタリト思量スルトキハ該請求書ニ其關係書類ヲ添ヘ之ヲ司法大臣ニ送付スヘシ

司法大臣本條ノ請求ニ接シ妥當ノ事由アル請求ト思量スルトキハ逃亡犯罪人ノ所在又ハ其到着スヘシト認ムル地ノ上席檢事ニ命シ逮捕狀ヲ發セシムヘシ

第十三條 上席檢事前條ニ掲ケタル司法大臣ノ命令ニ接シタルトキハ附錄第二號書式ニ依リ逮捕狀ヲ發スヘシ

第十四條 請求ニ係ル逃亡犯罪人ヲ逮捕シ若クハ假逮捕シタルトキハ其逮捕狀ヲ發シタル上席檢事又ハ之ヲ逮捕シタル地ノ上席檢事ニ引渡スヘシ

上席檢事ハ逃亡犯罪人逮捕ノ顛末ヲ直ニ司法大臣ニ具申スヘシ

司法大臣上席檢事ノ具申ニ接シタルトキ引渡請求書アレハ其寫及附屬書類ヲ速ニ該檢事ニ送付スヘシ但被告人ヲ釋放スヘキノ命令ヲ發スルハ此手續ヲ爲スニ及ハス

第十五條 告訴發テ受ケタル者ノ場合ニ於テハ上席檢事ハ速ニ之ヲ訊問シ其人違ナキコト及引渡請求書ニ附屬セル書類ノ確實公正ナルコトヲ認定スヘシ但上席檢事該書類ノミニテハ證據不十分ナリト認ムルトキハ仍ホ被告人ノ犯罪ニ對スル證據ヲ取ルコトヲ得

有罪ノ宣告ヲ受ケタル者ノ場合ニ於テハ上席檢事ハ速ニ之ヲ訊問シ其人違ナキコト及其引渡ヲ請求シタル締約國ノ相當裁判所ニ於テ宣告ヲ爲シタルノ確實ナルコトヲ

認定スヘシ

第十六條 上席檢事被告人ノ訊問ヲ終了シタルトキハ訊問書ニ其處分方ニ關スル意見書ヲ添ヘ之ヲ司法大臣ニ具申スヘシ但上席檢事ハ之ト共ニ引渡請求書寫及附屬書類ヲ返却スヘシ

司法大臣該檢事ノ具申ニ接シタルトキハ附錄第三號書式ニ依リ引渡狀ヲ發スルカ又ハ逮捕シタル者ヲ釋放スヘシ

第十七條 逃亡犯罪人ハ逮捕狀ニ據リ逮捕セラレタル後二月以上留置セラル、コトナカルヘシ

第十八條 司法大臣ハ左ノ場合ニ限り引渡狀ヲ發スルコトヲ得

- 一 引渡犯罪ニ付告訴發テ受ケタル者ノ場合ニ於テハ若シ其告訴發テ受ケタル罪ヲ帝國内ニ於テ犯シタルモノトセハ帝國ノ法律ニ據リ被告人ヲ審判ニ付スルニ充分ナル犯罪ノ證據アリト認メタルトキ
- 二 有罪ノ宣告ヲ受ケタル者ノ場合ニ於テハ相當裁判所ニ於テ其宣告ヲ爲シタルコトヲ認メタルトキ

第十九條 闕席裁判ニ由リ有罪ノ宣告ヲ受ケタル者ハ其引渡ヲ請求シタル締約國トノ間ニ特別ノ約款アルニ非サレハ本條例ニ於テハ之ヲ告訴發テ受ケタル者ト爲シ有罪ノ宣告ヲ受ケタル者ト認メス

第二十條 逮捕シタル者ヲ釋放シ又ハ其引渡ノ爲メ引渡狀ヲ發シタルトキハ司法大臣

ハ引渡請求書及附屬書類ニ其執行シタル手續及其理由ノ略記ヲ添ヘ之ヲ外務大臣ニ返付スヘシ

第二十一條 引渡狀ヲ發シタル後何人ヲモ一月以上留置スルコトヲ得ス但此期限内ニ之ヲ帝國外ニ引取ラサルトキハ請求國相當官吏ニ於テ正當ノ事由ヲ示スニアラサレハ釋放スヘシ

第二十二條 逃亡犯罪人ヲ引渡ストキハ其逮捕ノ際差押ヘタル本人ノ携帶品ハ正當ノ理由アルニアラサレハ其引渡ノ節本人ト共ニ悉ク之ヲ交付スヘシ

第二十三條 司法大臣ハ外務大臣ノ請求ニ依リ一外國ヨリ他ノ外國ニ引渡シタル者ノ帝國内海陸ノ通行ヲ認可スルコトヲ得

本條ノ請求ハ引渡ヲ受クヘキ國ノ政府ヨリ引渡狀ノ公寫ヲ添ヘ相當ノ順序ヲ經由シタル照會書ヲ外務大臣ニ於テ受領シタルトキニ限ル但帝國ト請求國トノ間ニ特別ノ約款ナキトキハ該照會書ノ外仍ホ請求國ノ政府ニ於テ之ト同一ノ場合即チ第三國ヨリ帝國ニ逃亡犯罪人ヲ引渡シタル場合ニ該請求國內海陸ノ通行ヲ均シク認可スヘキノ保證ヲ爲シタルトキニ限ル

附錄

假逮捕狀

逮捕セラルヘキ者ノ氏名
年齢本貫住所

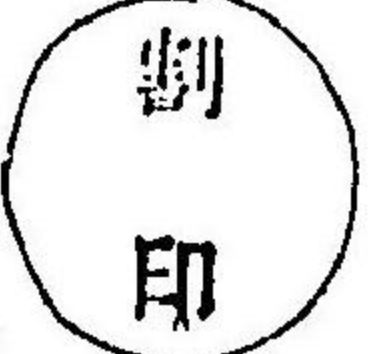
逮捕ヲ受タル者ノ署名印若シ之ヲ得ル能ハサルトキハ其理由ヲ記スヘシ

第一號 式書

司法大臣ノ命令ヲ受ケ逃亡犯罪人引渡條例ニ據リ此假逮捕狀ヲ發シ右ニ掲タル、、、ニ於テ、、、ノ犯罪ニ付(告訴) 有罪ノ宣告(宣告) ヲ受タル、、、國ノ逃亡犯罪人、、、ヲ法律ニ違ヒ處分スル爲メ逮捕スヘキコトヲ命スルモノ也

檢事局
明治 年 月 日
上席檢事署名捺印
裁判所書記署名捺印

執行年月日時	執行場所	執行手續	家宅ヲ搜索シタルトキハ其事實ヲ記スヘシ	右ノ通執行候也 明治 年 月 日 巡查又ハ憲兵署名捺印
--------	------	------	---------------------	-----------------------------------



(此狀ヲ送達シ一葉ヲ受取人ニ渡スヘシ)
(英譯文ヲ此狀ノ裏面ニ記スヘシ)

假逮捕狀

逮捕セラルヘキ者ノ氏名
年齢本貫住所
司法大臣ノ命令ヲ受ケ逃亡犯罪人引渡條例ニ據リ此假逮捕狀ヲ發シ右ニ掲タル、、、ニ於テ

執行年月日時	逮捕ヲ受タル者ノ署名若シ之ヲ得ル能ハサルトキハ其理由ヲ記スヘシ
--------	---------------------------------

告發
有罪ノ宣告
ヲ受タル、
國ノ逃亡犯罪人、
法律ニ違ヒ處分ス
ル爲メ逮捕スヘキコトヲ命スルモノ也

檢事局
明治 年 月 日
上席檢事署名捺印
裁判所書記署名捺印

執 行 所	場 所	手 續	家宅ヲ搜索シタルト キハ其事實ヲ記スヘ シ	右ノ通執行候也 明治 年 月 日 巡查又ハ憲兵署名捺印
-------------	--------	--------	-----------------------------	-----------------------------------

式 番 號 二 第

逮捕狀
逮捕セララルヘキ者ノ氏名
年齢本貫住所
司法大臣ノ命令ヲ受テ逃亡犯罪人引渡條例ニ據
リ此逮捕狀ヲ發シ右ニ掲タル、ニ於テ、
ノ犯罪ニ付(告發) 有罪ノ宣告
ヲ受タル、
國ノ逃亡犯罪人、
法律ニ違ヒ處分ス
ル爲メ逮捕スヘキコトヲ命スルモノ也

檢事局
明治 年 月 日
上席檢事署名捺印
裁判所書記署名捺印

執 行 所	場 所	手 續	逮捕ヲ受タル者ノ署 名若シ之ヲ得ル能ハ サルトキハ其理由ヲ 記スヘシ	右ノ通執行候也 明治 年 月 日 巡查又ハ憲兵署名捺印
-------------	--------	--------	---	-----------------------------------



此狀ヲ送達シ一
葉ヲ受取人ニ渡
スヘシ

(英譯文ヲ此狀ノ
裏面ニ記スヘシ)

檢事局
明治 年 月 日
上席檢事署名捺印
裁判所書記署名捺印

家宅ヲ搜索シタルト キハ其事實ヲ記スヘ シ	右ノ通執行候也 明治 年 月 日 巡查又ハ憲兵署名捺印
-----------------------------	-----------------------------------

逮捕狀
逮捕セララルヘキ者ノ氏名
年齢本貫住所
司法大臣ノ命令ヲ受テ逃亡犯罪人引渡條例ニ據
リ此逮捕狀ヲ發シ右ニ掲タル、ニ於テ、
ノ犯罪ニ付(告發) 有罪ノ宣告
ヲ受タル、
國ノ逃亡犯罪人、
法律ニ違ヒ處分ス
ル爲メ逮捕スヘキコトヲ命スルモノ也

檢事局
明治 年 月 日
上席檢事署名捺印

逮捕狀ヲ受タル者ノ 名若シ之ヲ得ル能ハ サルトキハ其理由ヲ 記スヘシ	執 行 所	場 所	手 續	家宅ヲ搜索シタルト キハ其事實ヲ記スヘ シ
---	-------------	--------	--------	-----------------------------

印

裁判所書記署名捺印

右ノ通執行候也
明治 年 月 日

巡查又ハ憲兵署名捺印

引渡狀

引渡サルヘキ者ノ氏名
年齢本質住所

逃亡犯罪人引渡條例ニ據リ此引渡狀ヲ發シ明治
、、年、、月、、日附ノ(逮捕狀)ニ據リ、

第 國ニ於テ、、犯罪ニ付(告訴)ヲ受タ

三 逃亡犯罪人トシテ明治、、年、、月、、日逮

號 捕シタル右、、ヲ受取コトヲ相當ニ命セラレタ

式 人、、ニ於テ右、、ヲ監禁シ、、國ノ管轄内ニ

送致シ相當官吏ニ交付スルコトヲ命スルモノ也

明治 年 月 日 司法大臣、、、 印

執 行
年 月 日 時

執 行
場 所

受 取
署 名

署 名

右ノ通執行候也

明治 年 月 日

引渡サルヘキ
者ヲ留置シタ
ル監獄ノ典獄
ノ署名捺印

割 印

(此狀ヲ送達シ一
葉ヲ受取人ニ渡
スヘシ)

(英譯文ヲ此狀ノ
裏面ニ記スヘシ)

引渡狀

引渡サルヘキ者ノ氏名
年齢本質住所

逃亡犯罪人引渡條例ニ據リ此引渡狀ヲ發シ明治
、、年、、月、、日附ノ(逮捕狀)ニ據リ、

第 國ニ於テ、、犯罪ニ付(告訴)ヲ受タ

三 逃亡犯罪人トシテ明治、、年、、月、、日逮

號 捕シタル右、、ヲ受取コトヲ相當ニ命セラレタ

式 人、、ニ於テ右、、ヲ監禁シ、、國ノ管轄内ニ

送致シ相當官吏ニ交付スルコトヲ命スルモノ也

明治 年 月 日 司法大臣、、、 印

執 行
年 月 日 時

執 行
場 所

受 取
署 名

署 名

右ノ通執行候也

明治 年 月 日

引渡サルヘキ
者ヲ留置シタ
ル監獄ノ典獄
ノ署名捺印

○獸醫及獸類傳染病豫防規則犯罪者處斷ノ節

農商務省へ通知セシム

二十年二月二十三日
司法省訓令第十號裁判所

十八年八月第二十八號布告及十九年九月第十一號農商務省令ニ依リ今般農商務省ヨリ照會ノ趣モ有之候ニ付テハ自今獸醫免許規則第十四條並獸類傳染病豫防規則第十九條ノ犯罪其他刑法ニ正條アル獸醫ノ犯罪處斷致候節ハ其都度裁判宣告文謄本相添ヘ農商務省ヘ通知スヘシ

○陸軍省所管ノ軍人軍屬脫走之者捕縛遞送方

明治五年六月二十九日
第九十九號布告

陸軍省所管ノ軍人軍屬脫走之者各府縣ニ於テ見當リ候ハ、致捕縛府縣送リテ以テ其地方所管ノ鎮臺本營或ハ分營ヘ護送可致候此旨相達候事

●伺指令

●違警罪裁判ニ付証人呼出ニ應セサル者處分方ノ儀ニ付新潟縣ヨリ
司法省ヘ伺十六年八月四日

第一條 治罪法第二百九十六條(前略)檢察官之意見ヲ聽キ前キニ定メタル科料罰金之ニ倍云々トアル前之字ハ同法第二百九十三條之各項ヲ指シタルモノナルヤ或ハ初度呼出シニ應セサリシキ右各項之範圍内ヲ以テ云ヒ渡シタル金額ヲ指シタル儀ナルヤ
第二條 治罪法第二百九十六條ニ據リニ倍之科料金ヲ云ヒ渡スハ貳圓以上(壹圓五拾錢ノニ倍ノ如シ)之金額ニナルモ科料ト稱シ得ルハ勿論之儀ナルヤ
右者疑義アリ決兼候間至急何分之御指令相成度此段相伺候也
指令 十六年八月十五日

第一條 治罪法第二百九十三條ノ各項ニ記載シタル科料罰金ノ範圍ノニ倍ヲ云フ者ニシテ其範圍内ヲ以テ先キニ言渡シタル金額ノニ倍ヲ云フニアラス

第二條 科料ト稱スヘシ但シ刑法第七十二條第二項ニ依リ二圓四十錢以上ニ至ルヲ得ス

●京都府ヨリ治罪法中疑義司法省ヘ請訓 十六年八月卅日

第一條 治罪法第二百九十三條ニ家宅ニ潛匿シタルト思料シタルルハ云々トアリ現ニ見認ル時ト雖モ客年第四十六號公告第五項ヲ除クノ外日出前日没後ハ家宅搜索難致筋ニ有之候哉

第二條 全第八十一條第八十二條ニ左ニ記載シタルモノハ証人ト爲ルコトヲ許サスト有之立會人トナルコトヲ得サルノ明文無之ニ付無能力者ヲ除クノ外立會人トナルコトヲ得ル儀ト心得可然哉右及請訓候也

右内訓 十六年九月十一日
請訓ノ趣第一條令狀執行人ニ於テ現ニ目擊シタル場合若クハ戸主ノ承諾アルルハ何時ニ拘ハラヌ家宅搜索ヲ爲スコトヲ得第二條ハ見解ノ通此旨及内訓候也

●岐阜縣裁判所檢事ヨリ司法省ヘ令狀ニ書記署名ヲ要スルヤ否ニ付請訓
十六年九月十八日

本年第八號ヲ以豫審判事豫審ヲ爲ス時ハ當分ノ内書記ノ立會ナクシテ被告人證人ヲ訊問スル事ヲ得ト御布告有之ニ付書記ノ立會ナクシテ取調タル豫審事件ノ終結言渡書ノ如キハ無論書記ノ署名ヲ要セサル儀ト存候得共總テノ令狀ニハ治罪法第三百三十條第二項ニ依リ書記ノ署名捺印ヲ要ス可キモノナルヤ疑義ヲ生シ候ニ付此段請訓候也
内訓 十六年十月四日

別紙請訓ノ趣ハ令狀ハ勿論終結ノ言渡書ヲモ書記ノ連署ヲ要スヘキ者ト心得可シ此段及内訓候也

●豫審終結處分ノ儀ニ付前橋始審裁判所檢事ヨリ司法省ヘ伺十六年九月十三日
脅迫致淫ノ如キ被害者ノ告訴ヲ待テ論スヘキ罪其告訴ニ因リ檢事ノ請求シタル事件ハ假令豫審中被害者ノ棄權アルモ豫審判事ハ通常ノ規則ニ從ヒ仍終結ノ處分ヲ爲スヘキ筋ト相心得候得共意見反對ノ向モ有之ニ付此段相伺候也

但豫審判事ニ於テ未豫審ニ着手セサル内被害者ノ棄權アル場合ト雖モ檢事ノ請求ニ係ル事件ハ本文同様成分スヘキ儀ト相心得可然ト添テ相伺候也

指令 十六年九月廿九日

檢察官ノ起訴ヲ爲シタル後被害者棄權ヲ爲シタル時ハ豫審判事ニ於テ本案ノ取調ヲ要セス直チニ免訴ノ言渡ヲ爲ス可キ者トス

●官吏告發ノ儀ニ付福岡縣ヨリ司法省へ同十六年九月二十七日

官吏職務ヲ行フニ當リ重罪輕罪ノ別ヲ認知又ハ思慮シタルモ相當ノ官吏ニ告發スヘキハ治罪法第九十六條ニ於テ命令アル儀ニ有之候然ルニ告發後若其被害者人罪トナラサル場合其損害ノ償ヲ要ムルモ法律ノ命令ニヨリ職務ヲ以テ爲シタルモノナレハ其要償ノ義務ヲ有セス同法第十七條ニ準據スヘキモノト被存候付共同條ニハ檢察官又ハ司法警察官ト指定シ一般官吏ニ適用スルノ明文ト雖認候條爲念一應相伺候也

指令 十六年十月九日

伺ノ趣治罪法第十七條ニ掲載シタル官吏ト均ク要償ノ訴ヲ受ケサル儀ト心得ヘシ

●京都始審裁判所檢事ヨリ司法省へ哀訴ニ關スル書類遞送方ノ儀ニ付請訓

十六年九月廿六日

治罪法第四百三十七條ヲ按スルニ哀訴ヲ爲サントスル者ハ大審院ノ書記局ニ其申立ヲ爲スヘキト明瞭タリト雖モ哀訴者タルヤ罰金及ヒ拘留料ノ刑ニ處セラレタル者ヲ除クノ外多クハ收監シアルヲ以テ大審院所在ノ地ニ住セサル訴訟關係人ハ直ニ該院ノ書記局ニ之ヲ申立ツルト甚タ難シトス而シテ茨城縣ノ伺ニ對スル明治十五年五月三十一日ノ御指令ニ依レハ在監ヨリ差出シタル哀訴狀ハ司獄官吏ヨリ其書類ヲ大審院書記局へ回送スヘキ旨趣ナルヲ以テ是ノ點ニ對シ聊疑訝ヲ生ス何トナレハ哀訴ノ申立書ヲ司獄官吏ヨリ大審院へ送付セハ原裁判所ノ檢察官ハ其哀訴アリシトテ覺悟セサルニヨリ法律上執行ヲ停止スヘキ日時即治罪法第四百三十八條ニ定メタル三日間ヲ經過スレハ刑ヲ執行スヘキ指揮書ヲ典獄へ發セサルヘカラス夫レ之ヲ發付スルモ哀訴アリタル上ハ實際執行ハ停止スヘキモノナルニ

付既ニ發シタル指揮書ハ事實ニ抵觸スルナ如何セン且不在監ノ訴訟關係人ニシテ哀訴ヲ爲サントセハ遠隔ノ地方ニ住スルモノト雖モ已レ自カラ大審院ニ出頭シ其書記局へ哀訴ノ申立ヲ爲スヘキ儀ニ之レアルヘシ然レハ其手續タルヤ頗ル迂遠ニ涉リ實際ニ徴シテハ施行シ難キ場合ナシト概言スヘカラス故ニ哀訴ニ關スルモノト雖モ其書類ノ遞送ハ渾テ原裁判所書記局ノ取扱ニ屬セシムル時ハ哀訴ノアリタルトハ書記局ヨリ檢察官ニ通報スルハ難キニアラス加之拘留不拘留人ノ區別ナク哀訴申立ノ手續ハ同一ニ期シ實際ニ於テモ其宜キテ得法律ニ矛盾スル所ナシ因テ哀訴ニ關スル書類ノ遞送ハ原裁判所書記局ノ取扱ニ屬スヘキ儀ト相心得可然哉此段即内訓候也

内訓 十六年十月九日

請訓之趣哀訴ハ本人ヨリ代理人ヲ差出スカ又ハ重罪事件ニ係リ大審院ヨリ其代理人ヲ撰任セシ場合ニ非サレハ之ヲ爲ス可カラス但シ治罪法第四百三十八條ニ依リ大審院ノ言渡ハ三日間執行ヲ停止スヘキ者ナレハ其執行ヲ爲シ得ヘキニ至リ檢事長ヨリ執行ヲ命スヘキニ付原裁判所ノ檢察官ニ於テ哀訴アリシト知ラヌシテ執行命令書ヲ發スルカ如キ場合ナカル可シ

●山形始審裁判所米澤支廳檢事ヨリ司法省へ裁判執行方ノ儀ニ付請訓

十六年九月二十六日

例ヘハ茲ニ重禁錮三月ニ處セラレタル者アランニ該言渡檢事ノ上告ニ係リ其後滯監二月ニシテ保釋ヲ許サレタリ然ルニ保釋中餘罪發覺シ又ハ更ニ罪ヲ犯シタルヲ以テ大審院ノ判決ヲ待タス直チニ重禁錮五月ニ處スルノ裁判言渡アリタル場合ノ如キハ上告ニ係ル事件ノ刑期ニ拘ハラス其執行ヲ爲スヘキハ勿論ナリト雖モ被刑者ハ前裁判ニ於テ已ニ二月ノ滯監アルヲ以テ此滯監二月ヲ扣除シ執行官ハ餘ル三月ノ執行ヲ爲スヘキ哉將タ上告ニ係ル事件ト本件トハ全ク別物ナルニ依リ之ヲ扣除スルノ限ニノラサルヤ若シ扣除スヘカラサル者トセハ後發ノ罪ニ依リ受ケタル刑執行濟ノ後大審院ニテ上告ヲ棄却セラレ又ハ前判ノ刑期ヨリ輕キ重禁錮二月ニ處スルノ言渡アリタルト如キハ前後併セテ七月ノ拘束ヲ爲スニ至リ被害者ニ於テハ其不利益尠カラス且刑法第百二條ノ精神ニモ戻ル機被考疑議決兼候條此段請訓候也

内訓 十六年十月九日

内訓ノ趣前段見解ノ通

●違警罪犯誤裁判改正之儀ニ付神奈川縣ヨリ司法省へ伺十六年十月二十九日
違警罪犯トシテ科料又ハ拘留ノ刑ニ處シタル者其裁判全ク過誤ニ出テ入ルニ失シタル事確然タル時ハ便宜ノ手續ヲ以テ前裁判ヲ改正致シ不苦候哉

指令 伺之道 十六年十一月二日

●根室輕罪裁判所檢事ヨリ司法省へ繼續犯罪疑義ノ件請訓十六年十月六日

茲ニ新法實施以前ニ在テ屬籍氏命ヲ詐稱シ娼妓營業免狀鑑札ヲ受ケ其鑑札ハ一旦上納シタルモ又其前詐稱セシ屬籍氏名ヲ名乘リ同シク又新法實施以前娼妓營業免狀鑑札ヲ受ケ其營業中即チ新法實施後ニ至リ該鑑札面ノ屬籍氏名字形等ノ既ニ消滅ニ歸セント慮ハカリ再度其筋へ書替改質ヒ受ケタル後チ該屬籍氏名等ハ全ク是迄詐稱シ居タリト自首スル被告事件ノ如キハ一寸繼續犯罪ノ如シト雖モ之ヲ熟考スルニ於テハ固ト其屬籍氏名ヲ詐稱シ其他詐欺ノ所爲ナ以テ免狀鑑札ヲ受ケル罪ノ如キハ既ニ其鑑札ヲ受ケタル其罪ノ成立タル者ニシテ何ソ新法實施後ニ及ホシテ娼妓營業シタルト否トニ關スルノ理アラシヤ又其新法實施ノ以前ニ在テ受ケタル免狀鑑札面ノ文字等新法實施ノ後ニ至リ殆ト其消滅ニ歸サンコト慮カリ其筋へ書替改質受ケタル所爲ノ如キモ固ト惡意ヲ以テ更ニ屬籍氏名ヲ詐稱シ書替改メテ爲シタル者ニアラサレハ敢テ新法ヲ以テ論ス可キノ限ニ非ストセン歟果シテ然ラハ則繼續犯罪ニ非スノ刑法第三條ニ依リ新舊ノ法ヲ比照シ輕キニ從フテ處斷可然ト考量スルモ如此犯罪ハ繼續犯罪ナルヲ以テ新法ノミニテ罰ス可キモノナリトノ論アリ疑義ヲ生シ候間伺候條何分ノ御訓示相成度此段御内訓奉仰候也

内訓 十六年十一月九日

請訓之趣ハ前段見解ノ通

但新法實施後詐稱ノ氏名ヲ以テ鑑札ヲ替願出タル廉ハ刑法第二百三十一條ニ依リ處分スヘシ

●高知始審裁判所檢事ヨリ司法省へ姦罪ニ對スル棄權之儀ニ付請訓十六年十月一日

茲ニ一ノ犯既ニ處斷ヲ經當時上告中ニ係レル者ニ對シ姦婦ノ本夫ヨリ其姦夫ニ對スル告訴ニ限リ棄權致度官願出タルモノアリ右ハ舊判言渡以前トモ違ヒ言渡以後ニ係ルモノハ舊判未確定ト雖モ無論公訴ヲ消滅スルノカナク又假

令言渡以前ト雖モ所謂犯姦ノ如キニ至テハ即チ二人一罪ヲ爲シタルモノニテ一半ヲ問ヒ一半ヲ措クノ理ナキヲ以テ姦夫一人ニ限リタル願下ハ棄權ノ効ナキモノト相心得候得共其分界上ニ於テ聊疑義ヲ生シ候ニ付何分ノ御指揮相成度此段御内訓候也

内訓 十六年十一月十五日

請訓ノ趣姦夫ニ對シ棄權ヲ爲シタル片ハ姦婦ニ對スル告訴モ從テ消滅ス但裁判言渡後ハ棄權スルモ其効ナキ者トス此旨及内訓候也

●神戸始審裁判所檢事ヨリ司法省へ公訴私訴期滿免除ノ儀ニ付請訓十六年十一月六日

第一條 期滿免除ノ期限ハ犯罪ノ日ヨリ起算スト雖モ新法實施以前ノ犯罪ニ付テハ明治十四年十二月廿一日迄ハ其期限ヲ中斷シタルト同一ノモノトス但前後通算ノ法ハ治罪法第十四條第二項但書ノ通りタルヘシ云々先般上田始審裁判所ノ伺ニ對シ御指令相成且一般ヘモ御達相成候處右御指令ノ趣意ハ例ヘハ明治十四年十二月廿一日迄ニ既ニ滿六年ヲ經過シタルモノト雖モ新法御實施ノ日ヨリ滿ニケ年間ハ之ヲ罰スルコトヲ得ルノ儀ニ可有之哉又ハ其犯罪ノ日ヨリ新法御實施ノ日迄既ニ滿六年ノ期限ヲ經過シタルモノハ公訴ヲ免カレ候儀ニ可有之哉

第二條 新法御實施前ノ犯罪公訴期滿免除ノ期限起算方ノ儀前條初項ノ解釋ノ如キニ候ハ、被害者ノ不利稍々薄シト雖モ若シ後項ノ如キニ候ハ、被害者ニ於テ俄然一大不幸ヲ被ルノ恐レ不少ト考量致シ候何トナレハ舊法施行ノ際ニ在テハ假令數年ヲ經過シ舊惡減免ニ依リ罰ヲ免カレ、モノト雖モ被害者其犯罪ノ爲メ損害ヲ受ケタル事實ヲ告訴シ其証充分ニシテ且贓品賊手ニアル片ハ法官追徵シテ被害者ニ還付スルノ成例ニ有之候處新法御實施公訴私訴期滿免除ノ制ヲ被設候力爲メ舊法ノ際犯罪ニ因テ害ヲ被リタル者其物件假令賊手ニアル顯然タルモ犯罪ヲ原由トシテ之ヲ告訴スルヲ得ス何トナレハ治罪法第十二條ニ依レハ公訴私訴共ニ期滿免除ノ期ヲ同シフスレハナリ抑モ贓物返還ノ際ノ如キハ刑事ニ附帶スルモ民法ノ原則ニ從ヒ支配スヘキモノナレハ假令新法舊法ヨリ輕キヲ以テ舊犯罪ニ公訴期滿免除ヲ適用スルヲ得ルモ贓物返還ノ際ニマテ新法ヲ適用スルハ法理上不可ナルノミナラス實際上大ニ被害者ノ不幸尠カラスト存候依テ新法御實施前ニ在テ犯罪ノ爲メ害ヲ受ケタル者ハ其贓品現存スル片ハ

贖手ニ在ルト否トヲ問ハス(例ヒハ詐欺ノ手段ニ係リ奪取ノ處分總テ舊法ノ手續ニテ取扱候様致シ度ト思考仕候)

第三條 若シ前條ニ陳述セル如ク私訴滿期免除ニ付テハ新法御實施以前ノ被害事件ニ遡ラサル儘ニ有之候得ハ舊法贓物追徴處分ノ如ク刑事裁判所ニ於テ取扱候方頗ル便益ト被考候得共果シテ刑事裁判所ニ於テ處分シ可然哉

内訓 十六年十一月十七日 誦訓ノ趣左ノ通心得ヘシ
第一條 後段見解ノ通但舊惡減免例圖ニ照シ減免ニ係ル者ハ期滿免除ノ期限ヲ經過セスト雖モ仍ホ舊法ニ依リ減免ス

第二條第三條 舊法ノ舊惡減免ニ該ルヘキ場合ハ治罪法第三百六條ノ旨意ニ依リ私訴ノ裁判モ併テ刑事裁判所ニ於テ之ヲ爲スヲ得ルモ若シ新法ノ期滿免除ニ該ルヘキ場合ニシテ本案ノ辯論終結前ニ在テ免訴スヘキ時ハ刑事裁判所ニ於テ其私訴ニ付テノ裁判ヲ爲ス可ラサルニ付民事原告人ハ更ニ民事裁判所ニ出訴セサル可カラス

●重罪裁判言渡ノ際辯護人出廷セサル片取扱方ノ儀ニ付東京控訴裁判所檢事ヨリ司法省ヘ伺十六年十一月廿九日

當重罪裁判所ニ於テ裁判宣告ノ際ニ當リ被告人ヨリ選任シタル代人ニモアラス又辯護人ノ資格ヲ有スル代人ニモアラス唯一箇ノ入民ニシテ辯護人ノ代人ト爲リ辯護人ノ席ト定メタル其席ニ就カシメ裁判官モ之ヲ退ケス其儘ニシテ宣告スルヲ往々有之右ハ管法廷ヲ汚スノミナラス被告人ノ爲メニモ利益ヲ見ス又治罪法ノ精神ニモ違背スヘシト思考セリ抑辯護人ノ職務ハ裁判ノ始メヨリ其結局ニ至ルマテ被告其人ノ爲メ辯護スヘキモノナレハ裁判ノ結果如何ナルヲ聽キ辯護ト相反シ不常ト認メタル片ハ被告人ナシテ上告セシムルノ權アリ然ルニ裁判宣告ノ際辯護人ヲ置カサレハ被告人ニ於テ其宣告ヲ聞達又ハ開落ナキヲ保シ難シ遂ニ多少ノ利益ヲ失フアルヘシ何トナレハ裁判宣告ハ被告其人ニ取リテ最モ緊要ノ時間ナリ辯護人ノ辯論モ此ニ至テ始テ有効無効ヲ知ルニ足ルモノナリ故ニ辯護人ハ唯事實辯論ト法律辯論トノミニ止マラス裁判終局ニ至ル迄被告其人ノ爲メニ利益ヲ謀リ上告スヘキハ上告モ爲サシムヘシ治罪法第三百八十一條第一項ノ明文ノミナリテ論スレハ辯護人ハ唯辯論ヲ爲ス時ニ限ルモノノ如シト雖モ法廷

上ノ休裁ヨリ見ルモ辯護人ノ資格ヨリ論スルモ公判終局迄ハ辯護人其席ニ就クヲ以テ治罪法ノ精神ト謂ハサルヲ得ス何等關係モナキ一箇ノ人民ヲ代人ト爲シ辯護人ノ席ニ就カシムルニ至テハ管法廷ヲ汚スノミナラス被告其人ニ取テ毫モ利益ヲ見ス故ニ裁判宣告ノ當日辯護人疾病等ニ罹リ出廷シ難キ片ハ辯護人ノ資格ヲ有スル者ヲシテ代人ト爲シ出廷セシメ候得ハ治罪法ノ精神ニモ相違シ可申ト存候右ハ如何相心得可然哉至急御指揮ヲ仰キ候也
指令 伺之通 十六年十二月四日

●答辯書等差山方期限之儀ニ付前橋始審裁判所檢事ヨリ司法省ヘ伺十六年十一月廿五日
甲裁判所ニ於テ重罪裁判所ニ移スノ欠席言渡ヲ受ケタル被告人其公判前乙地ニ於テ又重罪ヲ犯シ逮捕セラレタル際欠席言渡アリタルヲ知リ該言渡ニ對スル故障ヲ乙裁判所ニ爲シタル内ハ勿論乙裁判所ニ於テ之ヲ判決ヲ爲スヘキモノナルヲ以テ對手人ヨリ差出スヘキ答辯書等ノ期限ハ甲裁判所ヨリ故障ニ關スル一件書類ノ送致アリタルヨリ起算スル儀ト相心得可然ヤ此段相伺候也
指令 十六年十二月廿日

別紙伺ノ趣豫審ノ言渡ハ其勝本ヲ被告人ノ住所ニ送達シタル後治罪法第二百四十七條ノ期限ヲ經過スルハ被告人ニ於テ之ヲ知ルト否トヲ問ハス確定スヘキ者ニ付伺面ノ如キ場合ハ實際甚タ少ナカルヘシト雖モ若シ確定前其言渡ニ對シ故障ヲ爲スアアラハ十五年本省丙第七號達ニ依リ乙裁判所ニ於テ後犯ノ罪ト共ニ之ヲ判決スルヲ得ルハ見込ノ通此場合ニ於テハ甲裁判所ニ照會シ該書類ノ送致アルヲ俟テ書記ヨリ其書類ト共ニ被告人ノ差出セシ趣意書ヲ檢察官ヘ送致スヘキ者ト心得可シ

●京都始審裁判所檢事ヨリ司法警察官ニ於テ既決囚訊問ノ儀ニ付司法省ヘ伺十六年十一月廿六日

第一條 司法警察官ニ於テ現行準現行犯罪人ヲ訊問スルニ其共犯者他ノ犯罪ニ依リ現ニ既決監ニ在リ訊問ヲ要スル場合ニ於テハ別ニ令狀ヲ要セス司法警察官ヨリ該囚護送方ヲ監獄署ヘ照會シ監獄署ニ於テハ右照會書ニ依リ護送ス可キ者有之候哉將々勾引狀ヲ發シ引致セシメ訊問ス可キ儀ニ可有之哉

第二條 司法警察官ニ於テ事實參考ノ爲メ既決囚ノ陳述ヲ聞カントスル時ハ該囚護送方監獄署ヘ照會ス可キモノニ有之候哉將々報知書ヲ監獄署ヘ送致シ監獄署ニ於テハ其報知書ヲ本人ヘ下付シタル上無論護送ス可キモノニ可有之哉

右仰内訓候也

内訓 十六年十二月五日 第一條 後段見解之通 第二條 前段見解之通

●長野縣令ヨリ治罪法疑義ノ件ニ付司法省ヘ請訓十六年十二月四日

被告事件ニ付拘留狀ヲ以テ拘留中ノ者十日ヲ經過スルモ豫審判事ニ於テ收監狀ヲ不發又責付ヲモ不許依然打檢置キ候場合ニ於テハ司獄官吏ニ於テ被告人ヲ釋放ス可キヤ將々發ス可キ令狀ヲ發セサル時治罪法第二百三十四條ノ規則ニ依リ被告人ニ於テ故障ヲ爲スコトヲ得ルニ止リ假令拘留狀期限ヨリ幾日經過スルモ依然拘束致置クヘキモノナルヤ疑義ヲ生シ候ニ付至急何分ノ御明示相成度此段及請訓候也

内訓 十六年十二月廿日

別紙請訓ノ趣豫審判事ニ於テ收監狀ヲ發セス又責付ヲ爲サ、ル時ハ司獄官吏ヨリ檢事又ハ豫審判事ニ期限經過ノ旨ヲ通知ス可シ此旨及内訓候也

●山形縣罪裁判所檢事ヨリ違警罪上告ノ儀ニ付司法省ヘ請訓十六年十二月三日

違警罪上告ノ儀ニ付本年六月渡邊檢事長ヨリノ伺ニ對シ單行法律規則ニ依リ拘留科料ニ處スル者ト雖モ本刑ノ長期多數輕罪ノ範圍内ニ在ルモノハ上告ヲ爲スコトヲ得ヘシ但書ハ長短多數共全ク違警罪ノ範圍内ニ在ルモノハ見込ノ逆リト御内訓相成候處例ヘハ証券印稅規則第四條第二條ニ該ルモノニシテ脫稅高壹錢ノ十倍若シクハ二十倍ノ科料金拾錢或ハ貳拾錢ニ處スヘキモノナルハ上告ヲ許サレサル儀ニ可之哉又ハ其多數揭載ナキモ所犯ノ事實ニ依リ數百圓ニ至ルモノニ付全違警罪ノ範圍内ニ在ラサルモノト解釋致シ可然哉此段仰内訓候也

内訓 十六年十二月廿一日

請訓ノ趣前段見解之通但脫稅多額ニシテ貳圓以上ノ罰金ニ該ル可キ者ナルハ上告ヲ爲スコトヲ得ヘシ

●死刑ノ宣告ヲ受ケタル者病氣ノ節執行方疑義ノ廉群馬縣ヨリ司法省ヘ伺

十六年二月四日

茲ニ死刑ヲ執行スヘキ者當時病氣(望扶私或ハ腦膜炎ノ類)ニ罹リ更ニ人事ヲ省ミサルカ如キ受刑者アラシ此際直ニ執行ヲ爲スハ却テ刑罰ノ本旨ニ悖ヒ少シク妥當ナラサルヲ覺テ因テ右ノ場合ニ於テハ其執行ヲ停止シ假令痊愈至ニラサルモ幾分ノ本復ヲ待テ執行スヘキ儀ト相心得可然哉法章上明文無之ニ付相伺候也

指令 十六年十二月廿四日

伺ノ趣死刑ノ執行ヲ受ケヘキ者疾病ニ罹リ人事ヲ辨セサル時檢察官ニ於テ其執行ヲ爲スヘカラスト認メタルハ伺之通

但執行ヲ爲スニ難支ナキニ至リ之ヲ執行スルモ亦々檢察官ノ指揮ニ依ル儀ト心得ヘシ

●哀訴期限ノ儀ニ付京都府ヨリ司法省ヘ伺十六年十二月十七日

刑ノ執行停止ノ儀ニ付本年九月廿六日京都府始審裁判所檢事請訓ニ對シ御訓示ノ次第モ有之候處右ニテハ當府ノ如キ大審院ト所在地異ニスル土地ニ在リテハ治罪法第四百三拾八條ニアル處ノ三日間ハ右旨渡書送達ノ時間中ニ已ニ經過シ被告人ニ送達スルヤ否直ニ刑ノ執行ヲセサルヲ得サルカ如キ場合アリテ甚タ不穩當ト相考候付テハ右御訓示ノ旨趣ハ大審院ノ旨渡ノ原裁判所等ニ着シ之レヲ被告人ニ送達ナリシ翌日ヨリ三日間ヲ經テ刑ヲ執行スヘキモノト相心得可然哉疑義ヲ生シ候ニ付何分ノ御指令相成度此段相伺候也

指令 十六年十二月廿八日

伺ノ趣哀訴ハ大審院旨渡ノ翌日ヨリ起算スヘキニ付本人ヨリ同院ヘ代言人ヲ差出シ置クカ又ハ重罪事件ニ係リ同院ヨリ其代言人ヲ撰任セシ場合ニ非サレハ之ヲ爲スコトヲ得サルモノトス

●證據物品處分方之儀ニ付樺戶集治監ヨリ司法省ヘ伺十六年十二月五日

第一條 已決囚徒入監ノ節所持ノ物品ヲ情願ニ任セ司獄官吏ヨリ他ニ賣却シタル後餘罪發覺シ右物品ハ處ニ犯罪ノ用ニ供シタルモノナル時ハ其公商公賣ニアラサルモノ之ヲ買取ルト雖モ沒收スルノ限ニ無之候哉

第二條 總テ証據物品裁判所ノ管轄地外ニアルキハ其管轄裁判所ニ囑託シ送付ヲ求メ可然哉又其送付費用ハ何レノ裁判所ニテ支辨シ可然哉

第三條 前條送付シタル物品裁判所ノ上送付ノ旨渡ヲ爲シタル時其旨渡ヲ受ケル者裁判所ノ管轄地外ニ在ルキハ其所轄裁判所ヘ囑託シ送付致可然哉然ラハ其運送費ハ何レノ裁判所ヨリ支辨ス可キ儀ニ候哉
右相伺候條至御裁令相成度候也

指令 十七年一月十一日 第一條 見込ノ通

第二條 治罪法第六十一條ニ從ヒ司法警察官檢察官又ハ裁判官ニ囑託スルコトヲ得但付送費用ハ囑託ヲ受ケタル官署ニ於テ支辨ス可キモノトス

第三條 囑託ヲ爲ス迄ノ運送費ハ其官署ニ於テ支辨シ囑託ヲ爲シタル以後ノ運送費ハ囑託ヲ受ケタル官署ニ於テ支辨ス可シ

●租稅官吏職務上家宅搜查ノ儀ニ付長崎縣ヨリ司法省ヘ伺(電報)十七年一月十日
客年第四十三號公布ニヨリ主任官吏規則ノ證憑取調ルル本人拒ムトモ家宅倉庫ヲ搜查スルノ權アリヤ
指令 十七年一月十四日 客年第四十三號公布ニ依リ家宅倉庫搜查ノ件ハ伺ノ通

●大坂控訴裁判所檢事ヨリ豫審終結ノ條項ニ付司法省ヘ請訓十六年十二月十日
凡ソ公訴ノ豫審タルヤ每當極メテ難職疑獄ニ係リ務メテ鄭重慎重ヲ旨トシ要スルニ被告事件ノ証據徵悉ヲ集取シ以テ充分ノ証憑アル否ヤヲ判決スルノ一點ニ外ナラス然リ而シテ其集取シタル數個ノ証憑中必スヤ信否取捨一ナラスシテ之レカ判決ヲ與フルヤ精確ニ心証ノ資料ヲ擇ラヒ事實ノ眞據ヲ明カニシ判決ノ理由ヲ示シ以テ裁判ノ公平無偏ヲ保チ須ラク証憑曖昧ノ間ニ事實ヲ誤リ無辜ノ民ヲシテ不幸ノ害ニ陷ラシメサルヲ要ス可キ者タルヤ旨ヲ俟タス然ルニ當廳所轄ノ各裁判所ニ於テ間ニ豫審ノ旨渡書中證憑ノ事項ヲ明示セズ單ニ証憑充分トノミ略記スル者有之是等ハ何ノ證憑ニシテ充分ナリト判定シタルヤ漠然トシテ其必信ノ証據更ニ知了スルニ由ナク乃チ檢察官ニ於テハ犯罪ヲ証明スルノ資料ヲ擇フニ煩ハシク被告人ニ於テハ自護ノ反証ヲ照考スルノ便ヲ缺キ被告人ノ幸不幸ヲ來タス而

已ナラス公衆ノ危險モ亦少ナシトセス旁々不都合ヲ生スルヲ覺フ抑モ治罪法第二百二十八條末項ニ違背罪裁判所輕罪裁判所又ハ重罪裁判所ニ移スノ旨渡ヲ爲スニハ犯罪ノ性質摸樣証憑ノ充分ナルコト及ヒ其罪ヲ罰ス可キ法律ノ正條ヲ明示ス可シト有之夫レ本條ノ精神タルヤ証憑ノ充分ナルコトヲ明示スル最モ緊要點ニシテ所謂証憑充分ナルコトヲ明示ストハ決シテ証憑充分トノミ單示スルノ謂ニ非ラズシテ必ス証憑ノ事項ヲ明確ニ臚列明示スルノ謂ニ外ナラサル可シ茲ニ當廳ノ所轄中ニ於テ過半ハ本議同感ノ者有之ト雖二三ノ裁判所ニ在テ前項ノ如キ証憑略記ノ判文ヲ用ヒ反テ簡便ニシテ務法ナリト主張スルモ有之是レ必竟法律ノ見解ヲ異ニシ且手續ノ鄭重簡易ノ兩主義互ニ相背馳スルニ之レ職由セン固ヨリ當廳ニ於テハ一同本議ニ異論無之ト雖他ノ各裁判所ニ在テハ議論異同有之抑亦豫審判事ノ判決ニ於テ証憑ノ取舍信否ノ異同之レ有ルハ格別ナルモ判決ノ旨渡書ニ其心証ノ資料即チ豫審ノ必要タル証憑ノ事項ヲ明示スルト否ラサルトノ異同有之一定ノ制規無之ハ頗ル不都合ト謂ハサルヲ得ス倘シ或ハ謂ハシ是等ノ異同有ルモ法律上敢テ妨ケナシトシ猶ホ各自ノ意見ニ放任シ去ラハ恐クハ豫審ノ處分自然荒疎ニ傾キ泛濫ニ流レ如何ナル弊害ヲ生センモ難測就テハ假令法律上明文アルニ非ラズト謂フモ前項通治罪法第二百二十八條末項ノ精神ニ釋スルニ必ス證憑ノ事項ヲ明示スルヲ以テ元則トセン最モ實際ノ利害ニ試ミ以テ本議ヲ是認セサルヲ得ス就テハ兩議ノ如ク議論阿岐ニ涉リ終結一定致サ、ル儀ニ付御内訓ヲ仰キ候條何分御垂示被成下度此段稟請候也

内訓 十六年十二月廿八日

請訓ノ趣豫審ノ旨渡書ト公判ノ旨渡書トハ自然其趣ヲ異ニスル者ニ付、キ治罪法第二百二十八條末項ニ定メタル旨渡書ハ犯罪ノ性質摸樣ノ如キハ成ル可ク明白ニ記載スルヲ要ス可シト雖モ證憑ニ至テハ一々明示スルニ及ハス其證憑ノ充分ナルコトヲ記載スルヲ以テ足レトス此旨及内訓候也

●秋田始審裁判所檢事ヨリ司法省ヘ附帶私訴之儀ニ付請訓十七年三月七日
詐欺取財事件ニ付甲裁判所ニ於テ公訴私訴ヲ併セテ裁判ナシタル處被告ハ其裁判ニ不服シテ上告ヲナシタリ然ルニ大審院ニ於テハ法律ニ依リ理由ヲ付セザリシハ不法ナリトシ其全部ヲ破毀シ更ニ乙裁判所ニ移サレタルヲ以テ乙裁判所ハ本案詐欺取財事件ニ付テハ公訴私訴併セテ適當ノ判決ヲナサトルヘカラサルハ論ヲ俟タサル義ト被相考如

何トナレハ原裁判ノ全部ヲ破毀セラレハ即原裁判ノ無効ニ屬スルヲ以テナリ然ルニ反對ノ論者アリ大審院ニ於テ
原裁判ノ全部ヲ破毀シタルハ刑事ノ公訴ニ對スル裁判ノミニシテ私訴ニ及サルモノナレハ乙裁判所ハ刑事ノ公訴ニ
對スル判決ヲ爲スニ止マリ私訴ノ裁判ヲ與フルノ限リニアラサル旨主眼スト雖モ刑事ニ附帶シテ刑事裁判所ニ私訴
ヲナシタル場合ハ即本案裁判ノ無効ニ屬セハ隨テ從タル附帶ノ私訴モ効力ヲ失スルハ當然ナルヲ以テ乙裁判所ハ大
審院ノ破毀ニ係ル公訴私訴ヲ併セ判決ヲナスハ至當ト存候得共爲念御内訓ヲ仰候也

但シ被告等カ上告ノ當時ハ殊更私訴ノ裁判ニ對シ何等申立サル義ニ付御參考迄申添候也
内訓 十七年三月廿四日

請訓ノ趣ハ乙裁判所ニ於テ更ニ私訴ノ裁判ヲ爲スニ及ハス此旨及内訓候也

●重罪被告人ニ對スル接見願ニ付大坂控訴裁判所檢事ヨリ司法省ヘ伺 十七年三月十日
重罪被告人ニ付豫審判事ニ於テ之ヲ重罪裁判所ニ移スノ旨渡テ爲シ治罪法第二百二十七條ニ從ヒ控訴裁判所檢事
長ノ指揮アルマテ豫審ヲ爲シタル裁判所ノ監倉ニ被告人ヲ留置シ檢事ニ於テハ右旨渡確定シタル時ハ治罪法第二百
六十條ニ從ヒ其旨渡書ニ一切ノ書類ヲ添ヘ速ニ之ヲ控訴裁判所檢事長ニ送致シ檢事長ニ於テハ重罪裁判所開廳ノ期
ニ至リ治罪法第六十條第二項ニ從ヒ被告人ヲ某重罪裁判所ニ移スノ處分ヲ檢事ニ命スルノ手續ニ有之處茲ニ豫審判
事ニ於テ之ヲ重罪裁判所ニ移スノ旨渡ヲ爲シ確定ノ上檢事ヨリ書類ヲ檢事長ニ送致シ未タ重罪裁判所開廳ノ期ニ至
ラスシテ被告人ハ仍ホ豫審ヲ爲シタル裁判所ノ監倉ニ留置中其親屬等被告人ト而接願ヲ申請シタル者アランニ治罪
法第三百八十二條第三項ニ依ルニ辯護人ヲ除クノ外何人ト雖重罪裁判所ニ移スノ旨渡アリタルヨリ裁判官渡アルマ
テ被告人ト接見スルヲ得ス但被告人現ニ勾留ヲ受クル地ノ裁判所長ノ允許ヲ得タル時ハ此限ニ在ラスト有之就テ
ハ右旨書ニ被告人現ニ勾留ヲ受クル地ノ裁判所長トアルハ譬ヘハ前項ノ如ク豫審ノ旨渡確定スルモ未タ管轄重罪裁
判所開廳ノ期ニ至ラス單ニ書類ノミ檢事長ニ送致シ被告人ハ猶ホ原裁判所管内ノ監倉ニ留置ノ場合ニ在テハ原裁判
所即チ豫審ヲ爲シタル輕罪裁判所長ノ允許ヲ受クル儀ナルヲ果シテ然ラハ該裁判所長ニ在テハ固ヨリ其管掌ニ屬セ
サル事件而已ナラス其被告事件ノ何タルヤ未タ管掌ヲ與カリ知ラスシテ且ツ書類モ既ニ檢事長ニ送致シアル者ナレハ

該裁判所長ニ於テハ之ヲ許否スルニ由ナキ者ト愚考セリ又未タ重罪裁判所開廳ノ期ニ至ラサルモ檢事長ノ指揮ニ依
リ豫テ被告人ヲ其開廳ス可キ重罪裁判所ノ下トニ在ル監倉ニ移シ留置シ猶ホ未タ重罪裁判所開廳セサル場合ハ何レ
ノ裁判所長ニ於テ之レカ允許ヲ得ル儀ニ有之哉若クハ檢事長原裁判所即チ輕罪裁判所長ノ允許ヲ受ルノ手續ナル哉
指令 十七年三月廿五日

何ノ趣被告人豫審ヲ受ケタル裁判所附ノ監倉ニ在ル時ハ其裁判所長ノ允許ヲ受ケ已ニ開廳スヘキ重罪裁判所附ノ
監倉ニ移シタル時ハ其開廳スヘキ始審又ハ控訴裁判所長ノ允許ヲ受ケル儀ト心得可シ

●官吏ノ職務ニ對シ文書ヲ送致シテ侮辱スル者ノ儀ニ付山形始審裁判所酒田
支廳檢事ヨリ司法省ヘ伺 十七年三月十二日

官吏ノ職務ニ對シ文書ヲ直チニ其官吏ニ送致シ以テ侮辱シタル者法律ニ明文無之候處右ハ筆記セシ旨語ナリトシ又
直接ニ送致シタルヲ以テ目前ニ於テ爲セルト同一ナリトスル時ハ刑法第四百一十一條初項ヲ以テ論ス可シト雖モ已
ニ紙上ニ移シタル上ハ即文書ノ名ヲ命ス可クシテ之ヲ旨語ト云フ可カラヌ又假令直接ニ送致スルモ其全身ク外ニ
在レハ之ヲ目前ノ所爲ト云フ可カラサレハ該項ニ依ル可キモノニ非サル可シ然ルニ同條ノ次項ナル其目前ニ非スト
雖モ刊行ノ文書ヲ以テ侮辱スト云ヘル其刊行ノ文字ハ即印刷發行ノ二事ニシテ必ス印刷シテ以テ世上ニ公行スルモ
ノヲ云フカ如クナリト雖モ文書ハ必スシモ印刷ヲ要セス手書シタルモノモ亦之ニ含蓄セハ又必スシモ廢ク世上ニ發
行スルモノノミナラス直ニ其官吏ニ送致スル者モ亦含蓄シタルモノニシテ該項ニ依リ論ス可キモノニ候哉又ハ假令
其官吏ニ送致スルモ唯双方間ニ在ルノミニシテ他人ニ漏泄セサルモノナレハ該項ニ含蓄セス到底刑法第二條ニ依リ
論スルヲ得サル儀ニ候哉

指令 十七年三月廿八日 伺ノ趣刑法第四百八十八條第一項ニ依リ處分スル儀ト心得ヘシ

●秋田始審裁判所檢事ヨリ司法省ヘ控訴ノ儀ニ付請訓 十七年四月二日
茲ニ告厥ニ附帶シテ私訴ヲ爲シタル被告事件アリ裁判官其公訴ヲ裁判シタル後私訴ノ裁判ヲ爲スニ當リ檢察官ニ通
報ヲ爲サレ故同官ノ立會ナクシテ私訴ノ裁判ヲ旨渡シタリ此即チ治罪法第三十五條ノ法典ニ背キタルヲ以テ檢察

官ニ於テ同法第三百六十五條第四項裁權ノ處置アルナリトシ控訴ヲ爲シ得ルハ勿論ト存候得共同法第三百六十五條第四項ハ刑ノ首渡ニ關シ越權等ノ處分アリタル場合ニ限り適用スヘキモノニシテ察檢官カ刑事附帶ノ私訴裁判官渡ニ對シ控訴スル如キハ本項ノ規定スル所ニアラズト云フ反對論者アリ聊カ疑義ニ涉リ乞御内訓候也
内訓 十七年四月十七日 請訓ノ趣ハ後段解釋ノ通此旨及内訓候也

●大審院檢事長ヨリ司法省ヘ死者ニ對スル再審ノ訴ニ付請訓十七年四月十五日

治罪法第四百四十五條第五ニ於テ刑ノ首渡ヲ受ケタル者死去シタル時ハ其親屬ヨリ再審ノ訴ヲナシ得ヘキ旨ヲ規定セラレ其第四百四十六條ニ於テハ死者ノ親屬ヨリ再審ノ許ナシタル場合ニ於テ云々ト記載シアツテ檢察官ヨリ再審ノ訴ヲ起シタル場合ノ規定アルコトナクハ該文面上ヨリ之レヲ見ルハ死者ニ對スル再審ノ訴ハ其親屬ニ非サレハナシ得ヘカラサル者ノ如ク解釋セラレ候得共既ニ其親屬ニ於テ訴權ナ有スル以上ハ檢察官ニ於テモ訴權ヲ有スルノ道理ナレハ聊カ疑義ニ涉リ相決シ兼候ニ付御内訓ヲ仰キ候也
内訓 十七年四月二十一日

請訓之趣檢察官ニ於テモ再審ノ訴ヲ爲スコトナ付可キ儀ト心得可シ此旨及内訓候也

●岡山始審裁判所檢事ヨリ司法省ヘ他ノ裁判所ヘ移サレタル被告人送致ノ手續及保釋取消等ノ儀ニ付請訓十七年四月十日

第一條 甲裁判所ノ重罪公判ニ對シテ被告ナシ大審院ニ於テ之ヲ破毀シ乙裁判所ニ移サレタル時ノ場合被告事件一切ノ書類ヲ送致スヘキ手續別段正條ナキヲ以テ或ハ甲裁判所ヨリ直チニ其移サレタル乙裁判所ノ管轄檢事長ヘ送致スヘキモアリ或ハ乙裁判所ノ檢事ヘ被告人ト共ニ送致シ乙裁判所ノ檢事ニ於テ更ニ治罪法第二百六十條ノ例ニ原キ其控訴裁判所檢事長ヘ送致スルモアリ其取扱區々ニ有之弊罪ニ於テハ原裁判所ヨリ直チニ其移サレタル裁判所ヘ送致スルヲ以テ例トナスモ重罪事件ニ於テハ必檢事長ヲ經サルヘカラサルモノニ付何レノ手續ニ從フヘキヤ前段ノ如キハ其管轄ニアラサル裁判所ヨリ他ノ管轄ノ檢事長ヘ送致スルハ或ハ事ノ順序ヲ違ハサルモノト如シ然ラハ後段ノ手續ニ從フヲ以テ穩當トナス乎

第二條 輕罪事件上告中被告人ヲ保釋又ハ貴付シタル場合破毀ノ上他ノ裁判所ニ移サレタルハ其貴付保釋ハ當然取消ヘタルモノトシ更ニ勾留ノ上一件書類ト共ニ送致スヘキモノナル哉
右仰御内訓候也
内訓 十七年五月十日

請訓ノ趣第一條ハ甲裁判所檢察官ヨリ直ニ乙裁判所ヲ開ク可キ裁判所ノ檢察官ニ送致ス可シ第二條原裁判所ニ於テ保釋貴付ノ取消ヲ必要トスルハ之ヲ取消スハ勿論ナレモ當然取消シタル者ト爲スコト得ス

●輕罪控訴期限ノ儀ニ付神戶始審裁判所檢事ヨリ司法省ヘ請訓(電)十八年一月八日

刑事控訴期限ハ五日ナルニ付キ第貳號布告御發令前刑ノ首渡ヲ受ケ五日ヲ經過セサルモノモ控訴スルコトナ得ルヤ直ク御指揮ヲ仰ク
内訓(電報) 十八年一月十四日

一月八日付電報請訓ノ趣本年第貳號布告施行前刑ノ首渡ヲ受ケタリト雖モ上告期限ヲ經過セサルハ期限内ニ控メルヲ得ヘシ

●無届遲不參ノ者罰金科料徴收執行ノ件ニ付橫濱輕罪裁判所檢事ヨリ司法省ヘ請訓十八年十月廿日(十八年十一月十一日官報)

明治十五年一月三三三號ヲ以テ御内訓中ニ裁判所ノ呼出ニ遲不參セシ者始審裁判所々々在ノ地ノ治安裁判所ニ於テ處分シタル時ハ其旨ヲ輕罪裁判所ノ檢事ニ通知ス可シ其通知ヲ受ケタル檢察官ハ通常ノ規則ニ從ヒ之ヲ執行ス可シト有之右ハ畢竟治安裁判所ニ於テ違背罪裁判所ヲ開カサルヨリ從テ檢察官モ之レナキニ依リ輕罪裁判所檢事ニ於テ執行スル事ト規定セラレタル儀ニ可有之條處本年第三十一號御布告ヲ以テ明治十四年第四十四號及七同年第八十號ノ御布告ヲ廢セラレタル上ハ無論右御内訓中治安裁判所ニ於テ處分セシ者ハ爾來違背罪裁判所ノ檢察官ニ於テ執行スル儀ト心得可然哉
内訓 十八年十一月七日

別紙請訓ノ趣ハ見解ノ通此旨及内訓候也

●違警罪事件取扱方ニ付福島縣裁判所若松支廳檢事ヨリ司法省へ請訓

十八年十月六日 (十八年十二月二日官報)

本年九月廿四日第三拾壹號ヲ以テ違警罪即決例公布セラレ候ニ付テハ自今違警罪事件ハ總テ一應即決ノ旨渡テ受シムルモノト如ク被相考候果シテ然ラハ本職又ハ違警罪裁判所檢察官ニ於テ告訴發其由ノ原由ニヨリ認知シタル違警罪事件ハ必ス警察官へ送致スヘキ儀ト相心得可然哉

内訓 十八年十一月三十日

別紙請訓之趣見解之通右及内訓候也

●假出獄者刑期計算並ニ假出獄停止申渡書式ノ件ニ付栃木縣ヨリ司法省へ伺

十八年九月廿一日 (十八年十二月九日官報)

第一條 刑法第五十六條ニ假出獄中更ニ重罪輕罪ヲ犯シタル者ハ更ニ出獄ヲ停止シ出獄中之日數ハ刑期ニ算入セスト有之右所謂出獄中之日數トハ即本年(九月)丙第七號御違假出獄停止手續第一條ニ依リ典獄ニ於テ假出獄ノ停止申渡ヲナセシ前日迄ヲ云フモノナルヤ果シテ然レハ刑法第五十二條刑期限内逃走シ再ヒ捕ニ就キ未決監ニ拘禁中之日數ヲ本刑刑期ニ算入スル者ト權衡如何ト被考候因テハ前文第五十六條出獄中之日數計算方ハ假出獄停止ノ申渡ヲナサトルモ既ニ繫獄スル以上ハ其日數ハ刑期ニ算入スル儀ト心得可然哉

第二條 假出獄停止申渡書式之末文ニ其出獄ヲ停止シ證票取上候事トアルハ出獄中已ニ其證票紛失等ノ爲メ所持セサル者ト雖猶證票取上ノ四字ヲ記入スル儀ニ候哉

指令 十八年十二月五日(内務卿連署)

書面伺ノ趣左ノ通可心得事

第一條 末段伺ノ通

第二條 證票取上ノ四字ハ省クヘシ

●違警罪即決例ノ件ニ付長野縣ヨリ内務省へ伺十八年十月十日(十九年三月八日官報)

第一條 十四年御省丙第九號違中違警罪即決未決事件表ハ客月第三十一號違警罪即決例公布ニ付キテハ自然消滅ノ義ト心得ヘキヤ

第二條 違警罪即決事件ハ客月御省丙第八號違警罪公判表へ如何記載スヘキヤ

第三條 即決例第二條末項ニ據リ處分シタル片送達スヘキ手續ハ便宜取計ヒ其ノ費用及呼出狀等ニ關スル費用ノ如キハ被告人ニ負擔セシムヘキヤ

第四條 即決例第八條以下ノ處分ヲナシ留置中正式裁判ヲ請求シ留置期限ヲ超過スルモ呼出狀到達スル迄ハ留置スヘキヤ

第五條 留置ノ費用ハ何ノ支辨ニ屬スヘキヤ

第六條 官吏職務ヲ行フニ當リ發覺シタル違警罪等へハ收稅檢査員ノ證券印稅規則違犯者等ノ告發ハ違警罪裁判所檢察官若クハ警察署長又ハ其分署長等ニ告發スヘキモノナルヤ果シテ然リトセハ警察署長及分署長等ニ於テ受理シタル事件ハ直チニ即決スヘキヤ

指令 十九年三月五日(内務司法兩省連署)

第一條 客年司法省丙第九號違中

第二條 客年司法省丙第十一號違中

第三條 送達手續ノ儀ハ伺ノ通費用ハ被告人ニ負擔セシムルノ限ニアラス

第四條 留置期限ヲ超過シタル時ハ直ニ釋放スヘシ

第五條 監獄費ヨリ支辨スヘシ

第六條 見込ノ通

●公判審問中拘留狀期限經過セントキ其効力有無ノ件警視廳ヨリ司法省へ伺

十八年八月十五日 (十九年四月廿二日官報)

茲ニ輕罪犯アリ檢事ヨリ直ニ公判ニ付シ審問中拘留狀期限經過シ收監狀ニ換ヘサルヨリ其官檢事ニ通知セシニ公判ニ

付シタル以上ハ關係セス云々公判判事ニ於テハ法律上明文ナシトテ收監狀ヲ發セス又被告人ニ於テ異議ノ申立チ
ナシタルニ收監狀ヲ發付スル如キハ總テ被告事件豫審中ノ處分ニ屬シ公判判事ニ於テ之ヲ發スルハ法律ニ規定スル
所ナシ然ラハ拘留狀ヲ執行シタルヨリ十日ヲ經過スルモ既ニ公判判事ノ管理ニ屬スル以上ハ其効力ノ消滅スルモノ
ニ非スト判決セリ抑拘留十日ヲ過クルコトヲ得サルハ治罪法ニ明文之アリ又檢事ヨリ直ニ公判ニ付シタル事件ニシテ
拘留十日ヲ過クルハ治罪法第百二十七條第三項ニ從ヒ檢察官ノ請求ニ依リ更ニ十日間拘留ヲナシ又ハ公判判事ニ
於テ收監狀ヲ發スルヲ得キ上往々御指令有之就テハ公判判事ト雖モ收監狀ヲ發スルヲ得ルハ勿論ニシテ若シ其處
分ナサシムルハ典獄ニ於テハ令狀ナキ被告人ヲ拘留スル不能ヲ以テ直ニ解放セサルヲ得ス然レ前判判決ニ依テ見
レハ拘留十日ヲ過クルモ其効力ナ有スルモノ、如シ右ハ果シテ効力之アルモノニ候ヤ若シ之ニ反シテ効力ナキモノ
トセハ前願ノ如キ判決アリタル場合ニ於テハ如何相心得可然哉

指令 十九年四月九日

伺ノ趣被告事件ヲ公判ニ付シタル後ハ治罪法第百二十七條ノ規則ニ據ルヘキモノニアラス即チ裁判宣告ニ至ルマ
テ拘留狀ノ効力ナ有スルモノト心得ヘシ

●郡吏員戸長等職務上刑事裁判所へ證人トシテ出願旅費日當請求方ニ付千葉
縣ヨリ司法省へ伺 十八年九月四日 (十八年十一月六日官報)

一郡吏員戸長等職務上ニ係リ刑事裁判ノ證人トシテ裁判所ニ出願スルハ治罪法ニ依リ旅費日當ヲ請求スルヲ得ル
ハ勿論ノ儀ト存候得共被告事件無罪又ハ免訴トナリタルハ明治十七年(六月)太政官第五十七號公達ニ準シ請求
セサル儀ト心得可然哉又ハ右ノ場合ト雖モ郡吏員戸長等ニ在テハ請求スルヲ得ヘキ儀ニ候哉

一前顯太政官第五十七號公達ニハ被告事件無罪又ハ免訴ナリタルハ請求セサル儀ト有之候得共治罪法第百九十條
ニハ即時ニ出廷ニ付テノ旅費日當ヲ要ムルコトヲ得ト有之然レハ被告事件未タ判決ヲ經サル以前ニ在テ之レヲ請求
シ置キ無罪又ハ免訴トナリタルハ之ヲ受取ラサル儀ト心得可然哉
指令 十八年十一月二日

伺ノ趣第一項前段伺ノ通第二項伺ノ通

●違警罪正式裁判ニ係ル訟廷内治罪手續ニ付滋賀縣ヨリ司法省へ伺

十八年十一月十五日 (十八年十一月十七日官報)

明治十四年第五十四號布告但書ニ依レハ始審裁判所所在地ヲ除クノ外治安裁判所ニ於テ輕罪裁判ヲ爲ス際訟廷内治
罪ノ手續ハ便宜取計フコトヲ得ル上ハ今般第三十一號布告違警罪即決處分ニ對シ正式ノ裁判ヲ請求シ其裁判ヲ爲ス際
訟廷内治罪手續モ亦便宜ニ取計ヒ可然哉果シテ然ラハ裁判官ト協議ノ上其事件ノ難クニ依リ檢察官ノ公延ニ立會ハ
サルモ敢テ差支無之標相考候得共違警罪正式裁判ニ係ル訟廷内治罪手續ニ付テハ未タ何等御布告等モ無之ニ付一應
此段相伺候也

指令 十八年十一月十一日

伺ノ趣治罪法ニ從フ可キ儀ト心得可シ

●陸軍軍人軍屬違警罪即決處分方ニ付岐阜縣ヨリ内務省へ伺

十九年十二月六日 (二十年一月十一日官報)

本年五月勅令第四十四號ヲ以テ發布相成タル陸軍軍人軍屬違警罪即決處分ハ警察署ニ於テアリテ分署ノ文字無之
然レ其第一條ニ違警罪即決例ニ依リ云々トアルヲ以テ觀レハ即チ明治十八年布告第三十一號ノ規則ニ依ルコト明ニ
シテ憲兵部アラサル場所ハ其地ノ警察官即チ警察署分署ニ於テ處分スルコトヲ得ル儀ト考置候得共成文上警察署ニ
限ルモノ、如ク相見ヘ聊疑團ニ涉候條至急何分ノ御指令相成度

指令 十九年一月十日

對面伺之通

第二百四十章 司法警察規則附錄

明治七年九月二十九日
第百二十八號使府廳へ通

本年(一月)第拾四號ヲ以テ相達候司法警察規則附錄別紙之通相定候條此旨相達候事

(別紙)

司法警察規則附錄

外國公使及ヒ公使館屬員ノ事

第一條 外國公使ハ我國憲ヲ以テ承認スヘカヲサル通義ナレハ是ヲ擴充スル時ハ其家屬並ニ公使館屬員書記官隨員公使ノ僕隸書記官ノ家族及ヒ書記官ノ僕隸等總テ公使館ノ名籍ニアル者ヲ云フ及ヒ其家屋車馬迄モ同様ナリト思量スヘシ

第二條 內國人公使館又ハ公使ノ書記官ニ備ハレ公使館ノ名籍ニ在ル間ハ公使館ノ屬隸ト見做シ若シ事故アリテ逮捕セサルヲ得サルカ或ハ呼出シテ糾問セサルヲ得サル時ハ外務省ヲ歴テ公使館ヘ報知シ其唯諾ヲ待チテ後引出スヘシ尤其者ヲ處分スルハ公使ノ關係スルコニアラス

第三條 內國人各公使館及書記官ニ備ハレ中ハ其公使又ハ代理ヨリ其籍ノ名籍ヲ外務省ヘ届出外務省ハ其届書ヲ速ニ司法警察官吏ヘ送達シ置ヘシ警察官吏ハ常ニ其姓名ヲ簿記シ置ヘシ若シ途中ニテ或ル人ヲ引留其名籍ノ在ル處ヲ聞糺ス時公使館ニ備ハレ中ト稱スル時其簿記ト校照シ愈相違ナキハ一旦公使館迄同道シ照會ヲ遂ケタル後其處分ヲ施スヘシ若シ其姓名簿記中ニ在ラサル者ニテモ其本人決シテ相違ナキ旨ヲ述ル時ハ公使館ヘ同道シ右ノ如ク處置スヘシ

外國公使館ノ事

但シ重科ニテ捕縛セサルヲ得サル者ハ第六條ニ照シテ處分スヘシ

第四條 外國公使館内ハ事故アリテ館主ヨリ請求スル時ノ外決シテ立入ルヘカラス若

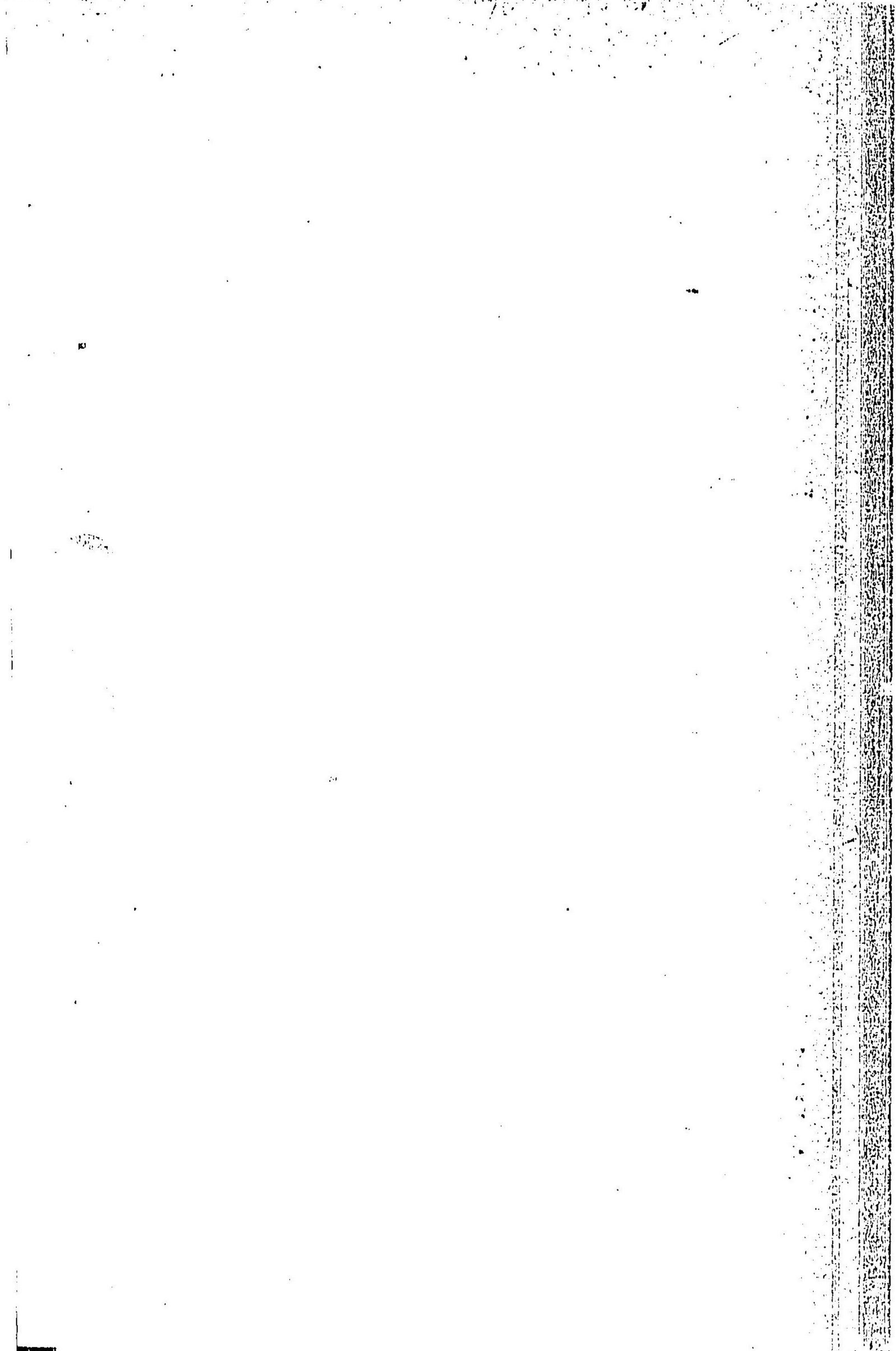
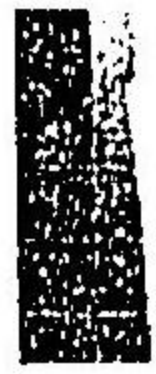
シ重科ヲ犯シタル罪人ト見留タル者奔逃シテ門内ヘ匿入セシ等毫髮ノ間モ猶豫スヘカラスル時ハ其把門者ニ告ケ其館主ノ許可ヲ受ケテ後館内又ハ邸内ヲ探索スヘシ

第五條 右公使館書記官ノ住宅内ニ在ル内外屬員ハ勿論車馬家畜ノ末ニ至ル迄一切手ヲ觸ルヘカラス若シ職務上止ムヲ得ス手ヲ降スヘキ事故アラハ是ヲ外務省ニ打合せ而シテ其處分ヲ爲スヘシ

外國公使屬員罪ヲ犯シ並犯罪ノ內國人公使館ニ住居スル時ノ事

第六條 外國公使館ノ屬員ナル外國人殺傷或ハ剽盜放火強姦等目前ニ顯ハレタル罪ヲ公使館外ニテ現ニ行チ見及フカ或ハ現ニ見スト雖モ衆人ヨリ報告シ確證アリテ片時モ猶豫ナシカタキ時ハ其人ヲ其場ニ引留置即刻公使館ヘ報知ノ上同館ヘ引渡シ又外務省ヘ報知シ是ヲ公使館ニ引渡セシ手續ヲ申スヘシ決シテ手鎖捕縛等ノ事アル可ラス或ハ屬員ノ內國人ハ引留置即刻公使館ヘ報知シ改メテ彼レヨリ引渡ヲ受タルノ手順ヲ施シ又コレヲ外務省ニ申ヘシ

第七條 犯罪ノ風聞アルカ或ハ他人ノ白狀ヨリ明了ニ其罪科ノ知レタル內國人現ニ公使館内ニ備ハレテ公使館ニ住居スル時ハ其館外周圍ノ各路ヲ遮斷シ而後外務省ヘ報知シ同館ヘ照會ヲ乞館主ニ引渡シヲ要求シ其人ヲ受取りテ後之ヲ捕縛ス可シ若シ館主之ヲ拒ムルハ其旨ヲ猶外務省ヘ報知シテ其處分ヲ定ム可シ



加 等 例 圖

常事犯重罪刑					鋼 禁 重 輕															留 拘				
死	無	有	重	輕	本	五	四	三	二	一	六	四	三	二	一	十	十	本	十	五	三	一	本	
刑	期	助	懲	懲	刑	年	年	年	年	年	月	月	月	月	月	日	日	刑	日	日	日	日	刑	
		徒	役	役	加	六	五	三	二	一	七	五	三	二	一	十	十	加	下	上	下	上	一	
		刑	有	重	一	年	年	年	年	年	月	月	月	月	月	日	日	一	三	二	一	日	等	
		刑	期	懲	等	三	六	九	六	三	九	六	三	三	三	廿	十六	二	二	四	四	四	等	
		刑	徒	役	加	七	七	六	三	一	月	月	月	月	月	日	日	加	分	分	分	分	等	
		刑	刑	有	二	年	年	年	年	年	月	月	月	月	日	日	日	三	四	四	四	等		
		刑	刑	期	等						月	月	月	月	日	日	日	等	日	日	日	等		
		刑	刑	徒	加						日	日	日	日	日	日	日	加	分	分	分	等		
		刑	刑	刑	三						八	六	四	二	一	一	廿	四	二	二	二	等		
		刑	刑	刑	等						月	月	月	月	日	日	日	加	日	日	日	等		
		刑	刑	刑	等						年	年	年	年	年	年	日	等	日	日	日	等		
○禁錮ハ本刑四分ノ一ヲ加フルヲ以テ一等トス 加ヘテ重罪ニ入ルヲ得ス但シ加ヘテ七年ニ至ルヲ得(七〇)																				○本刑四分ノ一ヲ加フルヲ以テ一等トス(七二) ○客數一日ニ滿サルモノハ除棄ス()ノ中ニアルモノ皆是ナリ(七三) ○加ヘテ輕罪ニ入ルヲ得ス但加ヘテ十二日ニ至ルヲ得(七二)				
○無期徒刑ハ加ヘテ死刑ニ入ルヲ得ス (六六)																				○本刑四分ノ一ヲ加フルヲ以テ一等トス(七二) ○客數一日ニ滿サルモノハ除棄ス()ノ中ニアルモノ皆是ナリ(七三) ○加ヘテ輕罪ニ入ルヲ得ス但加ヘテ十二日ニ至ルヲ得(七二)				
國事犯重罪刑					金 罰															料 科				
死	無	有	重	輕	本	五	二	百	五	四	三	二	十	五	四	三	二	本	一	一	一	五	五	
刑	期	助	懲	懲	刑	百	百	十	十	十	十	十	十	十	十	十	十	刑	圓	圓	圓	圓	圓	
		刑	禁	禁	加	百	百	十	十	十	十	十	十	十	十	十	十	加	九	四	五	十	十	
		刑	禁	禁	ヘ	百	百	十	十	十	十	十	十	十	十	十	十	一	五	十	十	十	十	
		刑	禁	禁	テ	百	百	十	十	十	十	十	十	十	十	十	十	一	五	十	十	十	十	
		刑	禁	禁	テ	百	百	十	十	十	十	十	十	十	十	十	十	一	五	十	十	十	十	

刑圖

ス(七二) ノ中ニアルモ 十二日ニ至		四等		二日		三 等 刑		ハ ル ヲ 得 ス	
料		科		金		罰		刑	
本	五錢以上	六錢二厘(五毛)以上	加一等	二圓	二圓五十錢	三	二	本	死
五	十錢以上	六錢二厘(五毛)以下	加二等	三圓	三圓五十錢	四	三	輕	無期流刑
二	二十錢以上	六錢二厘(五毛)以下	加三等	四圓	四圓五十錢	五	四	重	有期流刑
一	五十錢以上	六錢二厘(五毛)以下	加四等	五圓	五圓五十錢	六	五	禁	無期流刑
一	一百錢以上	六錢二厘(五毛)以下		六圓	六圓五十錢	七	六	禁	無期流刑
一	二百錢以上	六錢二厘(五毛)以下		七圓	七圓五十錢	八	七	獄	無期流刑
一	三百錢以上	六錢二厘(五毛)以下		八圓	八圓五十錢	九	八	獄	無期流刑
一	四百錢以上	六錢二厘(五毛)以下		九圓	九圓五十錢	十	九	獄	無期流刑
一	五百錢以上	六錢二厘(五毛)以下		十圓	十圓五十錢	十一	十	獄	無期流刑
一	六百錢以上	六錢二厘(五毛)以下		十一圓	十一圓五十錢	十二	十一	獄	無期流刑
一	七百錢以上	六錢二厘(五毛)以下		十二圓	十二圓五十錢	十三	十二	獄	無期流刑
一	八百錢以上	六錢二厘(五毛)以下		十三圓	十三圓五十錢	十四	十三	獄	無期流刑
一	九百錢以上	六錢二厘(五毛)以下		十四圓	十四圓五十錢	十五	十四	獄	無期流刑
一	一千錢以上	六錢二厘(五毛)以下		十五圓	十五圓五十錢	十六	十五	獄	無期流刑
一	一千二百錢以上	六錢二厘(五毛)以下		十六圓	十六圓五十錢	十七	十六	獄	無期流刑
一	一千三百錢以上	六錢二厘(五毛)以下		十七圓	十七圓五十錢	十八	十七	獄	無期流刑
一	一千四百錢以上	六錢二厘(五毛)以下		十八圓	十八圓五十錢	十九	十八	獄	無期流刑
一	一千五百錢以上	六錢二厘(五毛)以下		十九圓	十九圓五十錢	二十	十九	獄	無期流刑
一	一千六百錢以上	六錢二厘(五毛)以下		二十圓	二十圓五十錢	二十一	二十	獄	無期流刑
一	一千七百錢以上	六錢二厘(五毛)以下		二十一圓	二十一圓五十錢	二十二	二十一	獄	無期流刑
一	一千八百錢以上	六錢二厘(五毛)以下		二十二圓	二十二圓五十錢	二十三	二十二	獄	無期流刑
一	一千九百錢以上	六錢二厘(五毛)以下		二十三圓	二十三圓五十錢	二十四	二十三	獄	無期流刑
一	二千錢以上	六錢二厘(五毛)以下		二十四圓	二十四圓五十錢	二十五	二十四	獄	無期流刑
一	二千二百錢以上	六錢二厘(五毛)以下		二十五圓	二十五圓五十錢	二十六	二十五	獄	無期流刑
一	二千三百錢以上	六錢二厘(五毛)以下		二十六圓	二十六圓五十錢	二十七	二十六	獄	無期流刑
一	二千四百錢以上	六錢二厘(五毛)以下		二十七圓	二十七圓五十錢	二十八	二十七	獄	無期流刑
一	二千五百錢以上	六錢二厘(五毛)以下		二十八圓	二十八圓五十錢	二十九	二十八	獄	無期流刑
一	二千六百錢以上	六錢二厘(五毛)以下		二十九圓	二十九圓五十錢	三十	二十九	獄	無期流刑
一	二千七百錢以上	六錢二厘(五毛)以下		三十圓	三十圓五十錢	三十一	三十	獄	無期流刑
一	二千八百錢以上	六錢二厘(五毛)以下		三十一圓	三十一圓五十錢	三十二	三十一	獄	無期流刑
一	二千九百錢以上	六錢二厘(五毛)以下		三十二圓	三十二圓五十錢	三十三	三十二	獄	無期流刑
一	三千錢以上	六錢二厘(五毛)以下		三十三圓	三十三圓五十錢	三十四	三十三	獄	無期流刑
一	三千二百錢以上	六錢二厘(五毛)以下		三十四圓	三十四圓五十錢	三十五	三十四	獄	無期流刑
一	三千三百錢以上	六錢二厘(五毛)以下		三十五圓	三十五圓五十錢	三十六	三十五	獄	無期流刑
一	三千四百錢以上	六錢二厘(五毛)以下		三十六圓	三十六圓五十錢	三十七	三十六	獄	無期流刑
一	三千五百錢以上	六錢二厘(五毛)以下		三十七圓	三十七圓五十錢	三十八	三十七	獄	無期流刑
一	三千六百錢以上	六錢二厘(五毛)以下		三十八圓	三十八圓五十錢	三十九	三十八	獄	無期流刑
一	三千七百錢以上	六錢二厘(五毛)以下		三十九圓	三十九圓五十錢	四十	三十九	獄	無期流刑
一	三千八百錢以上	六錢二厘(五毛)以下		四十圓	四十圓五十錢	四十一	四十	獄	無期流刑
一	三千九百錢以上	六錢二厘(五毛)以下		四十一圓	四十一圓五十錢	四十二	四十一	獄	無期流刑
一	四千錢以上	六錢二厘(五毛)以下		四十二圓	四十二圓五十錢	四十三	四十二	獄	無期流刑
一	四千二百錢以上	六錢二厘(五毛)以下		四十三圓	四十三圓五十錢	四十四	四十三	獄	無期流刑
一	四千三百錢以上	六錢二厘(五毛)以下		四十四圓	四十四圓五十錢	四十五	四十四	獄	無期流刑
一	四千四百錢以上	六錢二厘(五毛)以下		四十五圓	四十五圓五十錢	四十六	四十五	獄	無期流刑
一	四千五百錢以上	六錢二厘(五毛)以下		四十六圓	四十六圓五十錢	四十七	四十六	獄	無期流刑
一	四千六百錢以上	六錢二厘(五毛)以下		四十七圓	四十七圓五十錢	四十八	四十七	獄	無期流刑
一	四千七百錢以上	六錢二厘(五毛)以下		四十八圓	四十八圓五十錢	四十九	四十八	獄	無期流刑
一	四千八百錢以上	六錢二厘(五毛)以下		四十九圓	四十九圓五十錢	五十	四十九	獄	無期流刑
一	四千九百錢以上	六錢二厘(五毛)以下		五十圓	五十圓五十錢	五十一	五十	獄	無期流刑
一	五千錢以上	六錢二厘(五毛)以下		五十一圓	五十一圓五十錢	五十二	五十一	獄	無期流刑
一	五千二百錢以上	六錢二厘(五毛)以下		五十二圓	五十二圓五十錢	五十三	五十二	獄	無期流刑
一	五千三百錢以上	六錢二厘(五毛)以下		五十三圓	五十三圓五十錢	五十四	五十三	獄	無期流刑
一	五千四百錢以上	六錢二厘(五毛)以下		五十四圓	五十四圓五十錢	五十五	五十四	獄	無期流刑
一	五千五百錢以上	六錢二厘(五毛)以下		五十五圓	五十五圓五十錢	五十六	五十五	獄	無期流刑
一	五千六百錢以上	六錢二厘(五毛)以下		五十六圓	五十六圓五十錢	五十七	五十六	獄	無期流刑
一	五千七百錢以上	六錢二厘(五毛)以下		五十七圓	五十七圓五十錢	五十八	五十七	獄	無期流刑
一	五千八百錢以上	六錢二厘(五毛)以下		五十八圓	五十八圓五十錢	五十九	五十八	獄	無期流刑
一	五千九百錢以上	六錢二厘(五毛)以下		五十九圓	五十九圓五十錢	六十	五十九	獄	無期流刑
一	六千錢以上	六錢二厘(五毛)以下		六十圓	六十圓五十錢	六十一	六十	獄	無期流刑
一	六千二百錢以上	六錢二厘(五毛)以下		六十一圓	六十一圓五十錢	六十二	六十一	獄	無期流刑
一	六千三百錢以上	六錢二厘(五毛)以下		六十二圓	六十二圓五十錢	六十三	六十二	獄	無期流刑
一	六千四百錢以上	六錢二厘(五毛)以下		六十三圓	六十三圓五十錢	六十四	六十三	獄	無期流刑
一	六千五百錢以上	六錢二厘(五毛)以下		六十四圓	六十四圓五十錢	六十五	六十四	獄	無期流刑
一	六千六百錢以上	六錢二厘(五毛)以下		六十五圓	六十五圓五十錢	六十六	六十五	獄	無期流刑
一	六千七百錢以上	六錢二厘(五毛)以下		六十六圓	六十六圓五十錢	六十七	六十六	獄	無期流刑
一	六千八百錢以上	六錢二厘(五毛)以下		六十七圓	六十七圓五十錢	六十八	六十七	獄	無期流刑
一	六千九百錢以上	六錢二厘(五毛)以下		六十八圓	六十八圓五十錢	六十九	六十八	獄	無期流刑
一	七千錢以上	六錢二厘(五毛)以下		六十九圓	六十九圓五十錢	七十	六十九	獄	無期流刑
一	七千二百錢以上	六錢二厘(五毛)以下		七十圓	七十圓五十錢	七十一	七十	獄	無期流刑
一	七千三百錢以上	六錢二厘(五毛)以下		七十一圓	七十一圓五十錢	七十二	七十一	獄	無期流刑
一	七千四百錢以上	六錢二厘(五毛)以下		七十二圓	七十二圓五十錢	七十三	七十二	獄	無期流刑
一	七千五百錢以上	六錢二厘(五毛)以下		七十三圓	七十三圓五十錢	七十四	七十三	獄	無期流刑
一	七千六百錢以上	六錢二厘(五毛)以下		七十四圓	七十四圓五十錢	七十五	七十四	獄	無期流刑
一	七千七百錢以上	六錢二厘(五毛)以下		七十五圓	七十五圓五十錢	七十六	七十五	獄	無期流刑
一	七千八百錢以上	六錢二厘(五毛)以下		七十六圓	七十六圓五十錢	七十七	七十六	獄	無期流刑
一	七千九百錢以上	六錢二厘(五毛)以下		七十七圓	七十七圓五十錢	七十八	七十七	獄	無期流刑
一	八千錢以上	六錢二厘(五毛)以下		七十八圓	七十八圓五十錢	七十九	七十八	獄	無期流刑
一	八千二百錢以上	六錢二厘(五毛)以下		七十九圓	七十九圓五十錢	八十	七十九	獄	無期流刑
一	八千三百錢以上	六錢二厘(五毛)以下		八十圓	八十圓五十錢	八十一	八十	獄	無期流刑
一	八千四百錢以上	六錢二厘(五毛)以下		八十一圓	八十一圓五十錢	八十二	八十一	獄	無期流刑
一	八千五百錢以上	六錢二厘(五毛)以下		八十二圓	八十二圓五十錢	八十三	八十二	獄	無期流刑
一	八千六百錢以上	六錢二厘(五毛)以下		八十三圓	八十三圓五十錢	八十四	八十三	獄	無期流刑
一	八千七百錢以上	六錢二厘(五毛)以下		八十四圓	八十四圓五十錢	八十五	八十四	獄	無期流刑
一	八千八百錢以上	六錢二厘(五毛)以下		八十五圓	八十五圓五十錢	八十六	八十五	獄	無期流刑
一	八千九百錢以上	六錢二厘(五毛)以下		八十六圓	八十六圓五十錢	八十七	八十六	獄	無期流刑
一	九千錢以上	六錢二厘(五毛)以下		八十七圓	八十七圓五十錢	八十八	八十七	獄	無期流刑
一	九千二百錢以上	六錢二厘(五毛)以下		八十八圓	八十八圓五十錢	八十九	八十八	獄	無期流刑
一	九千三百錢以上	六錢二厘(五毛)以下		八十九圓	八十九圓五十錢	九十	八十九	獄	無期流刑
一	九千四百錢以上	六錢二厘(五毛)以下		九十圓	九十圓五十錢	九十一	九十	獄	無期流刑
一	九千五百錢以上	六錢二厘(五毛)以下		九十一圓	九十一圓五十錢	九十二	九十一	獄	無期流刑
一	九千六百錢以上	六錢二厘(五毛)以下		九十二圓	九十二圓五十錢	九十三	九十二	獄	無期流刑
一	九千七百錢以上	六錢二厘(五毛)以下		九十三圓	九十三圓五十錢	九十四	九十三	獄	無期流刑
一	九千八百錢以上	六錢二厘(五毛)以下		九十四圓	九十四圓五十錢	九十五	九十四	獄	無期流刑
一	九千九百錢以上	六錢二厘(五毛)以下		九十五圓	九十五圓五十錢	九十六	九十五	獄	無期流刑
一	一萬錢以上	六錢二厘(五毛)以下		九十六圓	九十六圓五十錢	九十七	九十六	獄	無期流刑
一	一萬二百錢以上	六錢二厘(五毛)以下		九十七圓	九十七圓五十錢	九十八	九十七	獄	無期流刑
一	一萬三百錢以上	六錢二厘(五毛)以下		九十八圓	九十八圓五十錢	九十九	九十八	獄	無期流刑
一	一萬四千錢以上	六錢二厘(五毛)以下		九十九圓	九十九圓五十錢	一百	九十九	獄	無期流刑
一	一萬五千錢以上	六錢二厘(五毛)以下		一百圓	一百圓五十錢	一百零一	一百	獄	無期流刑
一	一萬六千錢以上	六錢二厘(五毛)以下		一百零一圓	一百零一圓五十錢	一百零二	一百零一	獄	無期流刑
一	一萬七千錢以上	六錢二厘(五毛)以下		一百零二圓	一百零二圓五十錢	一百零三	一百零二	獄	無期流刑
一	一萬八千錢以上	六錢二厘(五毛)以下		一百零三圓	一百零三圓五十錢	一百零四	一百零三	獄	無期流刑
一	一萬九千錢以上	六錢二厘(五毛)以下		一百零四圓	一百零四圓五十錢	一百零五	一百零四	獄	無期流刑
一	二萬錢以上	六錢二厘(五毛)以下		一百零五圓	一百零五圓五十錢	一百零六	一百零五	獄	無期流刑
一	二萬二百錢以上	六錢二厘(五毛)以下		一百零六圓	一百零六圓五十錢	一百零七	一百零六	獄	無期流刑
一	二萬三千錢以上	六錢二厘(五毛)以下		一百零七圓	一百零七圓五十錢	一百零八	一百零七	獄	無期流刑
一	二萬四千錢以上	六錢二厘(五毛)以下		一百零八圓	一百零八圓五十錢	一百零九	一百零八	獄	無期流刑
一	二萬五千錢以上	六錢二厘(五毛)以下		一百零九圓	一百零九圓五十錢	一百一十	一百零九	獄	無期流刑
一	二萬六千錢以上	六錢二厘(五毛)以下		一百一十圓	一百一十圓五十錢	一百一十一	一百一十	獄	無期流刑
一	二萬七千錢以上	六錢二厘(五毛)以下		一百一十一圓	一百一十一圓五十錢	一百一十二	一百一十一	獄	無期流刑
一	二萬八千錢以上	六錢二厘(五毛)以下		一百一十二圓	一百一十二圓五十錢	一百一十三	一百一十二	獄	無期流刑
一	二萬九千錢以上	六錢二厘(五毛)以下		一百一十三圓	一百一十三圓五十錢	一百一十四	一百一十三	獄	無期流刑
一	三萬錢以上	六錢二厘(五毛)以下		一百一十四圓	一百一十四圓五十錢	一百一十五	一百一十四	獄	無期流刑
一	三萬二百錢以上	六錢二厘(五毛)以下		一百一十五圓	一百一十五圓五十錢	一百一十六	一百一十五	獄	無期流刑
一	三萬三千錢以上	六錢二厘(五毛)以下		一百一十六圓	一百一十六圓五十錢	一百一十七	一百一十六	獄	無期流刑
一	三萬四千錢以上	六錢二厘(五毛)以下		一百一十七圓	一百一十七圓五十錢	一百一十八	一百一十七	獄	無期流刑
一	三萬五千錢以上	六錢二厘(五毛)以下		一百一十八圓	一百一十八圓五十錢	一百一十九	一百一十八	獄	無期流刑
一	三萬六千錢以上	六錢二厘(五毛)以下		一百一十九圓	一百一十九圓五十錢	一百二十	一百一十九	獄	無期流刑
一	三萬七千錢以上	六錢二厘(五毛)以下		一百二十圓	一百二十圓五十錢	一百二十一	一百二十	獄	無期流刑
一	三萬八千錢以上	六錢二厘(五毛)以下		一百二十一圓	一百二十一圓五十錢	一百二十二	一百二十一	獄	無期流刑
一	三萬九千錢以上	六錢二厘(五毛)以下		一百二十二圓	一百二十二圓五十錢	一百二十三	一百二十二	獄	無期流刑
一	四萬錢以上	六錢二厘(五毛)以下		一百二十三圓	一百二十三圓五十錢	一百二十四	一百二十三	獄	無期流刑
一	四萬二百錢以上	六錢二厘(五毛)以下		一百二十四圓	一百二十四圓五十錢	一百二十五	一百二十四	獄	無期流刑
一	四萬三千錢以上	六錢二厘(五毛)以下		一百二十五圓	一百二十五圓五十錢	一百二十六	一百二十五	獄	無期流刑
一	四萬四千錢以上	六錢二厘(五毛)以下		一百二十六圓	一百二十六圓五十錢	一百二十七	一百二十六	獄	無期流刑
一	四萬五千錢以上	六錢二厘(

明治十三年三月三十一日
第拾號布告

諸罰則ヲ犯シ罰金科料ニ處セラル、者處分法左ノ通相定候條此旨布告候事

一罰金科料ハ宣告ノ日ヨリ一月内ニ納完セシム若シ限内納完セサル者ハ壹圓ヲ一日ニ折算シ禁獄ニ換フ其壹圓以下ト雖モ仍ホ一日ニ計算ス

但算シテ禁獄二年以上ニ及ホスヲ得ス

一禁獄限内罰金科料ヲ納完シ又ハ親屬等代テ納完スル時ハ經過シタル日數ヲ扣除シテ禁獄ヲ免ス

一罰金科料ノ實決ノ刑ニ併科シタル時納完セサル者ハ刑期滿限ノ後例ニ照シテ禁獄ス

○諸罰則ヲ見届ケ訴出ル者科料罰金ノ半高給與方

明治十三年三月二十日
司法省內第壹號大審院 諸裁判所 檢事 檢事監カサル府縣へ通

諸罰則中違犯者ヲ見届ケ訴出ル者ハ其實トシテ科料又ハ罰金ノ半高ヲ給付スト之レアルハ其違犯者無力ニシテ科料又ハ罰金ノ全部ヲ完納スル能ハサル片ハ實地徵收セシ金高ノ半額ヲ給付スル儀ト心得ヘク此旨相達候事

但シ本文ニ抵觸セル從前ノ伺指令ハ總テ取消候事

○讒謗律
明治八年六月二十八日
第百拾號布告

讒謗律別冊之通被定候條此旨布告候事

(別冊)

刑法第百十七條第百十九條及第百二十五條第百三十一條
依リ取捨スニ

讒謗律

第一條 凡ソ事實ノ有無ヲ論セス人ノ榮譽ヲ害スヘキノ行事ヲ摘發公布スル者之ヲ讒毀トス人ノ行事ヲ舉ルニ非スノ惡名ヲ以テ人ニ加ヘ公布スル者之ヲ誹謗トス著作文書若クハ畫圖肖像ヲ用ヒ展觀シ若クハ發賣シ若クハ貼示シテ人ヲ讒毀シ若クハ誹謗スル者ハ下ノ條別ニ從テ罪ヲ科ス

第二條 第一條ノ所爲ヲ以テ乘輿ヲ犯スニ涉ル者ハ禁獄三月以上三年以下罰金五拾圓以上千圓以下 二罰并セ科シ或ハ偏ヘニ一罰ヲ科ス以下之ニ依ル

第三條 皇族ヲ犯スニ涉ル者ハ禁獄十五日以上二年半以下罰金拾五圓以上七百圓以下

第四條 官吏ノ職務ニ關シ讒毀スル者ハ禁獄十日以上二年以下罰金拾圓以上五百圓以下

第五條 華士族平民ニ對スルヲ論セス讒毀スル者ハ禁獄七日以上一年半以下罰金五圓以上三百圓以下

第六條 法ニ依リ檢官若クハ法官ニ向テ罪犯ヲ告發シ若クハ証スル者ハ第一條ノ例ニアルス其ノ故造誣告シタル者ハ誣告律ニ依ル

第七條 若シ讒毀ヲ受ルノ事刑法ニ觸ル、者檢官ヨリ其事ヲ糾治スルカ若クハ讒毀スル者ヨリ檢官若クハ法官ニ告發シタル時ハ讒毀ノ罪ヲ治ムルヲ中止シ以テ事案ノ決ヲ俟テ其ノ被告人罪ニ坐スル時ハ讒毀ノ罪ヲ論セス

若シ事刑法ニ觸レスノ單ヘニ人ノ榮譽ヲ害スル者ハ讒毀スルノ後官ニ告發スト雖モ

仍ホ讒毀ノ罪ヲ治ム

第八條 凡ソ讒毀誹謗ノ第四條第五條ニ係ル者ハ被害ノ官民自ラ告ルヲ待テ乃チ論ス

第二十一類 雜

第二百四十二章 一聖一元ノ詔書

明治元年九月八日布告

今般御即位御大禮被爲濟先例之通被爲改年號候就而ハ是迄吉凶之象兆ニ隨ヒ屢改號有之候得共自今御一代一號ニ被定候依之改慶應四年可爲明治元年旨被仰出候事

詔書

詔體太乙而登位膺景命以改元洵聖代之典型而萬世之標準也朕雖否德幸賴祖宗之靈祇承鴻緒躬親萬機之政乃改元欲與海內億兆更始一新其改慶應四年爲明治元年自今以後革易舊制一世一元以爲永式主者施行

戊辰九月八日

第二百四十三章 曆

明治五年十一月九日第三百三拾七號布告

今般改曆之儀別紙詔書ノ通被仰出候條此旨相達候事

(別紙詔書)

朕惟フニ我邦通行ノ曆タル太陰ノ朔望ヲ以テ月ヲ立テ太陽ノ躔度ニ合ス故ニ二三年間必ス閏月ヲ置カサルヲ得ス置閏ノ前後時ニ季候ノ早晚アリ終ニ推步ノ差ヲ生スルニ至ル殊ニ中下段ニ掲ル所ノ如キハ率子妄誕無稽ニ屬シ人知ノ開達ヲ妨ルモノ少シトセス蓋シ太陽曆ハ太陽ノ躔度ニ從テ月ヲ立ツ日子多少ノ異アリト雖モ季候早晚ノ變ナク四歲毎ニ一日ノ閏ヲ置キ七千年ノ後僅ニ一日ノ差ヲ生スルニ過キス之ヲ太陰曆ニ比スレハ最モ精密ニシテ其便不便モ固リ論ヲ俟サルナリ依テ自今舊曆ヲ廢シ太陽曆ヲ用ヒ天

二十年十二月
勅令第七
十六號ヲ以
テ出版條例
改正參看
第八十六
號

下永世之ヲ遵行セシメン百官有司其レ斯旨ヲ體セヨ

一今般太陰曆ヲ廢シ太陽曆御頒行相成候ニ付來ル十二月三日ヲ以テ明治六年一月一日ト被定候事

但新曆鏤板出來次第頒布候事

一一ヶ年三百六十五日十二ヶ月ニ分テ四年毎ニ一日ノ間ヲ置候事

一時刻ノ儀是迄晝夜長短ニ隨ヒ十二時ニ相分テ候處今後改テ時辰儀時刻晝夜平分二十

四時ニ定メ子刻ヨリ午刻迄ヲ十二時ニ分テ午前幾時ト稱シ午刻ヨリ子刻迄ヲ十二時

ニ分テ午後幾時ト稱候事

一時鐘ノ儀來ル一月一日ヨリ右時刻ニ可改事

但是迄時辰儀時刻ヲ何字ト唱來候處以後何時ト可稱事

一諸祭典等舊曆月日ヲ新曆月日ニ相當シ施行可致事

(新舊曆日比較及時刻表ハ畧之)

○頒曆及略曆出版

明治十五年四月廿六日
第八號布達

本曆并畧本曆ハ明治十六年曆ヨリ伊勢神宮ニ於テ頒布セシムヘシ

一枚摺略曆ハ明治十六年曆ヨリ何人ニ限ラス出版條例ニ準據シ出版スルコトヲ得

但明治九年十月内務省甲第三拾九號布達ハ取消ス

右布達候事

第二百四十四章

華族令

明治十七年七月七日
宮内省無號華族一般へ達

華族令左ノ通被 仰出候ニ付此旨相達候事

奉 勅

華族令

第一條 凡ソ爵ヲ授クルハ 勅旨ヲ以テシ宮内卿之ヲ奉行ス

第二條 爵ヲ分テ公侯伯子男ノ五等トス

第三條 爵ハ男子嫡長ノ順序ニ依リ之ヲ襲カシム女子ハ爵ヲ襲クコトヲ得ス但現在女

戸主ノ華族ハ將來相續ノ男子ヲ定ムルトキニ於テ親戚中同族ノ者ノ連署ヲ以テ宮内

卿ヲ經由シ授爵ヲ請願スヘシ

第四條 嗣今有爵者又ハ戸主死亡ノ後男子ノ相續スヘキ者ナキトキハ華族ノ榮典ヲ失

フヘシ

第五條 有爵者ノ婦ハ其夫ニ均シキ禮遇及ヒ名稱ヲ享ク

第六條 華族戸主ノ戸籍ニ屬スル祖父母、父母及妻及嫡長子孫及其妻ハ俱ニ華族ノ禮

遇ヲ享ク

第七條 本人生存中相續人ナシテ爵ヲ襲カシムルコトヲ得ス

但刑法又ハ懲戒ノ處分ニ由リ爵ヲ奪ヒ又ハ族籍ヲ削ラレ更ニ特旨ヲ以テ相續人ニ

授クル者ハ此例ニ在ラス

第八條 華族ノ戸籍及身分ハ宮内卿之ヲ管掌ス

第九條 華族及華族ノ子弟婚姻シ又ハ養子セントスル者ハ先ツ宮内卿ノ許可ヲ受クハ

第十條 華族ハ其子弟ヲシテ相當ノ教育ヲ受ケシムルノ義務ヲ負フヘシ

○第二百四十五章 證人並無罪解放ノ者等ノ旅費

日當支給方

明治九年五月四日
第六拾三號布告

明治七年(七月)第七拾八號同年(十一月)第百二十七號同八年(五月)第七十四號布告及同七年(七月)第九十一號同年(十一月)第百五十八號達ヲ廢シ証人並無罪解放ノ者等ノ旅費支給方ノ儀今般更ニ左之通相定當五月十六日ヨリ施行候條此旨布告候事

一 罪囚ノ証人タルヘキト思量シ裁判官又ハ警察官吏ニ於テ呼出ス者探索上ニテ捕ニ就キ及呼出テ受テ無罪ニ歸スル者人違又ハ官吏ノ其人名ヲ誤寫スル等ニテ呼出シタル者各官廳ヨリ呼出有罪ト認メ呼出サル、者ハ附添テ命スル者往復並滯留中左ノ通支給ヘスシ
九年第百三十二號布告ヲ以テ(裁判官)ノ下六字ヲ增補シ(及)ノ下三字ヲ刪除ス

但推糾ノ爲メ手鎖繩付等ニテ護送及檻倉入圍中等官費ヲ以仕賄ノ時日ハ別ニ給セ

金五拾錢
金三拾錢

旅費日當
滯留日當

一 該廳ヨリ片道二里以上十里迄ハ旅費日當一日分ヲ給シ爾餘一日十里詰ヲ以テ往返共之ヲ給シ滯在中ハ其日數ニ應シ滯留日當ヲ給スヘシ
十里以上ノ端里數一里ニ滿タサルハ切給トス一里以上ハ旅費日當一日分ヲ給ス
但片道二里以上滿五里迄ノ地ヲ一日間ニ往來スルル日當ハ一日分ノ外給セス尤二

里未滿ノ地ヨリ呼出セシモノハ辨當料金二錢五厘ヲ給ス
九年第百七號布告ヲ以テ但書ヲ增補ス
一 各裁判所及ヒ警察官吏ヨリ呼出テ受テ無罪ニ歸スルモノ人違又ハ官吏ノ其人名ヲ誤寫スル等ニテ呼出タルモノ旅費ハ其呼出シタル廳ヨリ之ヲ給ス其他ハ總テ本管廳留地ノ管轄廳ヨリ給スルニ付証人及附添テ命スル者等ノ如キハ問糾中ノ日數并ニ往復里程ヲ詳記シ其裁判官ノ証印ヲ請ケ旅費請取方ヲ申請スヘシ
九年第百三十二號布告ヲ以テ(各裁判所)ノ下割註ヲ除キ(及)ヒ警察官吏)ノ六字ヲ加ヘ(其呼出タル)ノ下(裁判所)及割註ヲ刪除シ(廳)ヲ加ヘ又同(年)第百五十一號布告ヲ以テ(無罪ニ歸スルモノ)ノ下(人違)云々ノ二十四字ヲ加フ

○刑事ニ付警察官ノ處分ニ屬スル費用支給方

明治十七年三月二十五日
內務省乙第十八號警視廳府縣東京府ヲ除クヘ達

刑事ニ付警察官ノ處分ニ屬スル費用之儀裁ニ指令又ハ訓示及ヒ置キ候次第モ有之處豫審判事ノ囑託ヲ受ケ豫審處分ヲ爲シタル場合ヲ除ク外ハ起訴ノ前後ニ拘ハラス裁判費用ニ相立タサル儀ニ付之ニ矛盾スル指令及ヒ訓示ハ都テ取消候條支給方ハ明治九年第六拾三號公布ニ據ル儀ト可心得此旨相達候事

第二百四十六章 本初子午線經度計算方及標準時

十九年七月十三日布告
勅令第五十一號

朕本初子午線經度計算方及標準時ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

內閣總理大臣伯爵伊藤博文

九年內務省
乙第百廿七
號布告ヲ以テ
警察官ノ處
分ニ依リテ
支給セシム
ル儀ヨリハ
支第百十九
章九項

明治十九年七月十二日

內務大臣 伯爵山縣有朋
陸軍大臣 伯爵大山 巖
海軍大臣 伯爵西郷從道
文部大臣 森 有禮
農商務大臣 伯爵西郷從道
逓信大臣 榎本武揚

勅令第五十一號

一 英國グリニツチ天文臺子午儀ノ中心ヲ經過スル子午線ヲ以テ經度ノ本初子午線トス
一 經度ハ本初子午線ヨリ起算シ東西各百八十度ニ至リ東經ヲ正トシ西經ヲ負トス
一 明治二十一年一月一日ヨリ東經百三十五度ノ子午線ノ時ヲ以テ本邦一般ノ標準時ト
定ム

第二百四十七章 內務報告例

十九年九月二十七日內務省令第十
七號 府縣憲兵本部集治監假留監

內務報告例別冊ノ通相定メ本年分ヨリ施行ス

但本例ニ矛盾スル從前ノ諸式ハ廢止ス

(別冊)

內務報告例

凡例

第一條 報告例ハ警視廳府縣廳及憲兵本部集治監假留監ニ於テ法律命令ヲ執行シ或ハ

權内ノ事務ヲ處分シタル事項ニ就キ緩急輕重ニ從ヒ報告スヘキ順序ヲ示スモノナリ

第二條 從前本省各局長ノ名ヲ以テ報告ヲ求メ來タリシ者アリト雖モ自今ハ一切本例
ノ式ニ循ヒ本省ニ報告スヘシ

第三條 報告ヲ分テ豫報即報月報季報半年報年報ノ六種トス但事倉卒ニ起リ瞬間モ閣
ク可ラサル者ハ固ヨリ此例外トス

第四條 豫報ハ將來日月ヲ期シテ舉行スヘキ者又ハ事變ノ兆候ヲ偵知シタル時之ヲ未
然ニ報スル者月報ハ每月季報ハ每三箇月半年報ハ每半年(會計年度ニ關スル者ハ上
下半年度ニ分ツ)年報ハ一箇年(會計年度ニ關スル者ハ一周年)ニ係ル事項ヲ報告ス
ル者トス

第五條 例目中部門ヲ分チ從前ノ即報ヲ月報ニ月報ヲ半年報若クハ年報ニ改ムル者ア
リ又之ニ反スルアリ各其定ムル所ニ依ルヘシ

第六條 報告書差出期限從前定期アル者ト否トヲ問ハス總テ例目ノ下欄ニ於テ指定シ
タル時日ニ於テ各地ヲ發送スル者トス但即報ハ即時即日若クハ事ヲ了シタル日ヨリ
三日以内ニ發送スヘシ

第七條 報告ノ料紙ハ他ノ文書ト混同セサル爲メ左ノ雛形ノ通墨線ノ罫紙ヲ用キ六種
ニ通用スヘシ

第八條 各報告ノ記載方一事件毎ニ紙頁ヲ改メ綴メテ一括トナシ目錄ヲ料紙ニ記シ添
付スヘシ

第九條 諸表ノ様式ハ各項ニ因リ大小廣狹アリ豫メ一定シ難シト雖モ成ルヘク美濃紙一葉ニ調製スルヲ要ス其短縮シ得ヘキ者ハ半葉ニ調製スヘシ但諸表諸圖面共編綴ノ爲メ四隅ニ餘白ヲ存ス可シ

第十條 様式ニハ横線ノミヲ示スモノト雖モ進達ノ表ニハ縦線ヲ加フヘキ者トス又登記スヘキ事項ナキ空欄アラハ「」ヲ填充シテ脱漏ニ非ラサルヲ證ス可シ

第十一條 諸表様式ハ已ニ頒布ノ者ト雖モ執務者ノ便ヲ圖リ茲ニ彙集シテ本例ニ編入ス若シ今後令訓ニ依リ原則ノ改正ニ係ルコトアル時ハ延テ本例ニ及フモノトス

第十二條 茲ニ示ス所ノ例目中從前ノ令訓ニ出ルモノ、外慣例ニ因リ或ハ特ニ報告ヲ要スルモノ等ニシテ其式ヲ設ケサルモノハ適宜調製ス可シ

第十三條 凡各廳ノ經費豫算決算等ニ關スル諸報告ハ別ニ定リタル規則ニ依準ス可シ

內務報告例目

豫報

第一 府縣會開設

第二 府縣會ニ發付スヘキ議案

即報

第一 管内布達諸件

第二 應府縣分課廢置

第三 郡區長委任條件

摘要

發送期日

明治十七年十二月五日坤庶第九一六號訓示

臨時府縣會及常置委員急施會決議諸件

第四 營業稅雜種稅課目課額

第五 府縣會閉場

第六 議長副議長改撰

第七 府縣會開設中景況

第八 地方ニ於テ定メタル違警罪目

第九 火藥類賣買營業免許並火藥庫設置許可

第十 銃砲賣買營業免許

第十一 囚人ノ特赦特典減等

第十二 集會條例違犯者處分

第十三 囚徒反獄越獄及逃走

第十四 假出獄停止

第十五 警察署諸裁判所等ノ位置ノ圖面

第十六 國庫ノ補助ヲ要スル土木工事落成

第十七 國縣道竣功

第十八 傳染病流行ノ徵候

第十九 遊病院ノ開設

第二十 檢疫委員ノ設置

十三年第十七號布告第八條及十三年十二月乙第七三號內藏違

十三年四月第十五號布告府縣會規則第十一條

十四年八月第七十七號公達

十八年一月第一號公達第一項

五年正月第二十八號布告

十四年十月第八十一號公達監獄則第廿五條及第五十八條

十三年五月六日番外達

十七年四月四日內達

十八年九月司法省丙第七號

十五年二月乙第十號達

十八年三月土丁第三號達

十九年五月省令第四號

十九年三月省令第一號第十八項

同 上第十九項

第二十二 警察警察廳舍建築
修繕費豫算議決額

月報

十五年十月乙第五十六號達

第一 新聞紙(雜誌)發行高

十六年五月十日訓示

翌月十日

第二 在監人月末現在

十九年五月省令第七號

翌月十五日

第三 官沒地

十八年二月外第一七三號及同年
十二月發第三三七號地理局長通
知

翌月十日

第四 季報 廳府縣ヨリ徒流刑禁獄
及懲役終身囚徒收監簿

十八年九月司法省丙第七號十七
年九月十五日假留監へ達

翌月五日

第一 土地增減

十九年三月省令第一號第五、第
八、第九、第十、第十一、第十二、第十四、
第十七、第十八、第十九、第二十、第二十一、
第二十二、第二十三、第二十四、第二十五、
第二十六、第二十七、第二十八、第二十九、
第三十、第三十一、第三十二、第三十三、
第三十四、第三十五、第三十六、第三十七、
第三十八、第三十九、第四十、第四十一、
第四十二、第四十三、第四十四、第四十五、
第四十六、第四十七、第四十八、第四十九、
第五十、第五十一、第五十二、第五十三、
第五十四、第五十五、第五十六、第五十七、
第五十八、第五十九、第六十、第六十一、
第六十二、第六十三、第六十四、第六十五、
第六十六、第六十七、第六十八、第六十九、
第七十、第七十一、第七十二、第七十三、
第七十四、第七十五、第七十六、第七十七、
第七十八、第七十九、第八十、第八十一、
第八十二、第八十三、第八十四、第八十五、
第八十六、第八十七、第八十八、第八十九、
第九十、第九十一、第九十二、第九十三、
第九十四、第九十五、第九十六、第九十七、
第九十八、第九十九、第一百號

十四月十日

第二 土地貸渡

同上

第三 地種目變換

同上

第四 傳染病患者

十九年五月省令第四號

同上

第五 同上在監人患者

同上

同上

半年報

第一 新聞紙雜誌開廢業及定期變更

七月二十日

第二 廳府縣官及郡區町村吏

同上

第三 地方事務並ニ管内ノ景況

同上

第四 河川港灣土木竣功

八年一月乙第四號達

同上

第五 國縣道道幅取擴落成

十九年三月省令第一號

同上

第六 中毒

十一年十二月乙第八十八號達

同上

第七 社寺ノ改稱及移轉廢合

十一年九月乙第五十七號達

七月卅一日

第八 官社社入金遺拂並
豫備蓄積金處分

十八年五月甲第十六號達

同上

第九 官社社不用ノ建物古材賣却處分
器品新調修繕處分

同上

同上

第十 官社社營建物改造修繕處分

同上

同上

第十一 官社社寄附物品處分

同上

同上

第十二 官社社廢合跡建物處分
官社社官派出
京發病歸省處分

同上

同上

第十三 社寺什物祠堂金處分

同上

同上

第十四 社寺有地境內木竹伐採及社寺
民有地境內ノ紀念碑建設處分

同上

同上

第十五 社寺明細帳ノ異動

十二年六月乙第三十一號達
取調心得第十一項

同上

二十五年五月
內務省訓令
第三十三號
第九項ハ差
出ニ及ハス

第十三項全
上

第二十一類 雜

十

第十八	離末本寺換	十一年二月乙第八號達	同	上
第十九	社寺創立再興復舊建築火災	十五年十一月乙第五十九號達 ノ後半	同	上
第二十	同上建設延期	十九年三月省令第一號第四項	同	上
第二十一	社寺由緒アル地所建物處分	同	同	上
年報				
第一	戶口表	十九年五月省令第三號	同	三月二十日
第二	人口出入表	同	同	上
第三	本籍人族別表	同	同	上
第四	本籍生年別人口表	同	同	上
第五	本籍出生死亡及婚姻表	同	同	上
第六	市街及島嶼現住人出生死亡表	同	同	上
第七	就除籍送入籍及逃亡失踪表	同	同	上
第八	耕作及捕魚採藻業戶數表	同	同	上
第九	賞與施行表	十八年二月 內農甲第三十八號達	同	每六年 三月二十日
第十	死亡者年齡區分表	十八年十月 甲第三十三號達	同	二月二十日
第十一	濟貧恤窮施行表	十五年十一月 乙第六十二號達	同	四月二十日
第十二	行旅死亡人埋葬表	十五年十一月 乙第六十一號達	同	二月二十日
第十三	棄兒并養育費	十六年五月 乙第二十三號達	同	四月二十日

第十四	通常府縣會決議諸件	同	同	一月卅一日
第十五	地方稅一周年度出納決算	十三年第十六號布告第七條	同	十一月卅日
第十六	備荒貯蓄金總出納精算	十三年十一月乙第七十二號達	同	二月二十日
第十七	區町村費收支取調	內藏乙第三十八號	同	翌年度末
第十八	府縣會議員選舉被 撰舉權ヲ有スル者	十八年九月 甲第二十九號達	同	四月二十日
第十九	地方稅ノ經濟ニ於テ土 地建物ノ買上及拂下	乙第六十號達	同	二月二十日
第二十	府縣官舎ノ内官宅警察 署林區役所等ノ建築	十九年三月 省令第一號第十四項	同	同
第二十一	警察區畫及配置官吏	十九年五月 省令第七號	同	同
第二十二	盜難及盜難物	同	同	同
二十三	盜難物發見ノ事由及品目	同	同	同
第二十四	火災	同	同	同
第二十五	變死及棄兒	同	同	同
第二十六	自殺者ノ年齡及因由	同	同	同
第二十七	自殺者ノ所爲	同	同	同
第二十八	殺害セラレシ者ノ因由	同	同	同
第二十九	賭博犯ノ件數及人員	十九年五月 省令第七號	同	二月二十日
第三十	賭博犯處罰人ノ懲罰及過料	同	同	同
第三十一	賭博犯處罰人ノ犯數及年齡	同	同	同

第三十二	就捕犯罪人員	同	同
第三十三	救護	同	同
第三十四	監視人員	同	同
第三十五	取締ニ關スル諸營業	同	同
第三十六	娼妓貸座敷業及 密賣淫者ノ處罰	同	同
第三十七	警察上ニ死傷セシ人員	同	同
第三十八	警察上ノ褒賞及給助	同	同
第三十九	監獄吏及雇	同	同
第四十	某(監獄)在監有籍者ノ 府縣及無籍者ノ年齡 未決者ノ出入及 在監前延人員 已決囚ノ出入及 在監前延人員 刑名ニ對スル已決囚 出監時選善ノ狀況 已決囚出監時選善ノ 狀況及年齡等ノ關係	同	同
第四十一	在監人ノ作業	同	同
第四十二	懲治者ノ出入及 在監前延人員 新入懲治者ノ入場度 數及年齡等ノ關係 懲治者出監時選善ノ狀 況及工技學藝ノ進否 別房留置者及携帶 乳兒ノ出入延人員	同	同
第四十三	同	同	同
第四十四	同	同	同
第四十五	同	同	同
第四十六	同	同	同
第四十七	同	同	同
第四十八	同	同	同
第四十九	同	同	同

第六十六年
一月一號
省訓
第一項
以令第四號
及自今
告ニ及
ハス報

第五十	在監人ノ賞與及懲罰	同	同
第五十一	在監人ノ死亡	同	同
第五十二	在監人工錢ノ收入及給與	同	同
第五十三	請願巡查費用收支	同	同
第五十四	火藥營業者ノ賣買 シタル種類數量	十四年四月 乙第二十二號達 十八年一月 第一號公達第二項	十一月卅日
第五十五	土木工費總計表	十九年二月 甲第二號達 十五年九月 乙第四十九號達	九月二十日
第五十六	風水害表	十九年三月 省令第三號	十月二十日
第五十七	種痘明細表	同	四月二十日
第五十八	醫事及娼妓徵毒檢查表	同	同
第五十九	阿片賣買特許藥舖鑑札下付	十九年三月 省令第一號第十五項	同
第六十	阿片製造鑑札下付	同上第十六項	同
第六十一	劇藥配伍ノ賣藥許否	同上第十七項	同
第六十二	土地ニ關スル收入未收入	十四年二月乙第十一號達普通官 有地ニ屬スル收入總計及十九年 八月農商務省訓令第十三號達	同
第六十三	外國人貸地收入未收入	同	同
第六十四	神社并神官	十八年六月乙第三十三號及 十八年七月甲第二十三號達	二月二十日
第六十五	寺院佛堂并住職	同	同
第六十六	社寺官有地境內木竹伐採數	同	同
第六十七	古社寺保存資金下付ノ監護	時々ノ訓令ニ依ル	十二月廿日

報 月		號 一 第	
某新聞紙(雜誌)發行高要保(不要保)證(證)金(明治 年何月分) 應 名			
配 布 先	何 國	在 外 國 本 邦 人	
		計	外 國 人
配 布 高	發 賣 高	合 計	
		計	外 國 人
價 金 高	應 名	合 計	
		計	外 國 人

一本表ハ毎種ニ就キ一表ヲ製スヘシ
 一本表中何國トアル項ニハ本邦内配布及發賣先ノ國々ヲ記入スヘシ
 一配布ノ項ニハ發賣セスシテ單ニ同社員ニ配布スルモノ及無代價ニテ當省其他檢

事局等ニ納付スルモノヲ記入スヘシ
 一價金ハ厘位ニ止ム

報 月		號 二 第	
在 監 人 月 末 現 在 (明 治 年 何 月) 應 名			
刑 名	合 計	未 決 者 (前 月 ヨリ ノ 者 本 月 入 ノ 者)	
		無 期 徒 刑	有 期 徒 刑
刑 名	合 計	舊 刑	
		無 期 徒 刑	有 期 徒 刑
刑 名	合 計	拘 留	
		無 期 徒 刑	有 期 徒 刑
刑 名	合 計	輕 懲 役	
		無 期 徒 刑	有 期 徒 刑
刑 名	合 計	重 懲 役	
		無 期 徒 刑	有 期 徒 刑
刑 名	合 計	有 期 徒 刑	
		無 期 徒 刑	有 期 徒 刑
刑 名	合 計	無 期 徒 刑	
		無 期 徒 刑	有 期 徒 刑
刑 名	合 計	輕 懲 役	
		無 期 徒 刑	有 期 徒 刑
刑 名	合 計	重 懲 役	
		無 期 徒 刑	有 期 徒 刑
刑 名	合 計	有 期 徒 刑	
		無 期 徒 刑	有 期 徒 刑
刑 名	合 計	無 期 徒 刑	
		無 期 徒 刑	有 期 徒 刑
刑 名	合 計	輕 懲 役	
		無 期 徒 刑	有 期 徒 刑
刑 名	合 計	重 懲 役	
		無 期 徒 刑	有 期 徒 刑
刑 名	合 計	有 期 徒 刑	
		無 期 徒 刑	有 期 徒 刑
刑 名	合 計	無 期 徒 刑	
		無 期 徒 刑	有 期 徒 刑

懲役終身
 懲役十年以下
 閏刑禁獄終身
 閏刑禁獄十年以下
 國事犯禁獄五年以上
 國事犯禁獄十日以上

拘 留
 科料ヨリ換ヘシ拘留

報 季		號 四 第		國 名		郡 區 名		流 行 經 過		有 病 者		死 亡	
某 國	某 國	某 郡	某 區	發 行 日 數	町 村 數	戶 數	人 口	患 者	死 亡	傳 染 病 患 者 (明 治 年 第 何 季)			
				自 何 月 何 日 至 何 月 何 日						一 官 沒 地 及 土 地 增 減 ノ 部 ニ 記 載 シ タ ル モ ノ ハ 本 表 ニ 記 載 ナ 要 セ ス 即 ち 官 有 地 或 ハ 民 有 地 相 互 ノ 地 種 目 變 換 ナ 掲 ク ル モ ノ ト ス 但 民 有 地 第 一 種 中 ノ 地 目 變 換 ハ 記 載 ナ 要 セ ス			
										應 名			
合 計													

報 季		號 三 第		地 名		官 有 地 ノ 部		地 種 目 變 換 (明 治 年 第 何 季)		應 名	
合 計	合 計	舊 地 種 名	新 地 種 名	段 別 (坪)	變 換 月 日	事 由	一 官 沒 地 ノ 部 ニ 記 載 シ タ ル モ ノ ハ 本 表 ニ 記 載 ナ 要 セ ス				
		地 方 稅 經 濟 ニ 屬 ス ル 土 地 ノ 部									
		民 有 地 ノ 部									
合 計											

街

一現住戸數ノ欄ニハ本籍ナル者ト本籍ナラサル者ト又戸主タル者ト戸主タラサル者トヲ問ハス渾テ其地ニ現住シテ一世帯ヲ爲ス竈數ヲ記入スヘシ但官舎社寺學校病院製道所等ノ構内ニ居住スルモ別ニ一竈ヲナス者ハ亦一戸トシテ之ヲ記入スヘシ

一再掲市街ノ欄ニハ本籍人口一萬以上アル地及本籍人ヲ本トシ次表ノ出ヲ除キ入ヲ加ヘテ現住人口凡一萬以上アル地ノ本籍人並ニ現住戸數ヲ掲クヘシ但區ノ名稱アル市街ハ再掲スルニ及ハス

人口出入表 (明治 年十二月三十一日現在)

應 名

報 年	第 二 號				郡 區 役 所 名	出		入	
	外 國 行 留	管 外 へ 出 寄 留	管 内 へ 出 寄 留	陸 海 軍 在 營 卒		逃 亡 失 踪	管 外 へ 入 寄 留	管 内 へ 入 寄 留	
合 計									

再掲市街

- 一 一郡役所ニシテ二郡以上ヲ管轄スルモノハ之ヲ合算シテ一欄内ニ記入スヘシ
- 一 外國行ノ欄ニハ外國ニ滞在スル者又管外へ出寄留ノ欄ニハ他府縣ニ出テ住スル者又管内へ出寄留ノ欄ニハ一府縣内ノ他郡區役所管内ニ出テ住スル者ヲ記入スヘシ但陸海軍在營艦ノ現役卒ハ之ヲ算入セス
- 一 監獄ニ在ル囚人ハ本籍地ニ於テ之ヲ出寄留ニ算入スヘシ
- 一 陸海軍在營卒ノ欄ニハ陸海軍ノ徵兵又ハ志願兵トナリテ現ニ在營在艦スル者ヲ記入スヘシ但歸休兵ハ算入スヘカラス
- 一 逃亡失踪ノ欄ニハ數年前ヨリ本年十二月三十一日迄ニ逃亡失踪シタル者ノ現數ヲ記入スヘシ
- 一 管外ヨリ入寄留ノ欄ニハ他府縣ヨリ本郡區役所管内ニ來テ住スル者又管内ヨリ入寄留ノ欄ニハ一府縣内ノ他郡區役所管内ヨリ來テ住スル者ヲ記入スヘシ
- 一 再掲市街ハ前表ニ掲ケタル市街ヲ云但此市街出入ノ調査ハ他府縣他郡區ノ出入寄留ヲ記載スルハ勿論同郡内ト雖モ其市街ノ域外ニ出テ住スル者ハ管内出入寄留トナシ市街ノ域外ヨリ來テ住スル者ハ管内入寄留トナシテ記入スヘシ

幼弱	
合計	

一現在人員ハ毎年十二月三十一日ノ現在數ヲ登記スヘシ
 一救助米及ヒ同上代價ノ欄ニハ本年中支給ノ金額ト之レニ充タル米額トヲ記載スヘシ

行旅死亡人埋葬表 (明治年)

遺金	埋葬費	合計	私費	公費	事故	病死	死變	死合	計	應名
			本籍詳ナル者 本籍詳ナラサル者	本籍詳ナル者 本籍詳ナラサル者						

報年 號二十第

報年

一行旅死亡人取扱規則第二條後段ニ依リ支辨シタルモノハ其人員費金トモ本籍地方ノ表ニ記載ス可シ
 一規則第三條本籍氏名詳ナラサルモノ、事柄ハ公告後九十日經過ノ上ニテ登記スヘシ
 一規則第五條ニ依リ官没シタルモノハ遺金ノ欄ニ記入ス可シ

乘兒並養育費 (明治年)

應名

費途	官費	公費	私費	合計	前年末ノ現員	入	出	本年末ノ現員	養育米支給 延人員	養育費 石高	石代金
					乘兒並養育費						

報年 號三十第

一出入ノ目ニハ調査期限内ニ他管ヨリ轉入又ハ他管へ轉出若クハ死亡ニ係ルモノヲ登記ス可シ
 一表中官費トハ國庫ヨリ養育料支出スルモノ、公費トハ地方稅區町村費ヲ以テ官費ヲ補助スルモノヲ云フ

府縣會議員選舉被選舉權ヲ有スル者 (明治 年十二月三十一日現在) 廳 名

族籍	郡		區		合計
	計平士華 民族族	計平士華 民族族	計平士華 民族族	計平士華 民族族	計平士華 民族族
地租五圓以上ヲ納ムル者	選舉權ヲ有セサル者	選舉權ヲ有セサル者	合計	被選舉權ヲ有スル者	被選舉權ヲ有セサル者
地租十圓以上ヲ納ムル者	合計	合計	合計	合計	合計
議員 常置委員					

一選舉權ヲ有セサル者トハ府縣會議規則第十四條並同條ノ各款ニ被選舉權ヲ有セサル者トハ同規則第十三條並同條ノ但書ニ觸ル、者ヲ云フ

警察區畫及配置官吏 (明治 年十二月三十一日現在) 廳 名

署名	所在		距離	所轄	派出		現員	吏員
	郡區	國			所交	番所		

號一十二第

報 年

警察本署	某警察署		町村 本署警察 署へ 名郡區	町數 村數 戶數 現在 人口	長警 部並 巡查 合計	長警 部並 巡查 合計
	某分署	某分署				

一本表ハ各署ニ配置セル人員ノ内警視警部長警部警部補及巡查ノ數ノミヲ記入シ
雇等ノ人員ハ記入ヲ要セス

盜難及盜難物 (明治 年) 廳 名

一 月次	盜		難		貨幣	其他	合計
	家船人	家船人	人	貨幣			

號二十二第

報 年		號五十二第							
七	六	五	四	三	二	一	月	變死及棄兒 (明治年)	應 名
月	月	月	月	月	月	月	次		
								自殺	
								殺害	
								誤死	
								天災	
								獸害及途 蟲毒發病	
								上	
								飢餓	
								不詳	
								合計	
								男	
								女	
								合計	
								兒	

一軒數ハ住家ナレハ一竈ヲ以テ一軒ト算シ學校病院寺院等ナレハ一構ヲ以テ一軒ト算ス可シ但一構ノ内一棟又ハ二棟燒失セシモ尙一軒ニ算ス可シ

合 計	十 二 月	十 一 月	十 月

報 年		號四十二第									
九	八	七	六	五	四	三	二	一	月	火災 (明治年)	應 名
月	月	月	月	月	月	月	月	月	次		
										失火ノ度數	
										放火ノ度數	
										雷火及不審 火ノ度數	
										延燒セシ 度數	
										延燒セサ リシ度數	
										計	
										軒數	
										建坪	
										燒失及延燒セシ	
										計	

盜犯ヲ取糺セシ
ニヨリ
自首セシニヨリ
何々ニヨリ

號十三第

報年

號九十二第

懲罰過料	賭博犯處罰人ノ懲罰及過料 (明治年)	未決	本年間ノ 死逃放處 七亡免罰	合計	前年末ノ殘數	本年ノ數	類別		合計	不詳
							件數	人員		
男	應名						男			
女							女			
合計							合計			

第二十一類 雜

六十一

懲罰過料

賭博犯處罰人ノ懲罰及過料 (明治年)

賭博犯處分規則第一條前項ニ相當セシ者及博徒ノ招結ニ應セシ者

懲罰過料

賭博犯處分規則第一條後項ニ相當セシ者及博徒ノ招結ニ應セシ者ヲ除ク

應名

未決

本年間ノ
死逃放處
七亡免罰

合計

前年末ノ殘數

本年ノ數

類別

件數

男

人

女

合計

員

賭博犯ノ件數及人員 (明治年)

應名

合計

不詳

報年

號八十二第

因由	殺害セラレシ者ノ因由 (明治年)	合計			
			男	女	合計
例ハハ 押入シ盜賊ニ 途上ニテ盜賊ニ 盜賊ヲ捕ヘントシテ 捕ヲ拒ミシニヨリ 暴行人ニ 怨恨ニヨリ 痴情ニヨリ 過失ニテ 何々ニヨリ					

六十

年		號二十三第		報 年	
就捕犯罪人員 (明治 年)	罪 狀	二十年以上三十年未滿	合 計	二十年以上三十年未滿	二十年以上三十年未滿
		三十年以上四十年未滿			
應 名	現 行 犯	四十年以上五十年未滿	合 計	四十年以上五十年未滿	四十年以上五十年未滿
		五十年以上六十年未滿		五十年以上六十年未滿	五十年以上六十年未滿
應 名	准 現 行 犯	六十年以上	合 計	六十年以上	六十年以上
應 名	非 現 行 犯		合 計		
應 名	計		合 計		
應 名	自 首		合 計		
應 名	合 計		合 計		

年		號一十三第		報 年	
賭博犯處罰人ノ犯數及年數 (明治 年)	年 齡	一月以上	合 計	一月以上	一月以上
		五十年以上		五十年以上	五十年以上
應 名	初 犯	五十年以上	合 計	五十年以上	五十年以上
應 名	再 犯		合 計		
應 名	三 犯		合 計		
應 名	四 犯 以 上		合 計		
應 名	合 計		合 計		

報

號三十三第

年

貨幣偽造ニ關スル者	同
盜警罪ヲ犯セシ者	同
監視規則ヲ犯セシ者	同
賭博セシ者	同
犯則者 <small>(其稅ニ係ル)</small>	同
其他ノ犯罪者	同
總計	同

救護 (明治年)

廳名

種目	警察官吏	人民	吏民協力	合計
盜難ニ罹ラントセシ人				
殺サレントセシ人				
及傷セラントセシ人				
變死セラントセシ人				
合計				

一本表ハ逮捕上甲乙ノ地方ニ相牽連スル場合ハ犯人ノ捕ニ就キシ地方ニ於テ登記スルモノトス

一二罪以上俱發ノ者アルモノ一罪ノ方ニノミ登記スヘシ

報

號四十三第

年

及傷セシ人	
失火放火及延焼ヲ	
消止メシ家	
迷兒	
途上ニテ發病セシ人	
合計	

一本表ハ此ニ設ケタル種目ノ外ハ登記ヲ要セス

監視人 (明治年)

廳名

移動	重罪	輕罪	免主刑	重罪	輕罪	合計
	男	女	男	女	男	
前年末日ノ現員						
本年間						
合計						

本年間
他府縣ヨリ入
住セシ者其他
計

前年末日ノ現員
新ニ執行セシ
者ニ執行セシ
計

滿期ニナリシ
他府縣へ出住
セシ者
執行中犯罪ニ

報年

號六十三第

種目	娼妓	貸座敷	引手茶屋	私娼	同窩主	同媒合	同容止
	過料	苦使	並過料苦使	合計	換シテ苦使ニ	停止	營業
應名							

娼妓貸座敷業及密賣淫者ノ處罰 (明治年)

應名

質屋
兩換屋
古道具屋
時計屋

合計							
----	--	--	--	--	--	--	--

報年

號五十三第

業名	例へハ	旅人宿	貸座敷	雇人請宿	寄席	湯屋	待合茶屋	劇茶場	同屋
	開業	本年	開業	本年	開業	本年	開業	本年	開業
業名	角行	同行	併優	藝妓	何々				
應名									

取締ニ關スル諸營業 (明治年)

應名

本年間
ヨリ刑ヲ受ケ
シ者
監視規則ニ
違反者(逃
亡セシ者ヲ
除ク)
逃亡セシ者
死亡セシ者
其他

本年末日ノ現員									
---------	--	--	--	--	--	--	--	--	--

第二十一類 雜

六十七

六十六

報 年		號五									
名	稱	河	川	灣	港	道		路		橋	
						國	縣	合	合	國	縣
名	稱	某川流域	某	某	某	合	合	合	合	合	合
地方稅	區町村費	篤志金	計	計	計	計	計	計	計	計	計

新築變換ノ部

土木工費總計表 (明治 年度)

應 名

一 收入ノ欄ニハ工錢全額内ヨリ給與錢ヲ引去リタルモノヲ掲クヘシ
 一 拘留ニ處セラレ及罰金ヲ輕禁錮ニ換ヘラレタル囚徒ヲ便宜警察署ノ留置場ニ拘
 禁シタルトキハ末項ニ其署名ヲ掲クヘシ

合 計	某 某	監獄若クハ署		在監人工錢ノ收入及給與 (明治 年度)		應 名
		收 入	給 與	定 役	未 決 者 及 定 役 不 論 罪 及 情 願	
	(監獄) (監獄)			囚	ニ服セサル囚	別房留置者
				收 入	給 與	合
				計	計	計

